２０２３年度

講　義　要　項

健　康　ス　ポ　ー　ツ
コミュニケーション学科

西日本短期大学

健康スポーツコミュニケーション学科　1年次開講科目

区分	授業科目	開講期	ナンバリング	担当者(●：実務家教員)			
基礎	心理学	後期	5-B1FE01	小川　茜			
基礎	情報処理演習Ⅰ	前期	5-B1SE02	川原口　久爾			
基礎	情報処理演習Ⅱ	後期	5-B1FE03	小川　茜			
基礎	キャリア演習ＩＡ	前期	5-B1SR04	高木　富士男	小川　茜		
基礎	キャリア演習ＩＢ	後期	5-B1FR05	高木　富士男	小川　茜	坂元　瑞貴	
基礎	総合演習ＩＡ	前期	5-B1SR06	星子　和夫	高木　富士男	小川　茜	
基礎	総合演習ＩＢ	後期	5-B1FR07	星子　和夫	高木　富士男	小川　茜	
基礎	スポーツ学入門	前期	5-B1SR08	星子　和夫	高木　富士男	小川　茜	
専門	解剖生理学	前期	5-S1SE01	星子　和夫			
専門	発育発達論	前期	5-S1SE02	●田代　利康			
専門	体力学	前期	5-S1SE03	星子　和夫			
専門	救急処置法演習	前期	5-S1SE04	重森　裕			
専門	健康教育学	前期	5-S1SE05	坂元　瑞貴			
専門	運動生理学	後期	5-S1FR06	西内　久人			
専門	トレーニング論	後期	5-S1FR07	高木　富士男			
専門	機能解剖学	後期	5-S1FE08	●藤木　賢二			
専門	スポーツ栄養学	後期	5-S1FE09	●荒川　優子			
専門	スポーツ傷害論	後期	5-S1FE10	●田村　有深歩			
専門	スポーツ指導論	後期	5-S1FE11	坂元　瑞貴			
専門	労働法規	後期	5-S1FE12	大谷　美咲			
専門	レクリエーション活動援助法ＩＡ	前期	5-S1SE13	●原田　弘美			
専門	運動遊び	後期	5-S1FE14	小川　茜			
専門	レクリエーション活動援助法ＩＢ	後期	5-S1FE15	星子　和夫			
専門	トレーニング演習	前期	5-S1SE16	●河村　茂			
専門	パラスポーツ実技	前期	5-S1SE17	高木　富士男			
専門	パラスポーツ論	後期	5-S1FR18	高木　富士男			
専門	障害者福祉論	前期	5-S1SE19	●東嵩西　謡平			
専門	ラケットスポーツ	前期	5-S1SE20	坂元　瑞貴			
専門	球技スポーツⅠ	前期	5-S1SE21	高木　富士男	坂元　瑞貴		
専門	球技スポーツⅡ	後期	5-S1FE22	●山野　明			
専門	フィットネスプログラム演習	後期	5-S1FE23	●平塚　泉			
専門	マリンスポーツ	前期	5-S1SE24	星子　和夫	坂元　瑞貴		
専門	スポーツ企業情報演習	前期	5-S1SR25	高木　富士男	坂元　瑞貴		
専門	スポーツボランティア演習Ⅰ	前期	5-S1SR26	星子　和夫	高木　富士男	小川　茜	
専門	スポーツボランティア演習Ⅱ	後期	5-S1FR27	星子　和夫	高木　富士男	小川　茜	
専門	スポーツ企業実習Ⅰ	後期	5-S1FE28	星子　和夫	高木　富士男	小川　茜	

健康スポーツコミュニケーション学科　2年次開講科目

区分	授業科目	開講期	ナンバリング	担当者(●：実務家教員)			
基礎	英語Ⅰ	前期	5-B2SE01	西村　紀子			
基礎	英語Ⅱ	後期	5-B2FE02	西村　紀子			
基礎	キャリア演習Ⅱ	前期	5-B2SR03	高木　富士男	小川　茜		
基礎	健康スポーツ論	後期	5-B2FR04	星子　和夫			
専門	スポーツ心理学	前期	5-S2SE01	小川　茜			
専門	スポーツ社会学	前期	5-S2SE02	小川　茜			
専門	スポーツバイオメカニクス	前期	5-S2SE03	●藤木　賢二			
専門	スポーツと法	前期	5-S2SE04	岸田　優			
専門	生涯スポーツ論	後期	5-S2FE05	高木　富士男			
専門	コーチング論	前期	5-S2SE06	坂元　瑞貴			
専門	労働安全衛生法	前期	5-S2SE07	●吉田　明文			
専門	公衆衛生学	前期	5-S2SE08	●中尾　由美			
専門	労働衛生学	後期	5-S2FE09	●中尾　由美			
専門	幼児体育論	前期	5-S2SE10	小川　茜			
専門	幼児体育演習	前期	5-S2SE11	●橋本　潔			
専門	子どもの身体表現	前期	5-S2SE12	●石見　香			
専門	レクリエーション活動援助法Ⅱ	後期	5-S2FE13	星子　和夫			
専門	キッズスポーツ指導演習	後期	5-S2FE14	小川　茜			
専門	ジュニアスポーツ指導員特講	後期	5-S2FE15	小川　茜			
専門	医学一般	前期	5-S2SE16	重森　裕			
専門	運動処方概論	前期	5-S2SE17	星子　和夫			
専門	測定評価法	前期	5-S2SE18	坂元　瑞貴			
専門	コンディショニング演習	前期	5-S2SE19	●大村　詠一			
専門	リハビリテーション論	後期	5-S2FE20	●田村　有深歩			
専門	テーピングマッサージ演習	後期	5-S2FE21	●片井　忠			
専門	健康運動実践指導演習Ⅰ	後期	5-S2FE22	高木　富士男			
専門	健康運動実践指導演習Ⅱ	後期	5-S2FE23	星子　和夫			
専門	グループフィットネス指導演習	前期	5-S2SE24	高木　富士男			
専門	エアロビックダンスⅠ	前期	5-S2SR25	●大村　詠一			
専門	エアロビックダンスⅡ	後期	5-S2FE26	●荒川　優子			
専門	パラスポーツ演習	前期	5-S2SE27	高木　富士男			
専門	障害者福祉論	前期	5-S2SE28	●東嵩西　謡平			
専門	アクアエクササイズ	前期	5-S2SE29	星子　和夫			
専門	水泳コーチ法実習	前期	5-S2SE30	星子　和夫			
専門	水泳コーチ論	後期	5-S2FE31	星子　和夫			
専門	水泳コーチ法演習	後期	5-S2FE32	星子　和夫			
専門	スポーツ企業実習Ⅱ	前期	5-S2SE33	星子　和夫	高木　富士男	小川　茜	
専門	ゼミナール	通年	5-S2YR34	星子　和夫	高木　富士男	小川　茜	
専門	卒業研究	後期	5-S2FR35	星子　和夫	高木　富士男	小川　茜	

＜ナンバリングについて＞

カリキュラムの体系性を示すため、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表したものです。

■学科コード　1 ビジネス法学科　2 緑地環境学科　3 社会福祉学科　4 保育学科
5 健康スポーツコミュニケーション学科　6 メディア・プロモーション学科

■科目区分　B 基礎科目　S 専門科目　P 実務科目　Q 資格科目

■開講期　1 一年次科目　2 二年次科目
S 前期科目　F 後期科目　Y 通年科目

■必修・選択　R 必修　E 選択

■科目ナンバー　二桁の数字

（例）「心理学」の場合

学科コード	科目区分	開講期	必修・選択	科目ナンバー
5	B	1F	E	01

1 年 前 期

《基礎科目》

科目名	情報処理演習Ⅰ				
担当者氏名	川原口　久爾				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》

1. Word/Excel/PowerPointの機能を把握し、基本的な操作ができるようになる。
2. Word/Excel/PowerPointを使用して必要な資料等を時間内に作成できるようになる。

《授業の到達目標》

1. Wordで、文字の入力から文書の新規作成、既存の文書の編集、印刷まで一連の操作を習得できる。
2. Excelで表作成、データ入力、計算式や関数を使用した計算、グラフの作成まで一連の操作を習得できる。
3. PowerPointでスライドの作成、スライドの操作、効果的な表現まで一連の操作を習得できる。

《成績評価の方法》

実技試験40%
課題40%
その他（態度・取組等）20%

《教科書》

情報リテラシーアプリ編 Windows10/Office2019対応（FOM出版）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

1. 教科書等の問題を課題とする。
2. 課題を印刷もしくはメールにて提出をする。
3. 採点をし返却する。
4. 返却後、フィードバックとやり直しをする。

《成績評価基準》

授業で提出した課題・実技試験の結果・内容と授業への取り組む姿勢等から総合的に評価する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	文書作成編 STEP1・STEP2・STEP3	シラバス確認・文書作成編 STEP1・STEP2・STEP3の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
2	文書作成編 STEP4・STEP5・練習問題1	文書作成編 STEP4・STEP5・練習問題1の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
3	文書作成編 練習問題2・練習問題3	文書作成編 練習問題2・練習問題3の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
4	プレゼンテーション編 STEP1・STEP2	プレゼンテーション編 STEP1・STEP2の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
5	プレゼンテーション編 STEP3・STEP4	プレゼンテーション編 STEP3・STEP4の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
6	プレゼンテーション編 STEP5・STEP6・練習問題1	プレゼンテーション編 STEP5・STEP6・練習問題1の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
7	プレゼンテーション編 STEP7・STEP8・STEP9	プレゼンテーション編 STEP7・STEP8・STEP9の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
8	プレゼンテーション編 練習問題2	プレゼンテーション編 練習問題2の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
9	文書作成編 STEP6・STEP7	文書作成編 STEP6・STEP7の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
10	文書作成編 練習問題4	文書作成編 練習問題4の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
11	表計算編 STEP1・STEP2	表計算編 STEP1・STEP2の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
12	表計算編 STEP3・STEP4・STEP5	表計算編 STEP3・STEP4・STEP5の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
13	表計算編 STEP6・練習問題1	表計算編 STEP6・練習問題1の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
14	表計算編 STEP7・練習問題3	表計算編 STEP7・練習問題3の確認（30分） 授業内容の復習（30分）
15	表計算編 STEP8・練習問題2	表計算編 STEP8・練習問題2の確認（30分） 授業内容の復習（30分）

《基礎科目》

科目名	キャリア演習ＩＡ				
担当者氏名	高木　富士男、小川　茜				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》
1．大学での学びや授業への取り組み方に関する授業を行います
2．将来に向けた動機づけを高める取り組みに関する授業を行います

《授業の到達目標》
1．大学における講義の受講方法や学習方法についての基礎を身に付ける
2．礼儀、マナー、社会常識を高め、社会人基礎力を身に付ける

《成績評価の方法》
課題　80%
授業の取組　20%

《教科書》
「大学生学びのハンドブック（5訂版）」世界思想社編集部（編）世界思想社

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出課題は評価・フィードバックをした上で返却します

《成績評価基準》
1．授業の内容を踏まえ、かつ与えられる課題を通して、進路選択に関連する取り組みを実践できる
2．課題を設定し、それを解決するための取り組みを行い、人に分かりやすく伝えることができる
3．授業内で取り組む一般常識問題について6割以上解答できる

《参考図書》
適宜紹介

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、年間計画の作成	大学生活で取り組みたい事について具体的に考え、まとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
2	大学での学び①遠隔受講の準備、講義の受け方	教科書の該当範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
3	進路支援①スーツ着こなし講座	スーツの着こなしについて教科書やインターネットで調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
4	進路支援②実習報告会	興味のある職業について調べてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
5	進路支援③キャリアについて	興味のある職業について調べてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
6	進路支援④OBOGへのキャリアインタビュー	興味のある職業について調べてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
7	進路支援⑤キャリアについて	興味のある職業について調べてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
8	大学での学び②資料の探し方、情報収集法1	教科書の該当範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
9	大学での学び③資料の探し方、情報収集法2	教科書の該当範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
10	大学での学び④情報の整理方法1	教科書の該当範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
11	大学での学び⑤情報の整理方法2	教科書の該当範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
12	大学での学び⑥レポートの書き方1	教科書の該当範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
13	大学での学び⑦レポートの書き方2	教科書の該当範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
14	進路支援⑥履歴書作成と求人票	自身の保有する資格や免許の正式名称や取得年月日をまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
15	進路支援⑦キャリアについて	これまでの授業内容を復習する（30分）・今回の授業内容の復習（30分）

《基礎科目》

科目名	総合演習ＩＡ				
担当者氏名	星子　和夫、高木　富士男、小川　茜、坂元　瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》
“共に動く”ことをスローガンとし、西短スポーツフェスタの準備やダブルダッチの練習をクラス全体で行います。学校行事と学科イベントは本講の一環としてとらえ、必ず出席しましょう。社会人になる上で重要な要素が多く組み込まれています。積極的に参加しましょう。

《授業の到達目標》
1．本学科の教育方針である『健スポ五心』の趣旨を理解し、日常生活で実践できる。
2．社会人として必要なコミュニケーション能力を身に付け、グループ活動に参加できる。
3．ダブルダッチにおけるターナーチェンジやスライド、ターナーターンなどの基本的なパフォーマンスが実施できる。

《成績評価の方法》
課題　30%
実技　40%
授業の取組　30%

《教科書》
適宜資料を配布します。

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出課題は評価・フィードバックをした上で、まとめて返却します。
グループワークへの参加姿勢や発表内容について、講評の時間を設けます。

《成績評価基準》
1．教養教育やイベント参加を通して学んだことを、自分の言葉で丁寧にまとめることができる。
2．グループ内で協力し、与えられた課題やイベント活動を共同作業によって達成することができる。
3．プログラムを計画し、ダブルダッチの基本的なパフォーマンスを実施することができる。

《参考図書》
「ダブルダッチ入門」日本ダブルダッチ協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、学生生活、履修登録確認	学生便覧を読む（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
2	学科イベントへの取り組み	団マラニックについて、先輩や教員から話を聞く（30分） 団マラニックに必要な体力・筋力トレーニングを行う（30分）
3	学科イベントの振り返り、個人ミーティング	団マラニックで学んだ内容をまとめる（30分） 団マラニックで学んだことを振り返り、提出物を作成する（30分）
4	教養教育（情報リテラシー）	情報通信機器の使い方について考え、振り返る（30分） 授業で学んだことを振り返り、提出物を作成する（30分）
5	学校イベントへの取り組み	スポーツフェスタについて、先輩や教員から話を聞く（30分） グループで練習をする（30分）
6	学校イベントへの取り組み	グループで練習をする（30分） グループで練習をする（30分）
7	学校イベントの振り返り、ポートフォリオ	スポーツフェスタで学んだ内容をまとめる（30分） スポーツフェスタで学んだことを振り返り、提出物を作成する（30分）
8	メンタルヘルス講習会	現在の心の状態について考え、まとめる（30分） 授業で学んだことを振り返り、提出物を作成する（30分）
9	教養教育（熱中症予防講座）	熱中症について教科書やインターネット等で予習する（30分） 授業で学んだことを振り返り、提出物を作成する（30分）
10	グループワーク①	ダブルダッチについてインターネット等で予習する（30分） グループで練習をする（30分）
11	グループワーク②	グループでパフォーマンスを考え、計画する（30分） グループで練習をする（30分）
12	グループワーク③	グループでパフォーマンスを考え、計画する（30分） グループで練習をする（30分）
13	グループワーク④	グループでパフォーマンスを考え、計画する（30分） グループで練習をする（30分）
14	イベントパフォーマンス発表	グループで練習をする（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
15	福浜祭について（出店企画）	出店内容について考え、まとめる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）

《基礎科目》

科目名	スポーツ学入門				
担当者氏名	星子　和夫、高木　富士男、小川　茜、坂元　瑞貴				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
現在までに経験してきたスポーツを通して、誰もが取り組んできたスポーツ全般のあり方を考えながらスポーツの概念を学び、これからのスポーツを考察していく。スポーツは老若男女が様々な考えや目的で、レクリエーションをはじめ健康体力づくり、リハビリテーション、競技力の向上などに取り組んでいる。自身の身体状況やスポーツ活動環境、スポーツの社会的問題、スポーツ行政の現状と今後などを学習していく。

《授業の到達目標》
現在までのスポーツに関する偏った考え方から広い視点で考察することができるようになる。そのために、各教員の授業内容を理解しながら基礎的教養を述べることができる。

《成績評価の方法》
筆記試験　80%
授業への取組　20%

《教科書》
使用しない。

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
小テストとしている試験の解答は、その時間内に行う。

《成績評価基準》
広い視野でスポーツを考察できるようになる。また、各教員の授業内容を理解することができる。
各20点満点の小テストを4回行い、授業への取り組みをもって総合的に評価します。

《参考図書》
「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会、「スポーツから気づく大切なこと」中山和義著、実業之日本社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツから学ぶライフスキル	何のためにスポーツに取り組んできたのかを考察しておく（2時間） 経験スポーツ・スポーツ環境から何を学んだのかまとめておくこと（2時間）
2	オリンピック・パラリンピックについて	健常者・障がい者のスポーツを考えておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
3	発育発達における体力変化とスポーツ	成長過程の体力を考え、それに伴ったスポーツ活動をまとめておくこと（2時間） これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
4	加齢に伴う体力変化について、小テスト①	加齢に伴う体力減少について考え、まとめておくこと（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）
5	ニュースポーツについて	どのようなニュースポーツがあるか調べておくこと（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）
6	スポーツビジョンとそのトレーニング法	スポーツビジョンとは何か調べておくこと（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）
7	運動学習について	できなかったことができるようになった時の体験を振り返っておくこと（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）
8	運動と脳、小テスト②	運動することで脳や身体にどのような影響があるのか調べておくこと（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）
9	パラスポーツ1	パラスポーツとは何か調べておくこと（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）
10	パラスポーツ2	9回～10回の授業内容を復習しておくこと（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）
11	スポーツの価値	スポーツの意義と効果について調べておくこと（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）
12	トレーニングの基本的な考え、小テスト③	スポーツトレーニングの方法について調べておくこと（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）
13	スポーツの場で起きているハラスメント	ハラスメントの定義や種類を調べておくこと（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）
14	メンタルトレーニング1	スポーツにおけるメンタルの重要性を考え、まとめておくこと（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）
15	メンタルトレーニング2、小テスト④	競技力向上に活用されているメンタルトレーニングについて調べる（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）

《専門科目》

科目名	解剖生理学				
担当者氏名	星子　和夫				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

本講義は、人体機能について取り扱うことから、スポーツ科学を学ぶ学生にとって必須の学問です。人体はどの器官をとっても、まるで精密機械のような機能をもち、その神秘さゆえに「小宇宙」とさえ表現されます。そこで、スポーツ指導に携わる者として必要となる人体の構造及び反応や適応などについて理解を深めていきます。なお、当科目は第一種衛生管理者、トレーニング指導者の指定科目です。

《授業の到達目標》

1．人体の構造と機能についての概観をとらえることができる。特に筋系、骨格系、呼吸循環器系については詳しく説明できる。
2．人体の各器官のはたらきを専門用語を用いて具体的に説明できる。

《成績評価の方法》

20点満点のテストを4回の80%および20点満点のレポートで、総合評価100%とします。

《教科書》

「なるほどなっとく！解剖生理学」改訂2版
多久和典子・多久和陽著南山堂
「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

20点満点の小テストを4回行い、次の授業で解答・解説をします。また、20点満点のレポートを課しますが、最後に各自配付します。

《成績評価基準》

スポーツインストラクターやトレーナーを目指す上で必要な筋系、骨格系、呼吸循環器系および人体の各器官のはたらきを専門用語を用いて筆記試験を行い評価します。

《参考図書》

「新しい解剖生理学」山本ら著、南江堂
「のほほん解剖生理学」玉先生著、永岡書店

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	基礎知識、細胞	新しい解剖生理学P1～P18を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
2	人体の組織	新しい解剖生理学P18～P23を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
3	骨格系	新しい解剖生理学P229～P239を熟読し整理しておくこと（2時間） 3コマ分の授業内容の復習（2時間）
4	筋系　小テスト①	新しい解剖生理学P240～P265を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
5	感覚器系	新しい解剖生理学P201～P227を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
6	神経系① 小テスト②	新しい解剖生理学P169～P200を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
7	神経系②	新しい解剖生理学P169～P200を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
8	血液	新しい解剖生理学P121～P141を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
9	循環器系 小テスト③	新しい解剖生理学P25～P52を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
10	呼吸器系	新しい解剖生理学P53～P74を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
11	消化と吸収 小テスト④	新しい解剖生理学P75～P103を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
12	排泄	新しい解剖生理学P105～P120を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
13	内分泌	新しい解剖生理学P143～P168を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
14	生殖	新しい解剖生理学P267～P293を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
15	まとめ 小テスト⑤	テキストを読み、わからないところや疑問点をまとめる（2時間） これまでの授業内容の復習（2時間）

《専門科目》

科目名	発育発達論				
担当者氏名	田代　利康				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
発育発達に即した年齢的な変化や性差、個人差から身体の特徴をとらえる。また、誤った指導法によるケガや病気について理解し、発育発達に応じた運動の基礎理論を学ぶ。

《授業の到達目標》
人の発育発達における構造や機能の特性を理解するとともに、それに適したトレーニングや運動指導を行うための必要な知識を習得する。

《成績評価の方法》
レポート　50%
課題　40%
授業の取組　10%

《教科書》
「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
ワーク課題はコメントをつけて2週間以内に返却する。レポート課題については、授業の中で解説や説明
する時間を設ける。

《成績評価基準》
①レポート課題50%②授業中の提出物40%③授業取り組み状況10%を基に総合評価する。

《参考図書》
「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」（公財）日本スポーツ協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス／身体の発育発達の概念	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：身体の発育発達の復習 2時間
2	身体発育の概要	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：身体発育の概要の復習 2時間
3	発育曲線の類型	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：発育曲線の類型の復習 2時間
4	身体計測値の年齢的変化と形態発育	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：身体の発育発達の復習 2時間
5	身体発育の性差と個人差	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：身体計測値の年齢的変化と携帯発育の復習2時間
6	身体機能の発達と個人差	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：身体発育の性差と個人差の復習 2時間
7	発育発達期に多いケガや病気	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：発育発達期に多いケガや病気の復習 2時間
8	発育発達期のプログラム	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：発育発達期のプログラムの復習 2時間
9	動きの発達とスキル獲得①乳幼児期	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：動きの発達とスキル獲得①の復習 2時間
10	動きの発達とスキル獲得②児童前期	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：動きの発達とスキル獲得②の復習 2時間
11	動きの発達とスキル獲得③児童後期	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：動きの発達とスキル獲得③の復習 2時間
12	動きの発達とスキル獲得④青年前期	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：動きの発達とスキル獲得④の復習 2時間
13	スキルの獲得とその獲得過程、質的評価	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：スキルの獲得とその獲得過程の復習 2時間
14	指導への応用	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：運動遊びの復習 2時間
15	まとめ	予習：公認スポーツ指導者養成テキストⅠを熟読し整理しておく 2時間 復習：総合的なまとめの復習 2時間

《専門科目》

科目名	体力学				
担当者氏名	星子　和夫				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
本講では、体力全般を広く理解する。近年は子どもの運動時間・体力の二極化やウォーキング・ランニングなどの健康ブームの背景により発育発達段階から加齢に伴う年齢・性別で理解し、体力の維持向上のためのトレーニングの原理原則や効果、安全管理について展開する。当科目は「健康運動実践指導者」、「トレーニング指導者」、「GFI」、「コーチングアシスタント」、「ジュニアスポーツ指導員」資格の指定科目です。

《授業の到達目標》
さまざまなライフステージの体力の特徴をとらえながら身体活動の必要性を理解し、安全で効果的な体力向上のためのトレーニングの知識を学習する。

《成績評価の方法》
筆記試験　100%

《教科書》
「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会
「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
20点満点の小テストを5回実施し、合計点数を評価とするが、小テスト実施の次回講義において解答および解説を行う。また、最終講義での小テストは最後に解答および解説を行い、講評する。

《成績評価基準》
体力の概念を念頭に置き、各年代別・性別のカラダや体力の変化を理解する。また、体力の維持向上のためのトレーニングの原理原則をはじめ、方法や効果、また一連のトレーニング計画から安全管理までまとめることができる。

《参考図書》
なし

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	体力とは	自身や家族の健康や体力に関し、考察しておく（1時間） 体力の概念および学習内容を復習しておくこと（3時間）
2	からだと体力の男女差	身体の成長および体力の男女差を考えておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
3	発育発達と体力①	成長に伴う発育と発達を理解し、体力の変化を考え、まとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
4	発育発達と体力②	発育発達の視点から体力の変化を考えておくこと（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）
5	加齢に伴う体力変化と高齢者の身体的特徴	20歳を超えてからの加齢に伴う体力の変化を考察しておくこと（2時間） 小テスト①のためにこれまでの内容を復習しておくこと（2時間）
6	身体活動量・体力を確保する必要性	身体活動の必要性、最低限の体力の必要性を考えておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
7	健康づくりのための身体活動指針2013	教科書「健康運動実践指導者養成用テキスト」p99－101を読んでおくこと（2時間） 小テスト②のためにこれまでの内容を復習しておくこと（3時間）
8	トレーニングの原理と原則	教科書「Reference Book」p178－180を読んでおくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
9	有酸素運動とその効果	有酸素運動とは何かを考え、どのような運動種目があるのか考えておくこと（2時間） 小テスト③のためにこれまでの内容を復習しておくこと（3時間）
10	呼吸循環系のトレーニング	教科書「Reference Book」p181－184を読んでおくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
11	筋系のトレーニング	教科書「Reference Book」p184－189を読んでおくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
12	トレーニング計画と運動プログラム	教科書「健康運動実践指導者養成用テキスト」p102－104を読んでおくこと（3時間） 小テスト④のためにこれまでの内容を復習しておくこと（2時間）
13	運動プログラム作成と基礎	教科書「Reference Book」を読んでおくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
14	有酸素運動指導の安全性	教科書「健康運動実践指導者養成用テキスト」p111－113を読んでおくこと（2時間） 小テスト⑤のためにこれまでの内容を復習しておくこと（3時間）
15	まとめ	小テスト⑤のためにこれまでの内容を復習しておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）

《専門科目》

科目名	救急処置法演習				
担当者氏名	重森　裕				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
健康運動実践指導者・第一種衛生管理者として必要な救急処置法を学ぶ。救急処置法は、生命危機を回避するための呼吸、循環の管理を必要とする初期診療に始まり、各外傷に行うべき基本的処置に及ぶ。本講義では初期診療の基本である気道確保、呼吸管理、循環管理を学び、健康運動実践指導者が遭遇すると想定される外傷、内科疾患に対する処置、対処法を修得する。脈の触診法、頸椎保護、AEDの使用法についても指導する。

《授業の到達目標》
①救急蘇生を躊躇なく、迅速にかつ正しく行える。
一次救命処置である、心肺蘇生、AED による除細動の基本概念を理解し、実践できる。
②健康運動実践指導者・第一種衛生管理者として、遭遇すると予想される外傷、内科的急病に対処できる。指導中の不慮の外傷や呼吸、循環器、脳卒中などの急病を各疾患毎に理解し、対処法を実践できる。

《成績評価の方法》
筆記試験　80　%　レポート　10　%
課題　5　%　実技　5　%

《教科書》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
試験内容に対する解説の時間を設ける。

《成績評価基準》
本講義は、「健康運動実践指導者養成」を目的としており、成績評価は同指導者として合格するまたは、評価される知識レベルおよび、技術レベルの養成を目的としている。そのために、成績評価は、同指導者として認定されるレベルを合格基準として参考する。希望者は、BLS の取得も目標とする。

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	救急処置法総論	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
2	救急処置法各論(1)	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
3	救急処置法各論(2)	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
4	救急処置法各論(3)	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
5	救急処置法実習(1)	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
6	内科的疾患の救急処置	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
7	意識障害について	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
8	頭痛の総論と各論	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
9	頭部外傷	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
10	胸部、腹部外傷	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
11	四肢、股関節外傷	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
12	小児と老人の外傷	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
13	救急処置法実習(2)	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
14	まとめ① テーピング技術	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）
15	まとめ②	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（30分） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（30分）

《専門科目》

科目名	健康教育学				
担当者氏名	坂元　瑞貴				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」を用い、健康づくりがどのように行われてきたのか、歴史・現状・対策・制度の観点から学びます。また自身の生活習慣を振り返り、身近なところから健康について考えます。「健康運動実践指導者」の資格取得を希望する学生は、履修することを望みます。

《授業の到達目標》
1.「健康」とはなにか具体的に述べることができる。
2．わが国の健康づくり施策について理解し、説明することができる。
3．メタボリックシンドロームについて説明でき、診断基準からメタボリックシンドロームであるか見極めができる。
4．介護予防やメディカルチェックについて理解し、説明することができる。

《成績評価の方法》
筆記試験　70%
課題　10%
授業の取組　20%

《教科書》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」
（公財）健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
講義終了後にミニッツペーパーの提出を行い、評価・フィードバックをした上で返却します。

《成績評価基準》
1．健康づくり施策の歴史について学び、現状を説明することができる。
2．メタボリックシンドロームの診断基準について理解することができる。
3．生活習慣病についてまとめ、自身の生活習慣に関連づけて考えることができる。

《参考図書》
「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」（公財）健康・体力づくり事業財団

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	健康の定義	自身の健康観について考え、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
2	健康と体力について（ウェルネス）	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
3	健康づくりの概念	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
4	健康づくり施策の歴史①	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
5	健康づくり施策の歴史②	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
6	健康づくり施策の歴史③	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
7	メタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームについて調べて、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
8	生活習慣病	生活習慣病について調べて、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
9	運動と健康　－適正体重の維持－	自身の運動習慣について振り返り、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
10	飲酒と健康	飲酒の健康影響について調べて、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
11	喫煙と健康	喫煙の健康影響について調べて、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
12	栄養と健康	自身の食習慣について振り返り、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
13	介護予防	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
14	突然死とメディカルチェック	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）

《専門科目》

科目名	レクリエーション活動援助法ＩＡ				
担当者氏名	原田　弘美				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
現代社会のなかで余暇やレクリエーションの持つ意味を理解し、レクリエーションが充実した人生づくり、豊かな人間関係の基盤になることを学習する。対象者の主体性を尊重する姿勢やレクリエーション支援方法の幅広さを理解し、一人ひとりの豊かなライフスタイルづくりにむけてレクリエーションを意図的に活用することを学習する。この授業は、「レクリエーション・インストラクター」資格取得のための指定科目である。

《授業の到達目標》
１.レクリエーションが地域社会の課題に幅広く用いられていることを説明できる。
２．人々の心を元気にするためのレクリエーション支援の基礎知識を理解し、演習に活用することができるようになる。
３.集団のまとまりをつくる技法や参加者同士の交流を促進するレクリエーションの展開法を理解し実施することができる。

《成績評価の方法》
筆記試験６０％　レポート　％
課題４０％　実技　％
授業の取組　％
その他（　　）　％

《教科書》
楽しさをとおした心の元気づくり　公益財団法人日本レクリエーション協会　　レクリエーション指導者ハンドブック　NPO法人福岡県レクリエーション協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
授業内提出物は評価フィードバックをしたうえで返却します。

《成績評価基準》
筆記試験６０パーセント、課題４０パーセントにより評価する。

《参考図書》
適宜紹介します

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス　レクリエーション概論①	テキスト４～８ページを読み整理しておく。（２時間）　今回の授業内容の復習。（２時間）
2	レクリエーション概論②支援者の役割	テキスト１０～１７ページを読み整理しておく。（２時間） 今回の授業内容の復習。（２時間）
3	楽しさをとおした心の元気づくりの理解	テキスト２０～２８ページを読み整理しておく。（２時間） 今回の授業内容の復習。（２時間）
4	ライフステージと心の元気づくり	テキスト２９～３６ページを読み整理しておく。（２時間） 今回の授業内容の復習。（２時間）
5	レクリエーション体験学習　１	ハンドブック１０５～１２８ページを読み整理しておく。（２時間） 今回の授業内容の復習。（２時間）
6	レクリエーション体験学習　２	ハンドブック１２９～１６６ページを読み整理しておく。（２時間） 今回の授業内容の復習。（２時間）
7	レクリエーション支援とコミュニケーション	ハンドブック１７～４８ページを読み整理しておく。（２時間） 今回の授業内容の復習。（２時間）
8	信頼関係づくりの理論	テキスト３８～４３を読み整理しておく（２時間） 今回の授業内容の復習。（２時間）
9	信頼関係づくりの方法	テキスト５８～６５を読み整理しておく（２時間） 今回の授業内容の復習。（２時間）
10	良好な集団づくりの理論	テキスト４４～４９を読み整理しておく。（２時間） 今回の授業内容の復習。（２時間）
11	良好な集団づくりの方法	テキスト６６～６９を読み整理しておく。（２時間） 今回の授業内容の復習。（２時間）
12	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論	テキスト５０～５５を読み整理しておく。（２時間） 今回の授業内容の復習。（２時間）
13	自主的、主体的に楽しむ力を育む活動の展開法１	テキスト７０～７７を読み整理しておく。（２時間） 今回の授業内容の復習。（２時間）
14	自主的、主体的に楽しむ力を育む活動の展開法２	テキスト７８～８２を読み整理しておく。（２時間） 今回の授業内容の復習。（２時間）
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する。（２時間） 今回の授業内容の復習（２時間）

《専門科目》

科目名	トレーニング演習				
担当者氏名	河村　茂				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
トレーニングの行い方、安全にクライアントを誘導できるようになる。正しいトレーニング指導ができるようになる。

《教科書》
「トレーニング指導者テキスト実践編・理論編」日本トレーニング指導者協会編著　「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
希望があれば解説の時間を設ける。

《授業の到達目標》
スポーツトレーナーとして、科学的な見地で捉え、専門的な知識を身につけること。

《成績評価基準》
14コマ目にて筆記テストを実施。

《成績評価の方法》
筆記試験　80　%　レポート　0　%
課題　0　%　実技　10　%
授業の取組　10　%　その他（　　）　%

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	トレーニングについて	予習：教科書 P3～P21（30分） 復習：教科書 P3～P21（30分）
2	ｳｫｰﾐﾝｸﾞｱｯﾌﾟとｸｰﾘﾝｸﾞﾀﾞｳﾝ、柔軟性向上ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ①	予習：教科書 P86～P90（30分） 復習：教科書 P86～P90（30分）
3	ｳｫｰﾐﾝｸﾞｱｯﾌﾟとｸｰﾘﾝｸﾞﾀﾞｳﾝ、柔軟性向上ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ②	予習：教科書 P86～P90（30分） 復習：教科書 P86～P90（30分）
4	ﾌﾘｰｳｴｲﾄﾄﾚｰﾆﾝｸﾞとﾏｼﾝﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ	予習：教科書 P25～P65（30分） 復習：教科書 P25～P65（30分）
5	レジスタンストレーニングの実際①	予習：教科書 P25～P65（30分） 復習：教科書 P25～P65（30分）
6	レジスタンストレーニングの実際②	予習：教科書 P25～P65（30分） 復習：教科書 P25～P65（30分）
7	レジスタンストレーニングの実際③	予習：教科書 P25～P65（30分） 復習：教科書 P25～P65（30分）
8	有酸素性･無酸素性持久力向上ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞの実際①	予習：教科書 P68～P75（30分） 復習：教科書 P68～P75（30分）
9	有酸素性･無酸素性持久力向上ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞの実際②	予習：教科書 P68～P75（30分） 復習：教科書 P68～P75（30分）
10	パワー・スピード向上トレーニングの実際①	予習：教科書 P54～P65（30分） 復習：教科書 P54～P65（30分）
11	パワー・スピード向上トレーニングの実際②	予習：教科書 P54～P65（30分） 復習：教科書 P54～P65（30分）
12	パワー・スピード向上トレーニングの実際③	予習：教科書 P54～P65（30分） 復習：教科書 P54～P65（30分）
13	運動プログラム立案と指導上の注意	予習：教科 書 P203～P227（30分） 復習：教科書 P203～P227（30分）
14	テスト	予習：教科書全て（60分） 復習：教科書全て（60分）
15	まとめ	

《専門科目》

科目名	パラスポーツ実技				
担当者氏名	高木　富士男				
授業方法	実技	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
アイマスク体験や車いす体験をした後、全国障がい者スポーツ大会の実施種目を中心に、障がい者スポーツを実施する。障がい者スポーツを体験するなかで、障がいに応じたルールと用具の工夫点、指導方法などを解説する。

《授業の到達目標》
1.障がい者スポーツのルールを他者に説明することができる。
2.障がい者スポーツを他者と協力して実施ことができる。
3.障がい者スポーツを他者に指導することができる。

《成績評価の方法》
受講態度・積極性45%、授業内レポートの提出30%、技術の習得25%

《教科書》
使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出課題や質問については、次回の授業時間に解説する。

《成績評価基準》
参加度（受講態度・積極性）45%…1回授業の参加度を3点とし評価する。
授業内レポートの提出30%…各授業後に課題を提示し、30点換算して評価する。
技術の習得25%…実技課題を設定し、達成レベルに応じて評価する。

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス アイマスク体験	予習：視覚障がいについて調べる（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
2	視覚障がい者へのスポーツ導入	予習：視覚障がい者のスポーツを調べる（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
3	車いす体験	予習：肢体不自由者について調べる（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
4	車いすバスケットボール１	予習：車いす使用者のスポーツを調べる（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
5	車いすバスケットボール２	予習：車いすバスケットのルールを調べる（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
6	車いすバスケットボール３	予習：車いすバスケットの大会を調べる（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
7	車いすバスケットボール４	予習：車いすバスケットの戦術を考える（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
8	車いすでラケット種目（卓球・バドミントン）1	予習：車いす卓球について調べる（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
9	車いすでラケット種目（卓球・バドミントン）２	予習：車いすバドミントンについて調べる（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
10	サウンドテーブルテニス	予習：サウンドテーブルテニスについて調べる（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
11	フロアバレーボール１	予習：フロアバレーボールについて調べる（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
12	フロアバレーボール２	予習：フロアバレーボールの動画を視聴する（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
13	フロアバレーボール３	予習：フロアバレーボールの動画を視聴する（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
14	フロアバレーボール４	予習：フロアバレーボールの戦術について調べる（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）
15	フットベースボール	予習：フットベースボールについて調べる（60分） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる（30分）

《専門科目》

科目名	障害者福祉論				
担当者氏名	東嵩西　謡平				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
障害者福祉の基礎知識（考え方、概念、史的展開など）を理解し、基本的な考え方を学ぶ。
障害者施策、サービス体系、障害者総合支援法について学び、障害のある人が住み慣れた地域で生活していくための仕組み、支援方法について学習する。

《授業の到達目標》
●障害者福祉の考え方、障害の概念と障害者の実態について説明することができる。
●特別支援教育の現状を理解し課題について述べることができる。
●障害者総合支援法の基本理念、サービス体系などについて理解し、当事者が抱える問題の軽減、解決に向けた取り組みについて説明することができる。

《成績評価の方法》
筆記試験　70%
授業の取組　30%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
試験のフィードバックとして、講評及び解説の時間を設ける。

《成績評価基準》
筆記試験（70%）、受講態度（30%）により評価する。

《参考図書》
適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	考え方①（ノーマライゼーションの実現）	予習：ノーマライゼーションについて調べよう（2時間） 復習：ノーマライゼーションの理念等の整理（2時間）
2	考え方②（リハビリテーションの追求）	予習：リハビリテーションについて調べよう（2時間） 復習：リハビリテーションの定義等の整理（2時間）
3	障害の概念と障害者の実態①（障害の概念）	予習：障害の概念について調べよう（2時間） 復習：障害の概念・3つのレベル等の整理（2時間）
4	障害の概念と障害者の実態②（障害者の実態）	予習：福岡県の障害者の実態について調べよう（2時間） 復習：福岡県の実態の整理（2時間）
5	障害者福祉の史的展開①（国際的動向）	予習：国際的動向について調べよう（2時間） 復習：国際的動向の整理（2時間）
6	障害者福祉の史的展開②（日本の動向）	予習：日本の動向について調べよう（2時間） 復習：日本の動向の整理（2時間）
7	障害者施策の体系①（障害者基本法）	予習：障害者基本法について調べよう（2時間） 復習：障害者基本法の整理（2時間）
8	障害者施策の体系②（障害者基本計画）	予習：障害者基本計画について調べよう（2時間） 復習：障害者基本計画の整理（2時間）
9	サービス体系①（障害者福祉の法・行政）	予習：身体障害者福祉法等について調べよう（2時間） 復習：身体障害者福祉法等の整理（2時間）
10	サービス体系②（身体・障害児）	予習：サービス体系について調べよう（2時間） 復習：サービス体系の整理（2時間）
11	サービス体系③（知的・精神）	予習：サービス体系について調べよう（2時間） 復習：サービス体系の整理（2時間）
12	障害者福祉の関連分野（保健・医療・教育）	予習：特別支援教育について調べよう（2時間） 復習：保健・医療・教育の整理（2時間）
13	障害者理解の促進とボランティア活動の推進	予習：ボランティアについて調べよう（2時間） 復習：ボランティア活動の整理（2時間）
14	障害者総合支援法	予習：障害者総合支援法について調べよう（2時間） 復習：障害者総合支援法のまとめ（2時間）
15	まとめ	予習：自分ができることについて考えよう（2時間） 復習：今からまとめられることをまとめる（2時間）

《専門科目》

科目名	ラケットスポーツ				
担当者氏名	坂元　瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
卓球とバドミントンの特性や種目特有のマナー、ゲームの運営方法などを習得することにより、自分で練習を組み立て、ゲームを進行していけるようになります。また卓球やバドミントンの基本的技術を習得することで、ラケット種目の楽しさやダブルスにおけるペアとの協力の重要性などを実感し、生涯スポーツとして親しんでいける能力を身に付けます。

《授業の到達目標》
1．卓球とバドミントンの基本的技術・ルール・マナーを習得し、実施することができる。
2．円滑で安全なゲームの運営方法を習得し、対応することができる。。
3．ラケット種目の楽しさを実感できる。

《成績評価の方法》
実技　　50%
授業の取組　50%

《教科書》
使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
技術練習やリーグ戦の取り組みに対して、適宜フィードバックを受けます。

《成績評価基準》
1．卓球とバドミントンの基本的技術を身に付け、ゲームの中で発揮することができる。
2．安全に留意しながらゲームの運営をすることができる。
3．ペアで協力し、ゲームに対する練習計画を組み立てることができる。

《参考図書》
「バドミントン教本」日本バドミントン協会（編）
ベースボール・マガジン社
「新基本レッスン卓球」近藤欽司（著）大修館書店

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	ラケット種目の歴史・特性について参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
2	卓球 用具の取り扱い、基礎技術、マナー	卓球の特性について参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
3	卓球 個人技術（フォアハンド打法）とゲーム	フォアハンド打法について参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
4	卓球 個人技術（バックハンド打法）とゲーム	バックハンド打法について参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
5	卓球 個人技術（カット打法）とゲーム	カット打法について参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
6	卓球 個人技術（サービス）とゲーム	サービスの方法について参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
7	卓球 リーグ戦①（ルール・運営方法）	ルールやゲームの運営方法について調べ、まとめる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
8	卓球 リーグ戦②（ルール・運営方法）	ルールやゲームの運営方法について調べ、まとめる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
9	バドミントン 基礎技術、マナー	バドミントンの特性について参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
10	バドミントン 個人技術（ドロップ等）とゲーム	ハイクリア・ドロップ・ロブについて参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
11	バドミントン 個人技術（ドライブ等）とゲーム	ドライブ・ヘアピンについて参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
12	バドミントン 個人技術（サービス）とゲーム	サービスの方法について参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
13	バドミントン 個人技術（レシーブ等）とゲーム	スマッシュ・レシーブについて参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
14	バドミントン リーグ戦①（ルール・運営方法）	ルールやゲームの運営方法について調べ、まとめる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
15	バドミントン リーグ戦②（ルール・運営方法）	ルールやゲームの運営方法について調べ、まとめる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）

《専門科目》

科目名	球技スポーツⅠ				
担当者氏名	高木　富士男、坂元　瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
ゲームを中心に授業を行い、バレーボール・サッカーの基本的技術やゲーム運営、スキルレベルや目的に応じたルールの設定方法・指導方法などの習得を目指す。また、球技スポーツの楽しさやチームプレイにおけるチームメイトとの協力の重要性などを実感し、フェアプレイの精神を身に付ける。

《授業の到達目標》
1．バレーボール・サッカーの基本的技術・ルール・マナー・指導方法を習得し、実施することができる
2．円滑で安全なゲームの運営方法を習得し、運営することができる
3．球技スポーツの楽しさを実感できる

《成績評価の方法》
バレーボール　50%（実技20%、授業の取組30%）
サッカー　50%（実技20%、授業の取組30%）

《教科書》
使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
技術練習や実践練習の取り組みに対して、適宜フィードバックを受ける。

《成績評価基準》
1．基本的技術を身に付け、ゲームの中で発揮することができる
2．安全に留意しながらゲームの運営をすることができる
3．チーム内で協力し、与えられた課題に対する指導方法を計画することができる

《参考図書》
「バレーボール」青山繁（著）旺文社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	歴史・特性について参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
2	バレーボール　個人技術①とゲーム	パスの方法について参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
3	バレーボール　個人技術②とゲーム	サーブの方法について参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
4	バレーボール　個人技術③とゲーム	スパイクの方法について参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
5	バレーボール　戦術①とゲーム	フォーメーションについて参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
6	バレーボール　戦術②とゲーム	ゲームの運営方法について参考書やインターネット等で予習する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
7	バレーボール　実践練習①	レベルや目的に応じた指導方法について考え、計画する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
8	バレーボール　実践練習②	レベルや目的に応じた指導方法について考え、計画する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
9	サッカー 個人技術①	予習：サッカーのルールを調べる（30分） 復習：サッカーのルールを再確認する（30分）
10	サッカー 個人技術②	予習：キックの種類を調べる（30分） 復習：授業を振り返り、課題に取り組む（30分）
11	サッカー 実践練習①	予習：サッカー動画を視聴する（30分） 復習：授業を振り返り、課題に取り組む（30分）
12	サッカー 実践練習②	予習：サッカー動画を視聴する（30分） 復習：授業を振り返り、課題に取り組む（30分）
13	サッカー 実践練習③	予習：サッカー動画を視聴する（30分） 復習：授業を振り返り、課題に取り組む（30分）
14	サッカー ゲーム①	予習：サッカー動画を視聴する（30分） 復習：授業を振り返り、課題に取り組む（30分）
15	サッカー ゲーム②	予習：サッカー動画を視聴する（30分） 復習：授業を振り返り、課題に取り組む（30分）

《専門科目》

科目名	マリンスポーツ				
担当者氏名	星子　和夫、坂元　瑞貴				
授業方法	実習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
【目的】①実習体験を通して、体を動かすことの楽しさや喜びを感じながら、大自然を体感し、その恩恵に触れる。②水中での物理的性質である水温、浮力、抵抗、水圧を感じながら自身の生理反応の変化を確認する。③ダイビングを安全に楽しく実施するために、自己の健康管理の重要性を確認する。④集団生活によってマナー、協調性などの社会性を高める。大学での講義と海洋実習を行います。　※別途、参加費が必要。

《授業の到達目標》
1．マリンスポーツの1つであるダイビングの資格を取得するための知識や技術を身に付ける。2．海洋環境を認識しながら安全管理について理解する。3．集団活動およびバディとの活動を円滑に行い、自己管理を徹底できる。

《成績評価の方法》
課題　40%
その他（実習実技・態度）　60%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
ダイビングに関する講義内容や技術は専門のインストラクターから適宜フィードバックを受けます。
提出物は教員確認後に返却されます。
希望者は別途追加実習を行うことで、C カード取得に取り組むことが出来ます。

《成績評価基準》
1．ダイビングの資格を取得するための知識や技術を身に付けることができる。2．海洋環境を認識しながら安全管理について理解することができる。3．集団活動およびバディとの活動を円滑に行うことができる。4．体調管理に気を配ることができる。5．各提出物を期限内に提出できる。

《参考図書》
NAUI パスポートダイバー用教材

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	泳力・体力を事前にプールやトレーニングルーム等で確認する（2時間） 自身の泳力と海洋実習で必要な泳力を考え、トレーニング等を行う（2時間）
2	事前学習	泳力・体力を事前に確認するとともに海洋環境をまとめておく（2時間） 実習での環境を安全に過ごすために復習しておく（2時間）
3	海洋実習	┌
4	海洋実習	│
5	海洋実習	│
6	海洋実習	│
7	海洋実習	│インストラクターの指示に従い、以下のような点について予習復習を行う │（各日予習30分、復習30分）
8	海洋実習	│　1）体調管理、ボディケア │　2）講義で学んだ内容をしおりにまとめる。
9	海洋実習	│　3）その日の自身やバディの行動やスキルを振り返り、不足している部分 │　はインストラクターに尋ねるなど、次の実習に向けてスキル向上を図る。
10	海洋実習	│
11	海洋実習	│
12	海洋実習	│
13	海洋実習	│
14	海洋実習	│ └
15	まとめ	実習で学んだことをまとめる（2時間） 実習で学んだことを振り返り、提出物を作成する（2時間）

《専門科目》

科目名	スポーツ企業情報演習				
担当者氏名	高木　富士男、坂元　瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》
スポーツ分野の仕事について知るため、インターネットを使用して情報収集を行います。また、収集した情報は個人・グループで発表し、その後、その情報を基に数カ所の企業を選択し、実際に企業の見学を行います。スポーツ企業実習につなげる授業ですので、日頃から身だしなみや言葉遣いに気を配り、企業見学に臨みましょう。

《授業の到達目標》
1．スポーツ分野の仕事に関する情報が収集できる
2．収集した仕事の情報をまとめ、プレゼンテーション発表をすることができる
3．グループ活動でコミュニケーションを図り、作業分担をすることができる

《成績評価の方法》
レポート　20　%
課題　50　%
授業の取組　30　%

《教科書》
使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出課題は評価・フィードバックをした上で返却します。

《成績評価基準》
1．インターネットを用い、スポーツ分野の仕事を調査し、情報を整理した上で指示された項目ごとに取りまとめることができる。2．収集した情報をまとめ、人にわかりやすく伝えることができる。3．グループ内で協力し、与えられた課題を共同作業によって解決することができる。

《参考図書》
適宜紹介します

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション／働くとはなにか	予習：社会人はなぜ働かなくてはならないのか考える、身近な社会人になぜ働くかインタビューする（1時間）復習：今回の授業内容の復習（1時間）
2	スポーツ分野の仕事はなにか	予習：スポーツ分野の職業について考え、まとめる（1時間） 復習：今回の授業内容の復習（1時間）
3	スポーツ企業を知る①フィットネスクラブ	予習：フィットネスクラブについて調べ、まとめる（1時間） 復習：今回の授業内容の復習（1時間）
4	スポーツ企業を知る②幼児体育施設	予習：幼児体育施設について調べ、まとめる（1時間） 復習：今回の授業内容の復習（1時間）
5	スポーツ企業を知る③スイミングクラブ	予習：スイミングクラブについて調べ、まとめる（1時間） 復習：今回の授業内容の復習（1時間）
6	スポーツ企業を知る④公共体育施設	予習：公共体育施設について調べ、まとめる（1時間） 復習：今回の授業内容の復習（1時間）
7	スポーツ企業を知る⑤健康増進施設・医療福祉系	予習：健康増進施設・医療福祉系について調べ、まとめる（1時間） 復習：今回の授業内容の復習（1時間）
8	スポーツ指導者について①指導者の心得	予習：指導者に必要なものは何か調べ、まとめる（1時間） 復習：今回の授業内容の復習（1時間）
9	スポーツ指導者について②指導者の必要性と需要	予習：どのような指導者が求められるか調べ、まとめる（1時間） 復習：今回の授業内容の復習（1時間）
10	スポーツ指導者について③指導者の必要性と需要	予習：どのような指導者が求められるか調べ、まとめる（1時間） 復習：今回の授業内容の復習（1時間）
11	スポーツ企業見学	予習：選択した企業情報を予習する。職業・分野への疑問点や質問を考える（1時間） 復習：施設見学を行い、実際に判明したことや、新たな疑問点をまとめる（1時間）
12	スポーツ企業見学	予習：選択した企業情報を予習する。職業・分野への疑問点や質問を考える（1時間） 復習：施設見学を行い、実際に判明したことや、新たな疑問点をまとめる（1時間）
13	スポーツ企業見学	予習：選択した企業情報を予習する。職業・分野への疑問点や質問を考える（1時間） 復習：施設見学を行い、実際に判明したことや、新たな疑問点をまとめる（1時間）
14	スポーツ企業見学	予習：選択した企業情報を予習する。職業・分野への疑問点や質問を考える（1時間） 復習：施設見学を行い、実際に判明したことや、新たな疑問点をまとめる（1時間）
15	スポーツ企業見学	予習：選択した企業情報を予習する。職業・分野への疑問点や質問を考える（1時間） 復習：施設見学を行い、実際に判明したことや、新たな疑問点をまとめる（1時間）

《専門科目》

科目名	スポーツボランティア演習Ⅰ				
担当者氏名	星子　和夫、高木　富士男、小川　茜、坂元　瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》
指定するボランティア活動に参加します。そのため時間割外の活動や学外、週末祝日等での活動もあります。受け身でなく主体的な姿勢で様々なボランティア活動に取り組んでくれることを期待します。
活動場所は、FINA世界水泳FUKUOKA、福浜地区健康体操教室、福岡県障がい者スポーツ大会、ユニクロサッカーキッズなどを予定しています（新型コロナウイルスの状況によっては変更有）。

《授業の到達目標》
1．ボランティアの在り方について学習する
2．ボランティア活動を通して「支える」意義を発見する
3．礼儀、マナー、社会常識、コミュニケーションスキルを高める

《成績評価の方法》
課題　40%
授業の取組　60%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出物は評価・フィードバックをして返却します

《成績評価基準》
1．各ボランティアにおいて、真摯に取り組むことができる
2．ボランティア活動後にレポートを提出する

《参考図書》
「大学生学びのハンドブック（3訂版）」世界思想社編集部（編）世界思想社、「就職活動ハンドブック」西短進路指導部（学生へ配布済み）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、ボランティア論	ボランティア活動に取り組む姿勢を考える（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
2	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
3	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
4	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
5	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
6	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
7	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
8	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
9	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
10	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
11	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
12	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
13	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
14	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
15	まとめ	ボランティア活動で学んだ内容をまとめる（30分）今回の授業内容の復習（30分）

《基礎科目》

科目名	茶道文化				
担当者氏名	黒岩　富美枝				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
1．茶の湯の歴史
2．実技　①茶室（和室）での基本所作　②客の心得　③日本茶の種類と淹れ方　④点前の基本割稽古とテーブル茶（盆点前）　⑤茶の湯の道具と水屋の仕事
3．日本の伝統文化について【東洋陶磁美術館見学】

《教科書》
プリントを配布する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
次の授業時間に講評する

《授業の到達目標》
茶の湯は、日本古来より「もてなしの文化」といわれている。一服のお茶を点て、おもてなしの基本が身につくようになる。①基本的な所作、手順の繰り返しで、点てられたお茶を感謝していただく②四季の移ろいや季節感を、茶室の床の間の軸、花や自分の周りで感ずる③抹茶を楽しみ、自分に対してテーブル茶でお茶を点てて飲むことができる④伝統文化に関する話や実践を通して、茶道に興味・関心を持つことができる

《成績評価基準》
総合評価とする
1．レポートによる内容評価（期限内に提出）
2．実技の習得度
3．授業への積極的な取組

《成績評価の方法》
筆記試験　　%　レポート　　50　%
課題　　%　実技　　30　%
授業の取組　20　%　その他（　　）　　%

《参考図書》
江戸千家教本「基本の点前」

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 茶の湯とは？ 茶室の成り立ち	予習：シラバス確認　30分 復習：シラバスを読む　30分
2	茶室の成り立ち　お辞儀と客の心得（つくばい）	予習：シラバス確認　30分 復習：授業の復習　30分
3	茶室①基本所作「立居、襖の開閉」・薄茶点前	予習：基本所作　30分 復習：授業の復習　30分
4	茶室②基本所作　服紗、扇子の扱い方	予習：つくばいの使い方30分 復習：授業の復習　30分
5	客の心得①席入り②菓子と薄茶のいだたき方	予習：服紗の扱い　30分 復習：授業の復習　30分
6	日本茶の種類と淹れ方	予習：プリント確認　30分 復習：レポート作成
7	茶の湯の道具と水屋の成立ち、水屋の仕事	予習：服紗の扱い　30分 復習：授業の復習　30分
8	割稽古（基本）①服紗の扱い（服紗さばき）	予習：服紗の扱い　30分 復習：服紗さばき　30分
9	割稽古（基本）②薄茶器・茶杓を拭く	予習：服紗さばき　30分 復習：服紗さばき　30分
10	割稽古（基本）③茶巾の扱い④茶筅通し、すすぎ	予習：服紗さばき　30分 復習：茶巾のたたみ方　30分
11	テーブル茶（盆点前）の点前　茶碗の拭き方	予習：服紗さばき　30分 復習：茶巾の扱い　30分
12	テーブル茶（盆点前）の点前　亭主と客	予習：服紗さばき　30分 復習：授業の復習　30分
13	テーブル茶（盆点前）の点前　亭主と客	予習：服紗さばき　30分 復習：授業の復習　30分
14	福岡東洋陶磁美術館見学	予習：プリント確認　30分 復習：レポート作成
15	テーブル茶（盆点前）の点前　亭主と客の役割	予習：服紗さばき　30分 復習：授業の復習　30分

《専門科目》

科目名	検定読解Ⅰ				
担当者氏名	高向　有理				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
留学生のための日本語授業です。
日常的な場面で使われる日本語と、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解できるようになりましょう。授業は課題の解説を中心に行います。必ず課題を解いて全授業に出席してください。読む力向上のポイントは自宅学習です。自己管理力を身につけましょう。

《授業の到達目標》
・学校や生活で必要な説明文や指示文を読んで内容を理解することができる。
・かんたんな内容の評論やエッセイを読んで、因果関係や筆者の考え方が理解できる。
・かんたんな内容の複数のテキストを読み比べて、共通点や相違点を述べることができる。
・文章から必要な情報を探し出すことができる。

《成績評価の方法》
筆記試験　50%　レポート　%
課題　30%　実技　%
授業の取組　20%
その他（　　）　%

《教科書》
『TRY!日本語能力試験N2　文法から伸ばす日本語』（アスク出版（レベルによってN2またはN3）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
課題の解説は次回の授業内で行う。
理解度を確かめるために、小テストを実施し添削して返却する。

《成績評価基準》
・毎回課題にしっかり取り組んで授業にのぞんでいたか。
・授業で学んだ語彙や文法とまとめノートを作るなど自宅学習が十分になされていたか。
・文章を理解するためのストラテジーを身につけることができたか。
以上の取り組み方と課題提出・筆記試験で総合的に評価する。

《参考図書》
日本語能力試験関連問題集を適宜紹介します。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	実力テスト 身の回りの文書	予習：授業内容の確認　30分 復習：授業内で学習した語彙・文法　60分
2	通知文・お知らせ	予習：課題読解　60分 復習：授業内で学習した語彙・文法　60分
3	ニュース	予習：課題読解　60分 復習：授業内で学習した語彙・文法　60分
4	説明文	予習：課題読解　60分 復習：授業内で学習した語彙・文法　60分
5	エッセイ	予習：課題読解　60分 復習：授業内で学習した語彙・文法　60分
6	小説	予習：課題読解　60分 復習：授業内で学習した語彙・文法　60分
7	新聞	予習：課題読解　60分 復習：授業内で学習した語彙・文法　60分
8	グラフと図表	予習：課題読解　60分 復習：授業内で学習した語彙・文法　60分
9	論説文	予習：課題読解　60分 復習：授業内で学習した語彙・文法　60分
10	統合問題	予習：課題読解　60分 復習：授業内で学習した語彙・文法　60分
11	模擬試験	予習：模擬試験準備　60分 復習：模擬試験の見直し 60分
12	模擬試験の解説 情報検索	予習：課題読解　60分 復習：授業内で学習した語彙・文法　60分
13	過去問題①	予習：課題読解　60分 復習：授業内で学習した語彙・文法　60分
14	過去問題②	予習：課題読解　60分 復習：授業内で学習した語彙・文法　60分
15	過去問題のフィードバックとまとめ	予習：期末試験準備　60分 復習：まとめ

《専門科目》

科目名	検定文法Ⅰ				
担当者氏名	入江　千治				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
留学生が日本の生活で必要な日本語能力を上げるためには、文法を身につけることが必要になります。授業の中で、文法の理解を深めながら繰り返し練習をしていきましょう。
この授業は、復習がとても重要です。授業のあとは必ず復習をしてください。また毎回の小テストを通して、自分の苦手なところをよく確認し、日本語能力のレベルアップにつなげてください。

《授業の到達目標》
・授業で学んだ日本語文法をよく理解し、文を作ることができる。
・日本語能力試験の問題において、正しい答えを導き出せる。

《成績評価の方法》
・期末試験50%
・小テスト・課題30%
・授業への取り組み20%

《教科書》
『TRY！日本語能力試験N2　文法から伸ばす日本語』（アスク出版）
（レベルによってN2またはN3）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
・毎週小テストを行い、翌週フィードバックを行う。
・毎週、宿題を提出し、翌週返却、フィードバックを行う。

《成績評価基準》
・まじめに授業に取り組んでいたか。
・授業で取り上げた文法をよく理解し、文法力が向上できたか。
・日本語能力試験の問題において、正しい答えが導き出せるようになったか。

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	授業についての説明 文法　導入・練習	予習：テキストの内容を確認／過去に学んだ文法の復習をしておく。（30分） 復習：第1回授業内容の復習（30分）
2	小テスト 文法　導入・練習	予習：第2回授業内容の予習（30分） 復習：第2回授業内容の復習（30分）
3	小テスト 文法　導入・練習	予習：第3回授業内容の予習（30分） 復習：第3回授業内容の復習（30分）
4	小テスト 文法　導入・練習	予習：第4回授業内容の予習（30分） 復習：第4回授業内容の復習（30分）
5	小テスト 文法　導入・練習	予習：第5回授業内容の予習（30分） 復習：第5回授業内容の復習（30分）
6	小テスト 文法　導入・練習	予習：第6回授業内容の予習（30分） 復習：第6回授業内容の復習（30分）
7	小テスト 文法　導入・練習	予習：第7回授業内容の予習（30分） 復習：第7回授業内容の復習（30分）
8	小テスト 文法　導入・練習	予習：第8回授業内容の予習（30分） 復習：第8回授業内容の復習（30分）
9	小テスト 文法　導入・練習	予習：第9回授業内容の予習（30分） 復習：第9回授業内容の復習（30分）
10	小テスト 文法　導入・練習	予習：第10回授業内容の予習（30分） 復習：第10回授業内容の復習（30分）
11	模擬試験 文法　導入・練習	予習：第11回授業内容の予習（30分） 復習：第11回授業内容の復習（30分）
12	小テスト 文法　導入・練習	予習：第12回授業内容の予習（30分） 復習：第12回授業内容の復習（30分）
13	小テスト 文法　導入・練習	予習：第13回授業内容の予習（30分） 復習：第13回授業内容の復習（30分）
14	小テスト 文法　導入・練習	予習：第14回授業内容の予習（30分） 復習：第14回授業内容の復習（30分）
15	総復習 総まとめ	予習：第15回授業内容の予習（30分） 復習：第15回授業内容の復習（30分）

《専門科目》

科目名	検定文字語彙Ⅰ				
担当者氏名	高向　有理				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
Ｎ3からＮ2レベルの教科書に沿って授業を進めます。3000～6000語を習得するためには自宅学習が必須です。予習・復習に時間をかけ、授業では語彙の運用と確認と応用小テストの繰り返しで力をつけていきましょう。語彙力は日本語力向上の第一歩です。

《教科書》
新完全マスター語彙 日本語能力試験
（スリーエーネットワーク）クラスレベルによってN2またはN3

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
小テスト、模擬試験は翌週にフィードバックします。

《授業の到達目標》
・日本語能力試験Ｎ3～Ｎ2レベルの漢字を読むことができる。
・Ｎ3～Ｎ2レベルの語彙の意味を調べ、短い文の中で使うことができる。
・名詞・基本動詞などは、自分で調べ、不明な点を教師に質問できる。
・日本語能力試験合格を目指し、自主的に取り組むことができる。

《成績評価基準》
・日本語能力試験Ｎ3～2レベルの漢字が読めるか。
・Ｎ3～2レベルの語彙の意味を調べ、短い文の中で使えるか。
・名詞・基本動詞は自分で調べ、不明な点を教師に質問できるか。
・日本語能力試験合格を目指し自主的に取り組めるか。

《成績評価の方法》
筆記試験　30%　レポート　%
課題　30%　実技　%
授業の取組　30%
その他（模試）　10%

《参考図書》
日本語能力試験関連問題集

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション、実力テスト	予習：実力テスト準備　1時間 復習：実力テスト復習　30分
2	実力テスト FB、語彙（社会1）	予習：語彙（社会１）30分 復習：語彙（社会１）30分
3	語彙（社会2）・短文作成	予習：語彙（社会２）30分 復習：語彙（社会２）30分
4	小テスト、語彙（社会3）・短文作成	予習：語彙（社会３）30分 復習：語彙（社会３）30分
5	語彙（自然）・短文作成	予習：語彙（自然）30分 復習：語彙（自然）30分
6	小テスト、語彙（和語動詞）、短文作成	予習：語彙（和語動詞）30分 復習：語彙（和語動詞）30分
7	語彙（漢語動詞）、短文作成	予習：語彙（漢語動詞）30分 復習：語彙（漢語動詞）30分
8	日本語能力試験模擬試験	予習：模試準備　1時間 復習：模試復習　1時間
9	小テスト、語彙（形容詞）、短文作成	予習：語彙（形容詞）30分 復習：語彙（形容詞）30分
10	語彙（副詞）、短文作成	予習：語彙（副詞）30分 復習：語彙（副詞）30分
11	小テスト、語彙（オノマトペ）、短文作成	予習：語彙（オノマトペ）30分 復習：語彙（オノマトペ）30分
12	語彙（漢語）、短文作成	予習：語彙（漢語）30分 復習：語彙（漢語）30分
13	小テスト、語彙（言い換え類義）短文作成	予習：語彙（言い換え類義）30分 復習：語彙（言い換え類義）30分
14	語彙（語形成）、短文作成	予習：語彙（語形成）30分 復習：語彙（語形成）30分
15	試験、まとめ	予習：期末準備　2時間

《専門科目》

科目名	アジア文化交流史				
担当者氏名	永吉　美知子				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
日本との長い文化交流を時系列に紹介する
理解を深めるために　様々な資料やパワーポイントなどを用いる

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
小テストと課題レポートの提出

《授業の到達目標》
文化交流がもたらされた歴史の必然性を理解する
過去の歴史が現代に影響し　未来を形づくることを意識化させる

《成績評価基準》
授業中の態度　小テスト　評価テスト

《成績評価の方法》
筆記試験70　%　レポート　%
課題　%　実技　%
授業の取組30　%
その他（　　）　%

《参考図書》
なし

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション 農業革命	復習　縄文と弥生時代（2時間）
2	古墳時代	予習　奈良へのながれ（2時間） 復習　弥生までの流れ（2時間）
3	飛鳥から奈良時代 遣隋使　遣唐使	予習　平安時代（2時間） 復習　中国との往来がかえたもの（2時間）
4	奈良時代 仏教文化	予習　平安時代（2時間） 復習　奈良時代を終わらせたもの（2時間）
5	平安時代 国風文化	予習　鎌倉時代（2時間） 復習　平安時代の貴族の政治（2時間）
6	鎌倉時代 武士と元寇	予習　室町時代（2時間） 復習　武士が変えた社会　元寇の影響
7	室町時代 文化	予習　安土桃山（2時間） 復習　室町文化（2時間）
8	安土桃山 鉄砲伝来	予習　江戸時代（２時間） 復習　なぜ鉄砲は日本へきたかの（2時間）
9	江戸時代 鎖国と江戸文化	予習　明治（2時間） 復習　なぜ鎖国をしたのか（2時間）
10	江戸時代　明治維新 黒船が日本へ	予習　大正時代（2時間） 復習　なぜ黒船は日本へ（2時間）
11	明治時代　大正時代	予習　昭和時代（2時間） 復習　大正時代（2時間）
12	条約改正	予習　敗戦後の日本（2時間） 復習　原爆投下までの道（2時間）
13	第二次世界大戦へ	復習　全体の流れを把握する（4時間）
14	敗戦から現代	復習　対策テストの理解　（4時間）
15	評価テスト	自宅で復習

《専門科目》

科目名	ビジネスコミュニケーションⅠ				
担当者氏名	高藤　純子、井上　しづ恵				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
社会に出る前に常識として知っておかなければならない時事用語やビジネス用語がある。先ずそういった常識を学び、知識を得る。読解を中心に行い表やグラフなどを分析し、新聞記事やビジネス文書を読めるようにする。
＊学生の興味・習熟度を優先し内容を変更することもある。

《授業の到達目標》
・インターシップ前におさえておきたいビジネス知識やビジネスマナーを理解することができる。
・仕事に役立つ論理力を養うことができる。
・時事用語やビジネス用語を理解することができる。
・表やグラフを見て、問題発見や分析ができる。

《成績評価の方法》
筆記試験　40%　レポート　%
課題　%　実技　%
授業の取組　60%
その他（　　）　%

《教科書》
ハンドアウト

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
授業内で演習をし、解説する。

《成績評価基準》
授業での演習を通して思考力、分析力を身につけることができたかを評価する。
授業内での積極性を評価する。

《参考図書》
適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
2	キャリアと仕事へのアプローチ	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
3	仕事の基本となる8つの意識	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
4	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
5	指示の受け方と報告、連絡・相談	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
6	話し方と聞き方のポイント	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
7	来客応対と訪問の基本マナー	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
8	仕事への取り組み方	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
9	ビジネス文書の基本	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
10	電話応対	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
11	統計・データの読み方・まとめ方	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
12	情報収集とメディアの活用	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
13	会社を取り巻く環境と経済の基本	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
14	ビジネス用語の基本	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
15	知識・読解・分析などの総括	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する

《専門科目》

科目名	ビジネスプレゼンテーション				
担当者氏名	志田　華奈子、高藤　純子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

プレゼンテーションは、授業での口頭発表、就活、仕事上の企画や報告など様々な場面で必要とされるスキルである。またプレゼンテーションには、発表のテクニックだけではなく、論理的思考および文章力も必要になる。この授業ではプレゼンテーションとは何かを理解し、伝えたいことを論理的に考察し、適切な音声・スライド・文章表現などを身につけて発表できるスキルを身につける。

《授業の到達目標》

・目的に応じて効果的な文章表現を作成し、プレゼンテーションを設計することができる。
・聴き手を意識したわかりやすく、説得力のあるプレゼンテーションができる。
・文章作成や発表を通して、適切な音声やスピードで人前で話すスキルや批評力を身につける。

《成績評価の方法》

授業内発表　40%
課題　30%
授業の取組　30%

《教科書》

適宜プリントを配布する。

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

コメントをつけて返却する。

《成績評価基準》

・目的に応じて効果的な文章表現を作成し、プレゼンテーションを設計することができたか。
・聴き手を意識したわかりやすく、説得力のあるプレゼンテーションができたか。
・文章作成や発表を通して、適切な音声やスピードで人前で話すスキルや批評力を身につけることができたか。

《参考図書》

『1分で話せ』伊藤羊一（SBクリエイティブ）
『大学生のための日本語表現トレーニング』橋本修（三省堂）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
2	プレゼンテーションの基本①	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
3	プレゼンテーションの基本②（PREP法）	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
4	プレゼンテーションの基本③（根拠とは）	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
5	レポートを書く①（テーマの動機付け）	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
6	レポートを書く②（段落構成の作り方）	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
7	レポートを書く③（文章作成）	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
8	実習①（プレゼンテーション作成）	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。（30分）
9	実習②（中間発表）	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。（30分）
10	相手に伝わる話し方	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
11	プレゼンテーションのテクニック①	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。（30分）
12	プレゼンテーションのテクニック②	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。（30分）
13	プレゼンテーションのテクニック③	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。（30分）
14	授業内発表	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。（30分）
15	発表評価と振り返り	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。（30分）

《専門科目》

科目名	実践的プログラミング演習Ⅰ				
担当者氏名	柿山　達哉、常岡　直樹				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
①Windows操作の基礎
②メール操作の基礎
③Excel操作の基礎
④実社会でのパソコンの利用例体験
⑤プログラムの基礎Ⅰ
上記内容を中心に総合的な活用術を習得する。
週ごとのテーマは学生の理解度に合わせて変更する。

《授業の到達目標》
2年間でパソコンを実際に活用できる力を身に着けることが目標。
演習Ⅰではその入口として基礎力を身に着ける事を目標とする。
まずはパソコンを好きになることと何を実現したいかをイメージできることも目標。

《成績評価の方法》
課題６０％
授業の取組４０％

《教科書》
適宜プリントを配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
講義毎に課題を出し、提出された課題の評価で成績を評価する。毎回の積み上げなので、出席率の低下と課題の提出率の低下は比例するため、出席率が悪いと評価は下がる。

《成績評価基準》
・講義に対し意欲的に取り組んでいたか。
・課題に対して真摯に取り組むことができたか。
・課題を理解して自分の力として身に着けることができたか。
・講義を楽しむことができたか。

《参考図書》
講義の内容にあわせて、各種説明資料等を講師が作成し配布する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	前期講義の概要説明 パソコン活用術	予習：なし 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
2	パソコン活用術	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
3	エクセルの基本操作	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
4	エクセルの計算式と関数	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
5	マクロ・ＶＢＡとは ＶＢＡで何ができるのか	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
6	マクロ・ＶＢＡ エクセルのセルの操作	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
7	マクロ・ＶＢＡ エクセルのセルの操作	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
8	マクロ・ＶＢＡ 変数と繰り返しと条件式	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
9	マクロ・ＶＢＡ 変数と繰り返しと条件式	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
10	マクロ・ＶＢＡ 変数と繰り返しと条件式	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
11	マクロ・ＶＢＡ 変数と繰り返しと条件式	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
12	マクロ・ＶＢＡ 変数と繰り返しと条件式	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
13	マクロ・ＶＢＡ ブック、シート、セル	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
14	マクロ・ＶＢＡ ブック、シート、セル	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
15	マクロ・ＶＢＡ ブック、シート、セル	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）

1 年 後 期

《基礎科目》

科目名	心理学				
担当者氏名	小川　茜				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》
心理学の基礎的知見を概説し、人間とは何か、心の仕組みとはどのようなものか、生涯にわたって心にはどのような変化が起きるのか、などについて理解を深める

《授業の到達目標》
1．心理学の基礎知識を習得し、行動とこころの関係、また健康とこころの関係について説明できる
2．多様な心理検査を実際に体験して自己理解、他者理解を深めることができる
3．乳児期から老年期までの生涯にわたって起こる心の動きを解釈できる

《成績評価の方法》
筆記試験　60%　レポート　%
課題　%　実技　%
授業の取組　40%
その他（　　）　%

《教科書》
プリントを配布する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出物は評価・フィードバックをした上でその後の授業で返却します

《成績評価基準》
1．試験において、授業で説明した内容を6割以上解答できる
2．毎授業および授業内で取り組む心理検査・体験について、教員の指示に従い振り返りのコメントと体験した用紙を提出する

《参考図書》
心理学概論，京都大学心理学連合 編，ナカニシヤ出版

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、 ストレスとメンタルヘルス①	最近感じるストレスの内容について考え、まとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
2	ストレスとメンタルヘルス②	自身のストレス発散方法を振り返り、まとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
3	パーソナリティ①	自身の性格について考えまとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
4	パーソナリティ②	自身の性格について考えまとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
5	発達とは、乳児期	自身の子供のころを振り返り、まとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
6	幼児期、児童期	自身の子供のころを振り返り、まとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
7	青年期、成人期	大学生までの間に経験した事柄を振り返り、まとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
8	老年期、発達障害	発達障害についての知識やニュースを調べてまとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
9	動機づけ	自身の学習や取り組んでいることへの動機をまとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
10	対人認知	これまでに対人関係で経験した事柄を振り返り、まとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
11	協働とチームワーク	これまでに集団内で経験した事柄を振り返り、まとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
12	感覚・知覚・認知	錯視の例などを調べる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
13	学習	これまでに身につけた行動や動作をどう身につけたか振り返り、まとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
14	記憶	自分の記憶力や思い出について振り返り、まとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）

《基礎科目》

科目名	情報処理演習Ⅱ				
担当者氏名	小川　茜				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》
表計算ソフト Excel を用いた統計学、Power Point を用いたプレゼンテーション、Google formを用いたアンケート調査について学びます。またそれらを競技力向上や健康づくり支援のための情報収集や指導に活かせるように演習を行います。

《授業の到達目標》
・パソコン操作の基本的スキル及び統計学の基礎的知識を習得する。
・運動指導，競技力向上のための情報を収集し，活用できるようになる。

《成績評価の方法》
課題　40%
授業の取組　40%
まとめテスト　20%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
筆記試験については解答の解説を行います。課題については，提出されたデータは適宜チェックやコメントをして返します。

《成績評価基準》
・まとめテストで6割以上正答できる
・与えられる課題に対して指示通りに取り組むことができる

《参考図書》
健康・スポーツ科学のための Excel による統計解析入門，出村慎一監修，杏林書院

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス， Power Pointの基本技能の確認	パワーポイントの基本的な使い方を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
2	Excelを用いた統計学（集計）	エクセルの基本的な使い方を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
3	Excelを用いた統計学（表・グラフの作成）	エクセルを使ってどのような表やグラフが作成できるかを調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
4	Excelを用いた統計学（ｔ検定）	t検定について調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
5	Excelを用いた統計学（相関係数）	相関係数について調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
6	運動指導のための情報収集と活用	トレーニング指導者テキストの該当ページを読む(30分)・今回の授業内容の復習（30分）
7	グループでデータの収集・分析	課題に対して適切にデータを収集する(30分)・今回の授業内容の復習（30分）
8	グループでデータの収集・分析	課題に対して適切にデータを分析する(30分)・今回の授業内容の復習（30分）
9	グループプレゼンテーション	スライドを作成する(30分)・今回の授業内容の復習（30分）
10	Google formを用いた情報収集	Google formを使ってどのようなことが出来るか調べる（30分）どのような調査をしたいか考える（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
11	Google formを用いた情報収集、調査内容の決定	調査テーマに対してどのようなデータを収集すべきか考える（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
12	Excelを用いた統計学（カイ二乗検定）	得られたデータのまとめ方を考える（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
13	Excelを用いた統計学（カイ二乗検定）	得られたデータのまとめ方を考える（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
14	スライドの作成	スライド作成や発表練習を行う（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
15	プレゼンテーション、まとめテスト	これまでの授業内容を振り返る（30分）・今回の授業内容の復習（30分）

《基礎科目》

科目名	キャリア演習ＩＢ				
担当者氏名	高木　富士男、小川　茜、坂元　瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》
1．進路選択、社会人基礎力向上に関する授業を行います
2．グループで課題を設定し、解決する取り組みを行います

《教科書》
「大学生学びのハンドブック（5訂版）」世界思想社編集部（編）世界思想社

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出課題は評価・フィードバックをした上で返却します

《授業の到達目標》
1．対自己基礎力を身に付ける（感情制御力、自信創出力、行動持続力など）
2．対人基礎力を身に付ける
3．対課題発見力を身に付ける
4．伝える技術（プレゼンテーション）力を身に付ける

《成績評価基準》
1．授業の内容を踏まえ、かつ与えられる課題を通して、進路選択に関連する取り組みを実践できる
2．課題を設定し、それを解決するための取り組みを行い、人に分かりやすく伝えることができる
3．授業内で取り組む一般常識問題について6割以上解答できる

《成績評価の方法》
課題　80%
授業の取組　20%

《参考図書》
適宜紹介

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、進路支援①養成校資格の説明	大学生活で取り組みたい事について具体的に考え、まとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
2	グループワーク①課題の発見	日常生活での疑問をまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
3	進路支援②適性検査（全学科対象）	文献、インターネット等で一般常識問題に取り組む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
4	進路支援③実習報告会	興味のある進路の情報を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
5	グループワーク②課題の解決への取り組み	グループで決めたテーマに関する情報を調べてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
6	進路支援④適性検査解説会（全学科対象）	興味のある進路の情報を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
7	グループワーク③課題の解決への取り組み	グループで決めたテーマに関する情報を調べてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
8	進路支援⑤第1回就職模擬試験	文献、インターネット等で一般常識問題に取り組む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
9	グループワーク④プレゼンテーション資料作成	グループで決めたテーマに関する情報を調べてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
10	グループワーク⑤プレゼンテーション	効果的なプレゼンテーションとなるよう練習する（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
11	進路支援⑥キャリアについて	興味のある進路の情報を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
12	進路支援⑦マイナビ登録会	興味のある進路の情報を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
13	進路支援⑧就活報告会、エントリーシート作成	興味のある進路の情報を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
14	進路支援⑨就活キックオフセミナー	興味のある進路の情報を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
15	進路支援⑩就活キックオフセミナー	興味のある進路の情報を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）

《基礎科目》

科目名	総合演習ＩＢ				
担当者氏名	星子　和夫、高木　富士男、小川　茜、坂元　瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》
“共に動く”ことをスローガンとし、イベントの準備をクラス全体で行います。学校行事と学科イベントは本講の一環としてとらえ、必ず出席しましょう。社会人になる上で重要な要素が多く組み込まれています。積極的に参加しましょう。

《授業の到達目標》
1．本学科の教育方針である『健スポ五心』の趣旨を理解し、日常生活で実践できる。
2．社会人として必要なコミュニケーション能力を身に付け、グループ活動に参加できる。
3．ダブルダッチにおいて、基本的な技を生かしたグループパフォーマンスが実施できる。

《成績評価の方法》
課題　30%
実技　40%
授業の取組　30%

《教科書》
適宜資料を配布します。

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出課題は評価・フィードバックをした上で、まとめて返却します。
グループワークへの参加姿勢や発表内容について、講評の時間を設けます。

《成績評価基準》
1．イベント参加を通して学んだことを、自分の言葉で丁寧にまとめることができる。
2．グループ内で協力し、与えられた課題やイベント活動を共同作業によって達成することができる。
3．プログラムを計画し、ダブルダッチの基本的な技を生かしたパフォーマンスを実施することができる。

《参考図書》
「ダブルダッチ入門」日本ダブルダッチ協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、後期履修指導、福浜祭について	学生便覧を読む（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
2	グループワーク①（パフォーマンス練習）	ダブルダッチについてインターネット等で予習する（30分） グループで練習をする（30分）
3	グループワーク②（パフォーマンス練習）	グループでパフォーマンスを考え、計画する（30分） グループで練習をする（30分）
4	グループワーク③（パフォーマンス練習）	グループでパフォーマンスを考え、計画する（30分） グループで練習をする（30分）
5	学校イベントへの取り組み（福浜祭）	出店の仕事内容・役割を確認する（30分） 福浜祭で学んだことを振り返り、提出物を作成する（30分）
6	学科イベントへの取り組み①	駅伝のコース・役割を確認する（30分） 駅伝で学んだことを振り返り、提出物を作成する（30分）
7	学科イベントへの取り組み②	キッズスポーツフェスティバルの内容・役割を確認する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
8	学科イベントへの取り組み③	予習：キッズスポーツフェスティバルの内容・役割を確認する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
9	学科イベントの振り返り	イベントで学んだことを考え、まとめる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
10	個人ミーティング	学校生活で学んだことを考え、まとめる（30分） ミーティング内容について振り返る（30分）
11	個人ミーティング	学校生活で学んだことを考え、まとめる（30分） ミーティング内容について振り返る（30分）
12	ADI 発表会	エアロビックエクササイズについて調べる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
13	1年間の振り返り①	学校生活で学んだことを考え、まとめる（30分） ポートフォリオを作成する（30分）
14	1年間の振り返り②	学校生活で学んだことを考え、まとめる（30分） ポートフォリオを作成する（30分）
15	まとめ	学校生活で学んだことを考え、まとめる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）

《専門科目》

科目名	運動生理学				
担当者氏名	西内　久人				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
スポーツ科学の分野において、もっとも基礎となる学問の一つが運動生理学です。本講義では、ヒトが運動している時、運動した後、あるいは日常活動を行っている時に身体においてどのような反応や変化が起こっているかを学習します。また、アスリートのトレーニングメニューや健康エクササイズプログラムを作成するうえで必要となる基礎知識を習得することを目的にして授業を展開します。

《授業の到達目標》
ヒトが運動することによって起こる身体的変化と適応、動くことのメカニズムについて説明できる。また、筋力の増強のための運動、エネルギー消費のための運動の理論を説明できる。

《成績評価の方法》
筆記試験　80%
授業の取組　20%

《教科書》
「運動とスポーツの生理学」北川薫著市村出版
「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
授業では5分程度の確認テストを行う場合があります。確認テストは採点後、次回の授業で返却し、授業の始めに誤答の多かった問いへの解説を行います。

《成績評価基準》
運動することによって起こる身体的変化と適応、動きのメカニズムついてや、運動、エネルギー消費のための運動理論について、専門用語を用いて具体的に説明できるか、筆記試験を行い評価します（80%）。また、不定期で確認テストを行い、授業への取り組みを評価します（20%）。

《参考図書》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	運動と神経機能	運動とスポーツの生理学P1～P13を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
2	エネルギー供給機構	運動とスポーツの生理学P14～P17を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
3	筋線維と素質	運動とスポーツの生理学P18～P21を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
4	筋力発揮とトレーニング	運動とスポーツの生理学P22～P28を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
5	酸素運搬系－呼吸と循環－	運動とスポーツの生理学P29～P43を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
6	持久力の評価とトレーニング	運動とスポーツの生理学P82～P91を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
7	身体組成	運動とスポーツの生理学P54～P64を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
8	疲労及びその予防	運動とスポーツの生理学P14～P17を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
9	運動と内分泌	運動時に使われるホルモンと男女差についてまとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
10	運動と生活習慣病	運動とスポーツの生理学P48～P53を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
11	特殊環境下での対応①	運動とスポーツの生理学P44～P47を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
12	特殊環境下での対応②	運動とスポーツの生理学P44～P47を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
13	労働による人体機能の変化	運動とスポーツの生理学P14～P17を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
14	職業適性	スポーツ現場のどのような場面で生理学が必要とされるかまとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
15	まとめ	運動とスポーツの生理学を全体的に熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）

《専門科目》

科目名	トレーニング論				
担当者氏名	高木　富士男				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

この数十年において、スポーツ科学は目覚ましい発展をとげ、アスリートはもちろんのこと、健康増進指導においてもその成果は活かされています。

本講義では、トレーニングの基礎理論とトレーニング方法を学び、指導現場で実践できるような内容としています。スポーツ指導者となる上で、ベースとなる内容になりますので、意欲をもって取り組みましょう。

《授業の到達目標》

1．トレーニングの原理・原則を理解し、効果的なトレーニング方法を作成できる。
2．筋力トレーニング、有酸素性トレーニング、パワー及びスピード向上トレーニングのプログラム作成ができる。

《成績評価の方法》

筆記試験　80%
授業の取組　20%

《教科書》

「トレーニング指導者テキスト3訂版（実践編）」日本トレーニング指導者協会編著、大修館書店
「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

効果的なトレーニング方法や、各種トレーニングのプログラム作成について、専門用語を用いて具体的に説明できるか、筆記試験を行い評価します（80%）。

また、不定期で確認テストを行い、授業への取り組みを評価します（20%）。

《成績評価基準》

授業では5分程度の確認テストを行う場合があります。確認テストは採点後、次回の授業で返却し、授業の始めに誤答の多かった問いへの解説を行います。

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション、トレーニングの定義	トレーニング指導者テキストP12～23を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
2	トレーニング指導者の役割	トレーニング指導者テキストP12～23を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
3	スポーツトレーニングの基本的と理論体系①	トレーニング指導者テキストP26～33を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
4	スポーツトレーニングの基本と理論体系②	トレーニング指導者テキストP33～37を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
5	筋力トレーニング理論とプログラムの作成	トレーニング指導者テキストP38～53を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
6	パワー向上トレーニング理論とプログラム作成	トレーニング指導者テキストP54～67を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
7	スピード向上トレーニング理論とプログラム作成	トレーニング指導者テキストP78～85を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
8	スキルのトレーニング①	Reference Book Ｐ192～197を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
9	スキルのトレーニング②	Reference Book Ｐ192～197を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
10	有酸素性持久力向上トレ理論とプログラム作成	トレーニング指導者テキストP68～77を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
11	無酸素性持久力向上トレ理論とプログラム作成	トレーニング指導者テキストP68～77を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
12	ウォーミングアップ	トレーニング指導者テキストP86～93を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
13	クーリングダウンと疲労回復	トレーニング指導者テキストP86～93を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
14	柔軟性向上トレーニング	トレーニング指導者テキストP86～93を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
15	まとめ	トレーニング指導者テキストP12～93を熟読し整理しておくこと（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）

《専門科目》

科目名	機能解剖学				
担当者氏名	藤木　賢二				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
たとえ一つの関節であっても、多くの筋肉が関与し動きが発現しています。本講義では、主に関節の構造をとらえたうえで、運動時の身体の動きについて学習します。また、こうした理解を通して運動に伴うケガの予防や、一流スポーツ選手の解析へと発展させていきます。

《授業の到達目標》
・スポーツ動作に関わる主要な関節の動きのメカニズムを説明できる。
・主要な骨格筋のエクササイズを説明できる。
・各スポーツ動作を上手く行うためのコツを説明できる。

《成績評価の方法》
筆記試験　70%
授業の取組　20%
ミニッツペーパー　10%

《教科書》
「ぜんぶわかる 筋肉・関節の動きとしくみ事典」川島 敏生著、成美堂出版、「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
筆記試験は、次回授業で解説をする。
ミニッツペーパーは、その授業内に採点および解説する。

《成績評価基準》
・関節の動きのメカニズムを理解している。
・主要な骨格筋の効果的なエクササイズの方法を理解している。
・スポーツ動作を安全に上手く行うためのコツを理解している。

《参考図書》
「身体運動の機能解剖」Clem W.Thompson , R.T.Floyd　著、医道の日本社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	基礎知識	【予習】筋肉・関節の動きとしくみ事典(p116～p125)を読んでおく（2.5時間） 【復習】関節の構造、運動についてまとめる（2.5時間）
2	上肢①：手関節	【予習】筋肉・関節の動きとしくみ事典(p34～p39)を読んでおく（2.5時間） 【復習】手関節の構造、運動についてまとめる（2.5時間）
3	上肢②：肘関節	【予習】筋肉・関節の動きとしくみ事典(p24～p33)を読んでおく（2.5時間） 【復習】肘関節の構造、運動についてまとめる（2.5時間）
4	上肢③：肩関節	【予習】筋肉・関節の動きとしくみ事典(p10～p21)を読んでおく（2.5時間） 【復習】肩関節の構造、運動についてまとめる（2.5時間）
5	体幹①	【予習】筋肉・関節の動きとしくみ事典(p76～p81)を読んでおく（2.5時間） 【復習】脊柱の構造とアライメント異常についてまとめる（2.5時間）
6	体幹②	【予習】筋肉・関節の動きとしくみ事典(p82～p92)を読んでおく（2.5時間） 【復習】脊椎、骨盤の運動についてまとめる（2.5時間）
7	下肢①：足関節	【予習】筋肉・関節の動きとしくみ事典(p64～p69)を読んでおく（2.5時間） 【復習】足関節の構造、運動についてまとめる（2.5時間）
8	下肢②：膝関節	【予習】筋肉・関節の動きとしくみ事典(p52～p57)を読んでおく（2.5時間） 【復習】膝関節の構造、運動についてまとめる（2.5時間）
9	下肢③：股関節	【予習】筋肉・関節の動きとしくみ事典(p44～p51)を読んでおく（2.5時間） 【復習】骨盤、股関節の構造、運動についてまとめる（2.5時間）
10	呼吸循環系の機能と構造	【予習】健康運動実践指導者養成用テキスト(p24～p25)を読んでおく（2.5時間） 【復習】呼吸循環器の機能と構造についてまとめる（2.5時間）
11	筋肉の萎縮・リハビリテーション	【予習】筋肉・関節の動きとしくみ事典(第4章)を読んでおく（2.5時間） 【復習】リハビリテーションを実践する（2.5時間）
12	ケガをしない運動方法	【予習】筋肉・関節の動きとしくみ事典(第3章)を読んでおく（2.5時間） 【復習】トレーニング、ストレッチングを実践する（2.5時間）
13	運動と抵抗	【予習】配布資料を読んでおく（2.5時間） 【復習】レジスタンストレーニングを実践する（2.5時間）
14	一流選手の動作分析	【予習】配布資料を読んでおく（2.5時間） 【復習】走、投、跳の動作についてまとめる（2.5時間）
15	まとめ	【予習】各教科書を読んでおく（2.5時間） 【復習】身体運動の構造、機能についてまとめる（2.5時間）

《専門科目》

科目名	スポーツ栄養学				
担当者氏名	荒川　優子				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
各栄養素や食品群等の基礎知識を理解した上で、運動エネルギーや代謝との関連、減量への取り組み等が習得できます。
実務歴：フィットネス施設にて、運動と栄養指導を行う。栄養指導は、栄養価計算や健康教室の開催等。管理栄養士保有。

《授業の到達目標》
健康づくりの主要柱の1つとして「栄養」が挙げられます。本講座では、健康づくりのための運動指導者として、
①活用できる栄養素摂取や食事について説明できるようになる。
②数式を用いてより具体的な指導コミュニケーションができるようになる。
③栄養知識を相互作用させた運動指導が行えるようになる。

《成績評価の方法》
筆記試験　85%
授業の取組　15%

《教科書》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団、
「ReferenceBook」（公財）日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
試験答案を返却する。

《成績評価基準》
①各栄養素を正しく説明できる。
②健康指導に活用される計算ができる。
③運動と関係づけて栄養摂取について説明できる。

《参考図書》
「公認スポーツ指導者養成テキスト」（公財）日本スポーツ協会、「トレーニング指導者テキスト理論編」（NPO）日本トレーニング指導者協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	健康と栄養（三大栄養素）	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
2	健康と栄養（ビタミン・ミネラル）	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
3	健康と栄養（水・食物繊維）	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
4	6つの基礎食品群	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
5	食生活指針、食事バランスガイド	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
6	消化・吸収	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
7	摂取エネルギー・消費エネルギー	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
8	日本人の食事摂取基準	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
9	減量の方法	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
10	生活習慣病との関わり	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
11	運動時におけるエネルギー源	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
12	運動能力と栄養（ｸﾞﾘｺｰｹﾞﾝﾛｰﾃﾞﾝｸﾞ含む）	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
13	アスリートと栄養	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
14	栄養補助食品（サプリメント）について	教科書熟読（2時間） 記述ノート整理（2時間）
15	まとめ	記述ノート整理（2時間） 記述ノート確認（2時間）

《専門科目》

科目名	スポーツ傷害論				
担当者氏名	田村　有深歩				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
実務経験として日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーや鍼灸師の資格を有し競技選手のトレーナーとして活動する教員がスポーツ傷害の基礎知識やその処置法、発生メカニズム等についてスライドを用いて講義を行う。

《授業の到達目標》
・スポーツが健康にどのような効果をもたらすか説明することができる
・スポーツ傷害の基礎的処置（救急処置法）を行う事ができる
・スポーツ傷害の発生メカニズムを知り、予防と対策ができるようになる
・スポーツ傷害受傷後から復帰までのリハビリを立案することができる

《成績評価の方法》
筆記試験　80%
授業の取組　20%

《教科書》
無し

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
講評や解説の時間を設ける。

《成績評価基準》
筆記試験と受講態度で評価をする。
受講態度は配布物への記入や、講義内容をメモするなど、積極的に授業に参加しているかどうかを評価する。

《参考図書》
・トレーニング指導者テキスト（理論編・実践編）大修館書店
・新スポーツ外傷・障害とリハビリテーション　NAPLimited

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツと健康	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
2	スポーツ傷害とは	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
3	スポーツ傷害の基礎的処置（救急処置法）1	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
4	スポーツ傷害の基礎的処置（救急処置法）2	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
5	スポーツ傷害の発生のメカニズム	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
6	スポーツ傷害の予防と対策	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
7	スポーツ傷害受傷から復帰までのリハビリ1	予習：リハビリテーションについて調べておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
8	スポーツ傷害受傷から復帰までのリハビリ2	予習：リハビリテーションについて調べておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
9	部位別傷害とトレーニング	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
10	アスリートの健康管理	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
11	アスリートの内科的障害と対策1	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
12	アスリートの内科的障害と対策2	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
13	アスリートの外傷・障害と対策1	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
14	アスリートの外傷・障害と対策2	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
15	まとめ	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）

《専門科目》

科目名	スポーツ指導論				
担当者氏名	坂元　瑞貴				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
安全に、正しく、楽しいスポーツ活動の実現に望まれるスポーツ・トレーニング指導者に必要な知識を習得し、スポーツ嫌いを作らない質の高いスポーツ・トレーニング指導者になるための授業を行う。

《授業の到達目標》
スポーツ・トレーニング指導に必要とされる基本的な以下のことについて理解する。
①指導者の役割
②指導計画と安全管理
③競技者育成の重要性

《成績評価の方法》
筆記試験　　80%
授業の取組　20%

《教科書》
「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
講義終了後にミニッツペーパーの提出を行い、評価・フィードバックをした上で返却します。

《成績評価基準》
1．指導者の役割について理解し、指導観を深めることができる
2．安全管理の視点を身につけ、指導計画を立案できる
3．競技者育成の重要性について理解することができる

《参考図書》
「子どもたちを輝かせるスポーツコミュニケーションスキル」山口文子、体育とスポーツ出版社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツの意義と価値	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
2	スポーツ指導の目的と目標	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
3	スポーツ指導者になるということ①	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
4	スポーツ指導者になるということ②	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
5	スポーツ指導者の倫理	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
6	スポーツ指導者の心構え・視点①	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
7	スポーツ指導者の心構え・視点②	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
8	スポーツ指導とコミュニケーション①	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
9	スポーツ指導とコミュニケーション②	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
10	スポーツ少年団の活動分野と内容	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
11	総合型地域スポーツスポーツクラブ	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
12	スポーツ指導計画の立案	指導計画について考え、立案する（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
13	スポーツ活動と安全管理	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
14	アスリート発掘・育成の重要性	教科書の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）

《専門科目》

科目名	労働法規				
担当者氏名	大谷　美咲				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
労働法は、社会的弱者といわれる労働者を守る法律といわれている。私たちの多くは労働者として長期間働くことになることを考えた場合、様々なトラブルが降りかかってくる恐れもある。どう対処したらよいのか、労働法はどう規定しているのかを知っていることは私たちが働いていく上で非常に大切なことである。ここでは、労働法全般にわたって講義をしていく。

《授業の到達目標》
①各テーマの重要語句について説明できるようになる。
②現実に起こりうる問題に対し、どのように対処したらよいか考えることができるようになる。

《成績評価の方法》
筆記試験60%
小テスト、課題等40%

《教科書》
指定しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
小テスト、中間テスト等に関しては、全体に対し解説を行う。

《成績評価基準》
小テスト、中間テスト、試験等をもとに総合的に判断する。

《参考図書》
授業中に適宜指示する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	労働法の全体構造	復習およびノート・プリント整理、必要に応じて各自扱ったテーマについてまとめておく（2時間）
2	労働契約	復習およびノート・プリント整理、必要に応じて各自扱ったテーマについてまとめておく（2時間）
3	賃金	復習およびノート・プリント整理、必要に応じて各自扱ったテーマについてまとめておく（2時間）
4	労働時間	復習およびノート・プリント整理、必要に応じて各自扱ったテーマについてまとめておく（2時間）
5	休日・休憩、年次有給休暇	復習およびノート・プリント整理、必要に応じて各自扱ったテーマについてまとめておく（2時間）
6	労働契約の終了	復習およびノート・プリント整理、必要に応じて各自扱ったテーマについてまとめておく（2時間）
7	今までの復習および小テスト	今までの講義の復習を行う（2時間）
8	就業規則	復習およびノート・プリント整理、必要に応じて各自扱ったテーマについてまとめておく（2時間）
9	懲戒処分	復習およびノート・プリント整理、必要に応じて各自扱ったテーマについてまとめておく（2時間）
10	労働組合はなぜ必要？	復習およびノート・プリント整理、必要に応じて各自扱ったテーマについてまとめておく（2時間）
11	労働組合・団体交渉	復習およびノート・プリント整理、必要に応じて各自扱ったテーマについてまとめておく（2時間）
12	争議行為・組合活動	復習およびノート・プリント整理、必要に応じて各自扱ったテーマについてまとめておく（2時間）
13	具体的事例を検討	判例をよく読み、論点について判詞を理解すること。（2時間）
14	不当労働行為	復習およびノート・プリント整理、必要に応じて各自扱ったテーマについてまとめておく（2時間）
15	全体の復習およびまとめのテスト	全体の復習および試験勉強を行う（2時間以上）

《専門科目》

科目名	運動遊び				
担当者氏名	小川　茜				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
幼少の頃から身体を動かすことの意義や必要性を学ぶと同時に、多種多様な運動遊びを体験し、立案・指導できるようになりましょう。
本授業では以下の内容を行います
1．授業内での運動遊びの体験 2．学外イベントにおける運動遊びプログラムの提供　3．学生を指導対象とした運動遊びのプログラム立案及び指導

《授業の到達目標》
1．多様な運動遊びを学び、実践できる
2．安全管理に配慮した上で子どもたちに運動の楽しさ・喜び・達成感が実感できる運動遊びを応用・創意工夫し、立案・指導できる
3．発達段階に応じた遊びの提案・指導ができる

《成績評価の方法》
レポート　10%
実技　50%
授業の取組　40%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
授業内提出物は評価・フィードバックをした上で返却します

《成績評価基準》
1．多様な運動遊びを学び、毎回学びのレポートにまとめ提出する
2．学外イベントにおいて運動遊びプログラムの提供・指導を行う
3．グループで指導プログラムを立案し、学生を対象として運動遊びプログラムの模擬指導を行う

《参考図書》
「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」日本スポーツ協会、「Reference Book」日本スポーツ協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	自身が体験したことのある運動遊びについてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
2	アイスブレイク、 身近にあるものを使った遊び	場を和ませるアイスブレイクのゲームにどのようなものがあるか調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
3	年齢・体力に応じた指導	体力学及び発育発達論で学んだ内容を復習する（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
4	運動遊び、スポーツの指導	指導時の注意事項を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
5	発達段階に応じた運動遊びの展開例	発達段階別の運動遊びの注意点を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
6	運動あそびのアレンジ	これまでに学んだ運動遊びプログラムのアレンジを考える（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
7	道具を使った遊び	身近にある道具（新聞紙や風船など）でどのような遊びができるか考える（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
8	道具を使った遊び	ボール、跳び箱、縄跳びのような道具を使って体験したことのある運動遊びをまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
9	道具を使った遊び	ボール、マット、鉄棒のような道具を使って体験したことのある運動遊びをまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
10	親子の運動遊び、集団ゲーム	自身が体験したことのある親子遊びや集団ゲームについてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
11	親子の運動遊び、集団ゲーム	自身が体験したことのある親子遊びや集団ゲームについてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
12	ミニ運動会準備	運動会の種目の準備を行う（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
13	ミニ運動会	自身の役割遂行のための準備をする（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
14	運動あそびとコーディネーショントレーニング	コーディネーショントレーニングの重要性について調べてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
15	運動あそびとコーディネーショントレーニング	コーディネーショントレーニングのプログラムについて調べてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）

《専門科目》

科目名	レクリエーション活動援助法ＩＢ				
担当者氏名	星子　和夫				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
レクリエーション指導者に求められる資質は、相手と同じ考えを共有するための「コミュニケーション能力」である。この能力を高めるためには信頼関係を築くたの「ホスピタティ」や良好な集団づくりのための「アイスブレーキング」、動機づけの理論に裏付けられた「自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法」を学習する。本授業は「レク・インストラクター」資格取得のための指定科目である。

《授業の到達目標》
レクリエーション活動や余暇活動を通して、人々の心を元気にするための支援の知識を身につけながらそれらの活動を有効に活用するための理論と方法を考察し、指導現場に活かすことができるようになる。指導者として前に立つ前に、受講生としてレクリエーション活動の内容を客観的にとらえ受講体験をもとに、指導者としての知識と技術を身につける。

《成績評価の方法》
レポート　75%
授業への取組　25%

《教科書》
「楽しさをとおした心の元気づくり」（公財）日本レクリエーション協会、「レクリエーション支援ハンドブック」（NPO）福岡県レクリエーション協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
各イベントや指導ごとに振り返り、問題・改善点を提示・提案し、個人への課題については評価をして返却する。そして、実践指導の中で振り返ってもらう。

《成績評価基準》
レクリエーション支援の知識を身につけるとともに、それらの活動を有効に活用するための理論と方法を考察し振り返ることができる。また、指導現場に求められる役割を考え活かすことができる。

《参考図書》
適宜プリントを配布する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション、ホスピタリティとは	前期で学習した理論をもとに指導計画を立て役割を考えておく（1時間） 計画を振り返り、指導者としての役割を自覚してまとめておくこと（3時間）
2	あたたかくもてなす意識と配慮、レク体験	ホスピタリティを再考し、体験学習の準備しておくこと（2時間） 今回の授業で学習したことを振り返えり、まとめておくこと（2時間）
3	気持ちをひとつにするコミュニケーション	コミュニケーションを意識し体験学習にのぞむ準備をしておくこと（2時間） 今回の授業で学習したことを振り返えり、まとめておくこと（2時間）
4	レクリエーション活動の習得1　レク体験	イベント概要を考え、役割分担などの詳細をまとめておくこと（2時間） 指導者と受講者同士の関係性について振り返えり、まとめておくこと（2時間）
5	レクリエーション活動の習得2　レク体験	イベントの参加者に対しての立ち居振る舞いを考えておくこと（2時間） 易から難へのプログラムを感じながら振り返ること（2時間）
6	レクリエーション活動の習得3　レク体験	イベント概要を考え、役割分担などの詳細をまとめておくこと（2時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと（2時間）
7	レクリエーション活動の習得4　レク体験	イベント概要を考え、役割分担などの詳細をまとめておくこと（2時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと（2時間）
8	子ども対象のレクリエーション、レク体験	対象者に適したプログラム内容を考えておくこと（2時間） 今回の授業で学習したことを振り返え、まとめておくこと（2時間）
9	一般成人、高齢者対象のレクリエーション	イベントの参加者に対しての立ち居振る舞いを考えておくこと（2時間） 行動計画にそった動きと全体の動きが適合できたか検討しておくこと（2時間）
10	安全管理の方法とレク指導計画	イベントの参加者に対しての立ち居振る舞いを考えておくこと（2時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと（2時間）
11	プログラムの立案（指導案の作成）	各グループに分かれプログラムの内容を検討しておくこと（2時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと（2時間）
12	レクリエーション指導の実践①	各グループに分かれプログラムの内容を検討しておくこと（2時間） 指導者は指導内容を振り返り受講者は指導内容の長所をまとめておくこと（2時間）
13	レクリエーション指導の実践②	各グループに分かれプログラムの内容を検討しておくこと（2時間） 指導者は指導内容を振り返り受講者は指導内容の長所をまとめておくこと（2時間）
14	レクリエーション指導の実践③	各グループに分かれプログラムの内容を検討しておくこと（2時間） 指導者は指導内容を振り返り受講者は指導内容の長所をまとめておくこと（2時間）
15	レクリエーション指導の実践④　まとめ	各グループに分かれプログラムの内容を検討しておくこと（2時間） これまでに学んだ内容を復習しておくこと（2時間）

《専門科目》

科目名	パラスポーツ論				
担当者氏名	高木　富士男				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

障がい（身体・知的・精神）の原因と病態を知り、障がい特性に合わせた競技ルールの変更点と用具の工夫について学ぶ。また、障がいの特性を理解し、障がいに配慮した指導方法を考えていく。

障がいのある人とのコミュニケーションでは、配慮すべきポイントや具体的な聞き方や伝え方の工夫について学ぶ。

《授業の到達目標》

スポーツのインテグリティについて理解を深め、スポーツに関わる者のあるべき姿、行動ができ、障がい（身体・知的・精神）の特性、スポーツ指導上の留意点について説明できる。また、障がいの特性に応じたルール、道具、環境づくりが行えるようになる、障がいに配慮したスポーツの支援または指導が行えるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験　70%
レポート　20%
授業の取組　10%

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

筆記試験のフィードバックとして、講評及び解説の時間を設ける。

《成績評価基準》

筆記試験（70%）、レポート（20%）、受講態度（10%）により評価する。

《参考図書》

障がい者のある人のスポーツ指導教本（初級・中級）　2020年改訂カリキュラム対応（公財）日本障がい者スポーツ協会編／ぎょうせい

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	障がい者とスポーツ	興味のある障がい者スポーツについて調べる（2時間） ルール、用具等の整理（2時間）
2	障がい者スポーツに関する諸施策	日本パラスポーツ協会HP を検索し歴史と現状を調べる（2時間） 歴史と現状の整理（2時間）
3	福岡市障がい者スポーツ大会ボランティア	福岡市障がい者スポーツ協会HP を検索し事業内容を調べる（2時間） 福岡市の事業内容の整理（2時間）
4	障がい者スポーツの意義と理念	配布資料の熟読（2時間） 配布資料の整理（2時間）
5	インテグリティと指導者に求められる資質	配布資料の熟読（2時間） 配布資料の整理（2時間）
6	安全管理	配布資料の熟読（2時間） 配布資料の整理（2時間）
7	障がい各論 身体障がい	配布資料の熟読（2時間） 配布資料の整理（2時間）
8	障がい各論 身体障がい	配布資料の熟読（2時間） 配布資料の整理（2時間）
9	障がい各論 知的障がい	配布資料の熟読（2時間） 配布資料の整理（2時間）
10	障がい各論 精神障がい	配布資料の熟読（2時間） 配布資料の整理（2時間）
11	コミュニケーションスキルの基礎	配布資料の熟読（2時間） 配布資料の整理（2時間）
12	全国障害者スポーツ大会の概要	日本パラスポーツ協会HPを検索し全国障害者スポーツ大会について調べる（2時間） 全国障害者スポーツ大会概要の整理（2時間）
13	障がい者スポーツ推進の取り組み①	日本パラスポーツ協会HP を検索しスポーツ推進について調べよう（2時間） 日本パラスポーツ協会のスポーツ推進の整理（2時間
14	障がい者スポーツ推進の取り組み②	福岡県障がい者スポーツ協会HP を検索しスポーツ推進について調べる（2時間） 福岡県障がい者スポーツ協会のスポーツ推進の整理（2時間）
15	まとめ	指導者像について考える（2時間） 指導者像をまとめる（2時間）

《専門科目》

科目名	球技スポーツⅡ				
担当者氏名	山野　明				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
○ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ:基本ｽｷﾙ及び全国障害者ｽﾎﾟｰﾂ大会で実施される競技種目を習得する。また、競技審判について理解し支援者として活動できることを目指す。○ﾎﾞｯﾁｬ:ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸの正式競技のﾙｰﾙ、対戦方法、競技審判について理解し、実践を通してﾎﾞｯﾁｬの楽しさを体感する。○ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ:基本ｽｷﾙ及びﾁｰﾑﾌﾟﾚｰを習得し、実践できるようにする。また、ｹﾞｰﾑを通してﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙの楽しさを体感する。

《授業の到達目標》
○ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ:基本ｽｷﾙ(ｽﾛｰｲﾝｸﾞ&ｷｬｯﾁﾝｸﾞ)及び競技種目(ｱｷｭﾗｼｰ&ﾃﾞｨｽﾀﾝｽ)を習得し実践することができる。競技運営について支援することができる。○ﾎﾞｯﾁｬ:競技概要(対象者、用具、ｺｰﾄ)を習得し説明することができる。○ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ:基本ｽｷﾙ及び応用、ﾁｰﾑﾌﾟﾚｰについて習得し実践することができる。ｹﾞｰﾑを通して個々のﾚﾍﾞﾙを理解し、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを図りながらﾚﾍﾞﾙｱｯﾌﾟを目指す。

《成績評価の方法》
実技　50%
授業の取組　50%

《教科書》
使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
フライングディスク、ボッチャ及びバスケットボールの取組に対して適宜フィードバックを受けます。

《成績評価基準》
○ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸの基本スキル(ｽﾛｰｲﾝｸﾞ&ｷｬｯﾁﾝｸﾞ)及びｱｷｭﾗｼｰ&ﾃﾞｨｽﾀﾝｽ競技を習得し実践できたか。
○ﾎﾞｯﾁｬの概要（用具、ｺｰﾄ設営）を習得し、個人戦、ﾍﾟｱ戦、団体戦)を実践できたか。
○ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙの基本ｽｷﾙを習得しﾁｰﾑﾌﾟﾚｰを習得できたか。

《参考図書》
○フライングディスク競技指導者テキスト（発行者　一般社団法人日本フライングディスク協会)○かんたん！ボッチャガイド(発行者　公益財団法人日本パラスポーツ協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ競技の概要と基本ｽｷﾙの習得	予習：基本ｽｷﾙの動作について調べよう（30分） 復習：苦手なｽｷﾙの復習（30分）
2	ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ競技の実践①(ｱｷｭﾗｼｰ競技)	予習：ｱｷｭﾗｼｰ競技について調べよう（30分） 復習：今回の授業内容の復習（30分）
3	ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ競技の実践②(ﾃﾞｨｽﾀﾝｽ競技)	予習：ﾃﾞｨｽﾀﾝｽ競技について調べよう（30分） 復習：今回の授業内容の復習（30分）
4	ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ競技運営(審判)について	予習：競技運営について調べよう（30分） 復習：今回の授業内容の復習（30分）
5	ﾎﾞｯﾁｬの概要と実践①	予習：競使用するｺｰﾄ・ﾙｰﾙについて調べよう（30分） 復習：今回の授業内容の復習（30分）
6	ﾎﾞｯﾁｬの実践②(個人戦)	予習：個人戦ついて調べよう（30分） 復習：今回の授業内容の復習（30分）
7	ﾎﾞｯﾁｬの実践③(ﾍﾟｱ戦)	予習：ﾍﾟｱ戦について調べよう（30分） 復習：今回の授業内容の復習（30分）
8	ﾎﾞｯﾁｬの実践④(団体戦)及び競技運営について	予習：団体戦について調べよう（30分） 復習：今回の授業内容の復習（30分）
9	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙの基本ｽｷﾙの習得	予習：基本スキルのポイントについて調べよう（30分） 復習：今回の授業内容の復習（30分）
10	ﾁｰﾑ別に基本ｽｷﾙの習得、ﾐﾆｹﾞｰﾑ	予習：基本スキルのポイントについて調べよう（30分） 復習：今回の授業内容の復習（30分）
11	ﾁｰﾑ別に基本ｽｷﾙの応用(3対2、3対3)、ﾐﾆｹﾞｰﾑ	予習：基本スキルの応用のポイントについて調べよう（30分） 復習：今回の授業内容の復習（30分）
12	ﾁｰﾑﾌﾟﾚｰの習得①(ｵﾌｪﾝｽ編)、ﾐﾆｹﾞｰﾑ	予習：オフェンス方法について調べよう（30分） 復習：今回の授業内容の復習（30分）
13	ﾁｰﾑﾌﾟﾚｰの習得②(ﾃﾞｨﾌｪﾝｽ編)、ﾐﾆｹﾞｰﾑ	予習：ディフェンス方法について調べよう（30分） 復習：今回の授業内容の復習（30分）
14	総合練習、ゲーム	予習：チームで作戦を立てよう（30分） 復習：ゲームの評価（30分）
15	まとめ	予習：自己＆チーム評価してみよう（30分） 復習：チーム全体での評価（30分）

《専門科目》

科目名	フィットネスプログラム演習				
担当者氏名	平塚　泉				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
民間のスポーツクラブで行われている様々なプログラム体験し、健康・体力づくりの為に必要な運動の基本を学ぶ。
授業終盤に実技試験「プログラムラム作成」「インストラクション」を行い指導者としての「基本」を構築していく。
①ストレッチ　②レジスタンス運動(筋力トレーニング)
③音楽に合わせて行うエクササイズ(エアロビックダンス・ヒップホップ等)

《授業の到達目標》
「インストラクション」「解剖学」「運動生理学」学び、指導者としての「基本」を構築する事を目標とする。
目標1:エクサササイズの目的(健康・体力づくり)を理解し、自らが効果を出せる身体づくりができる。 目標2:自らが体験した運動の効果(行動体力である柔軟性や巧緻性など)を他人に伝える事ができる。 目標3:グループレッスンの特徴である「カウント」「音楽」に合わせて運動指導が出来る様になる。

《成績評価の方法》
筆記試験　0%　レポート　20%
課題　%　実技50%
授業の取組　30%
その他（　　）　%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
①この演習（授業）を受けて今後の自分に役立つ事。
②授業を受けての感想。フィードバックは特になし。評価の対象とする。

《成績評価基準》
授業を通じてフィットネスプログラムの楽しさやその重要性に気づき、授業内での取り組み方(学習態度・ 意欲)は勿論の事、各自の体力向上やスキルアップが出来ているか授業内で評価する。また実技試験は運動指導者として必要なインストラクションが最低ラインまで達しているかどうか評価する。

《参考図書》
適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション(自己紹介)(実技:1)	予習：自己紹介シート準備（15分) 復習：クラス目的と自身の課 題を明確にする(15分)
2	目的(健康・体力づくりの運動)　(実技:1・2・3)	予習：フィットネスについ て(30分) 復習：ストレッチの実践の 復習(30分)
3	健康づくりの運動の説明(実技:1)	予習：健康づくりについて（30分) 復習：ストレッチの実践の 復習(30分)
4	体力について理解と目的(実技:2)	予習：体力について(30分) 復習：コンディショニング の復習(30分)
5	音楽に合わせた運動の特徴　(実技:3)	予習：音楽に合わせた運動 について(30分) 復習：音楽に合わせた運動に ついての復習(30分)
6	運動強度と変換方法　(実技:1・2・3いずれか)	予習：運動強度について（30分) 復習：運動強度についての 復習(30分)
7	運動強度の変換方法2　(実技:1・2・3いずれか)	予習：運動強度変換方法に ついて(30分) 復習：運動変換方法の実践 の復習(30分)
8	骨格筋とストレッチの重要性　(実技1・2)	予習：骨格筋について(30分) 復習：骨格筋の復習(30分)
9	キューイング1（上肢）バーバルキュー(実技:3)	予習：インストラクション について(30分) 復習：キューイングの種類 の復習(30分)
10	キューイング2 （ステップ）　バーバル(実技:3)	予習：キューイングについ て(30分) 復習：バーバルキューの復 習(30分)
11	キューイング3　(試験対策1)(実技:1・2・3)	予習：ボディーキューについて(30分) 復習：キューイングの種類 について(30分)
12	実技指導ができる(試験対策2)　(実技:1・2・3)	予習：試験種目の選択(30 分) 復習：試験対策(2時間)
13	試験1(実技:1・2・3いずれか)	予習：試験準備(1時間) 復習：試験対策(2時間)
14	試験2(実技:1・2・3いずれか)	予習：試験準備(1時間) 復習：試験の復習(30分)
15	まとめ(実技:1・2・3いずれか)	予習：レポート準備（フィトネスプログラムについて） 復習：授業を受けての感想レポート(1時間)

《専門科目》

科目名	スポーツボランティア演習Ⅱ				
担当者氏名	星子　和夫、高木　富士男、小川　茜、坂元　瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》
指定するボランティア活動に参加します。週末祝日での活動もあります。主体的に取り組んでくれることを期待します。活動場所は、福浜地区健康体操教室、福岡市障がい者スポーツ大会、障がい者サッカー教室、楽動塾、西短キッズスポーツフェスティバル、福岡城秋の舞鶴公園であそぼう、などを予定しています（新型コロナウイルスの状況によっては変更有）。

《授業の到達目標》
1．ボランティアの在り方について学習する
2．ボランティア活動を通して「支える」意義を発見する
3．礼儀、マナー、社会常識、コミュニケーションスキルを高める

《成績評価の方法》
課題　40%
授業の取組　60%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出物は評価・フィードバックをして返却します

《成績評価基準》
1．各ボランティアにおいて、真摯に取り組むことができる
2．ボランティア活動後にレポートを提出する

《参考図書》
「大学生学びのハンドブック（3訂版）」世界思想社編集部（編）世界思想社、「就職活動ハンドブック」西短進路指導部（学生へ配布済み）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
2	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
3	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
4	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
5	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
6	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
7	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
8	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
9	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
10	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
11	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
12	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
13	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
14	ボランティア活動の実践	事前指導に従いレポートを作成する（30分）・事後指導に従いレポートを作成する（30分）
15	まとめ	ボランティア活動で学んだ内容をまとめる（30分）今回の授業内容の復習（30分）

《専門科目》

科目名	スポーツ企業実習Ⅰ				
担当者氏名	星子　和夫、高木　富士男、小川　茜、坂元　瑞貴				
授業方法	実習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》
実習期間中で、これまでに学習してきた身体・健康体力づくりの基礎知識やスポーツ・健康の指導技術、健康・安全管理、コミュニケーション能力を駆使し、「支えるスポーツ」を念頭におき、実習後の振り返りを課題にすることができる。なお、この科目は、資格取得のための要件単位となる資格もあるが、実習規定により必修科目の単位未修得者は実習を許可しない。

《授業の到達目標》
スポーツ企業の業務内容の実際と企業研究したものとを比較しまとめることができ、その企業に関わるお客様やスタッフなどとコミュニケーションを図りながら事の解決に取り組み、円滑な実習をすることができる。そのためには、おもてなしの心である「ホスピタリティ」を大切にし、お客様やスタッフのニーズに応えるための「コミュニケーション能力」、「プレゼンテーション能力」などを自然体で活用できるようになる。

《成績評価の方法》
課題、実習ノート内容、報告会評価　各15%
授業の取組　55%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
実習の事前指導、実習中における指導担当者、実習ノートを確認しながらその都度、実習に対する態度および指導を行う。

《成績評価基準》
実習巡回での指導担当者の報告や実習ノートから「ホスピタリティ」、「コミュニケーション能力」、「プレゼンテーション能力」などが自然に活用され養われるようになったか、また、これらが不十分だったとしてもその後の取り組みが適切であったかで判断する。また、実習後の報告内容およびプレゼンテーション能力を加味し評価する。

《参考図書》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康体力づくり事業財団

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	実習事前指導1および実習手続きについて	企業情報演習をもとに企業実習のあり方をまとめて考察しておく（1時間） より深い理解のために実習の心構えを含め、復習しておくこと（1時間）
2	実習事前指導2	より具体的な実習を遂行するために、与えられた課題を考えておくこと（1時間） 今回の授業で学んだ内容を復習し準備しておくこと（1時間）
3	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
4	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
5	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
6	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
7	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
8	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
9	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
10	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
11	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
12	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
13	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
14	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
15	まとめ	実習の内容をまとめ、実習や将来について考察しておくこと（1時間） この実習で学んだ内容を復習し、報告会に向けてまとめておくこと（1時間）

《専門科目》

科目名	検定読解Ⅱ				
担当者氏名	（未定）				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

《教科書》

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

《授業の到達目標》

《成績評価基準》

《成績評価の方法》

筆記試験　　%　レポート　　%
課題　　%　実技　　%
授業の取組　%　その他（　　）　%

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	検定文法Ⅱ				
担当者氏名	入江　千治				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
留学生が日本の生活で必要な日本語能力を上げるためには、文法を身につけることが必要になります。授業の中で、文法の理解を深めながら繰り返し練習をしていきましょう。
この授業は、復習がとても重要です。授業のあとは必ず復習をしてください。また毎回の小テストを通して、自分の苦手なところをよく確認し、日本語能力のレベルアップにつなげてください。

《授業の到達目標》
・授業で学んだ日本語文法をよく理解し、文を作ることができる。
・日本語能力試験の問題において、正しい答えを導き出せる。

《成績評価の方法》
・期末試験50%
・小テスト・課題30%
・授業への取り組み20%

《教科書》
『TRY！日本語能力試験N2　文法から伸ばす日本語』（アスク出版）
（レベルによってN2またはN3）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
・毎週小テストを行い、翌週フィードバックを行う。
・毎週、宿題を提出し、翌週返却、フィードバックを行う。

《成績評価基準》
・まじめに授業に取り組んでいたか。
・授業で取り上げた文法をよく理解し、文法力が向上できたか。
・日本語能力試験の問題において、正しい答えが導き出せるようになったか。

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	授業についての説明 文法　導入・練習	予習：テキストの内容を確認／過去に学んだ文法の復習をしておく。（30分） 復習：第1回授業内容の復習（30分）
2	小テスト 文法　導入・練習	予習：第2回授業内容の予習（30分） 復習：第2回授業内容の復習（30分）
3	小テスト 文法　導入・練習	予習：第3回授業内容の予習（30分） 復習：第3回授業内容の復習（30分）
4	小テスト 文法　導入・練習	予習：第4回授業内容の予習（30分） 復習：第4回授業内容の復習（30分）
5	小テスト 文法　導入・練習	予習：第5回授業内容の予習（30分） 復習：第5回授業内容の復習（30分）
6	小テスト 文法　導入・練習	予習：第6回授業内容の予習（30分） 復習：第6回授業内容の復習（30分）
7	小テスト 文法　導入・練習	予習：第7回授業内容の予習（30分） 復習：第7回授業内容の復習（30分）
8	小テスト 文法　導入・練習	予習：第8回授業内容の予習（30分） 復習：第8回授業内容の復習（30分）
9	小テスト 文法　導入・練習	予習：第9回授業内容の予習（30分） 復習：第9回授業内容の復習（30分）
10	小テスト 文法　導入・練習	予習：第10回授業内容の予習（30分） 復習：第10回授業内容の復習（30分）
11	模擬試験 文法　導入・練習	予習：第11回授業内容の予習（30分） 復習：第11回授業内容の復習（30分）
12	小テスト 文法　導入・練習	予習：第12回授業内容の予習（30分） 復習：第12回授業内容の復習（30分）
13	小テスト 文法　導入・練習	予習：第13回授業内容の予習（30分） 復習：第13回授業内容の復習（30分）
14	小テスト 文法　導入・練習	予習：第14回授業内容の予習（30分） 復習：第14回授業内容の復習（30分）
15	総復習 総まとめ	予習：第15回授業内容の予習（30分） 復習：第15回授業内容の復習（30分）

《専門科目》

科目名	検定文字語彙Ⅱ				
担当者氏名	（未定）				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

《教科書》

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

《授業の到達目標》

《成績評価基準》

《成績評価の方法》

筆記試験　　%　レポート　　%
課題　　%　実技　　%
授業の取組　%　その他（　　）　%

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡ				
担当者氏名	高藤　純子、井上　しづ恵				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
時事用語やビジネス用語をきちんと理解し、常識を身に付ける。表やグラフ、統計を理解し、問題を提起できるようにする。新聞記事などを読んで、課題を見つけ、解決につながる糸口を提起できるようにする。
＊学生の興味・習熟度を優先し内容を変更することもある。

《授業の到達目標》
・インターンシップ前におさえておきたいビジネス知識やビジネスマナーを理解することができる。
・仕事に役立つ論理力を養うことができる。
・時事用語やビジネス用語を理解することができる。
・表やグラフを見て、問題発見や分析ができる。

《成績評価の方法》
筆記試験　40%　レポート　%
課題　%　実技　%
授業の取組　60%
その他（　　）　%

《教科書》
ハンドアウト

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
授業内で演習をし、解説する

《成績評価基準》
授業での演習を通して思考力、分析力を身につけることができたかを評価する。
授業内での積極性を評価する。

《参考図書》
適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	キャリアと仕事へのアプローチ	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
2	会社活動の基本	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
3	話し方と聞き方のポイント	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
4	接客と営業の進め方	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
5	不満を信頼に変えるクレーム対応	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
6	会議への出席とプレゼンテーション	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
7	チームワークと人のネットワーク	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
8	仕事の進め方	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
9	ビジネス文書の基本	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
10	統計・データの読み方、まとめ方	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
11	情報収集とメディアの活用	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
12	会社数字の読み方	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
13	ビジネスと法律・税金知識	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
14	産業と経済の基礎知識	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
15	知識・読解・分析などの総括	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する

《専門科目》

科目名	ビジネスライティング				
担当者氏名	志田　華奈子、高藤　純子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

自らの意見や立場を言葉で明確に表明することは社会人として必要なスキルである。日本語は書き言葉や話し言葉、場面などで、さまざまな使い分けが必要な言語である一方、新しい表現を生み出しやすい言葉でもある。この授業では、さまざまな資料から多くの日本語表現に触れつつ、自らも文章を書き、他者への伝わり方を議論することで、コミュニケーションの道具としてのことばを活用できるスキルを磨く。

《授業の到達目標》

・社会に出るにあたって必要な文章力や表現力を磨き、場面に応じた日本語表現を使用することができる。
・自らの意見や表現したいことを、他者がわかりやすいように言葉に表すことができる。
・語彙力や表現力を伸ばすために、普段から身の回りにおけることばの表現に関心を持ち、調べ、それらを使用できようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験　40%
課題　30%
授業の取組　30%

《教科書》

適宜プリントを配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

コメントをつけて返却する

《成績評価基準》

・社会に出るにあたって必要な文章力や表現力を磨き、場面に応じた日本語表現を使用することができたか。
・自らの意見や表現したいことを、他者がわかりやすいように言葉に表すことができたか。
・語彙力や表現力を伸ばすために、身の回のことばの表現に関心を持ち調べ、それらを使用できようになったか。

《参考図書》

『大学生のための日本語表現トレーニング』橋本修（三省堂）
『形容詞を使わない大人の文章表現力』石黒圭（日本実業出版社）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
2	話し言葉と書き言葉	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
3	描写①（見たものを描写する）	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
4	描写②（絵や動画を描写する）	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
5	形容詞問題	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
6	外面と感覚の表現	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
7	伝え方のコツ①（依頼）	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
8	伝え方のコツ②（効果的な表現）	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
9	SDS法・文章のコツ	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
10	敬語表現	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
11	メールの書き方	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
12	ビジネス文書	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
13	自己PR文①（自己分析）	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
14	自己PR文②（文作成）	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）
15	期末試験　まとめ	予習：提示された課題について調べておく。（30分） 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。（30分）

《専門科目》

科目名	実践的プログラミング演習Ⅱ				
担当者氏名	柿山　達哉、常岡　直樹				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
①Windows操作
②メール操作の習熟
③Excelでの便利機能
④実社会でのパソコンの利用例体験
⑤プログラムの基礎Ⅱ
上記内容を中心に総合的な活用術を習得する。
週ごとのテーマは学生の理解度に合わせて変更する。

《授業の到達目標》
2年間でパソコンを実際に活用できる力を身に着けることが目標。
演習Ⅱでは実社会での応用を講義を中心に据えて構成する。
有効にPCを活用する力を身につける。

《成績評価の方法》
課題６０％
授業の取組４０％

《教科書》
適宜プリントを配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
講義毎に課題を出し、提出された課題の評価で成績を評価する。毎回の積み上げなので、出席率の低下と課題の提出率の低下は比例するため、出席率が悪いと評価は下がる。

《成績評価基準》
・講義に対し意欲的に取り組んでいたか。
・課題に対して真摯に取り組むことができたか。
・課題を理解して自分の力として身に着けることができたか。
・講義を楽しむことができたか。

《参考図書》
講義の内容にあわせて、各種説明資料等を講師が作成し配布する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	パソコン利用体験 環境準備	予習：なし 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
2	パソコン利用体験 環境準備	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
3	パソコン利用体験 ロールプレイングⅠ	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
4	パソコン利用体験 ロールプレイングⅠ	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
5	パソコン利用体験 ロールプレイングⅠ	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
6	パソコン利用体験 ロールプレイングⅠ	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
7	パソコン利用体験 ロールプレイングⅠ	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
8	パソコン利用体験 ロールプレイングⅡ	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
9	パソコン利用体験 ロールプレイングⅡ	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
10	パソコン利用体験 ロールプレイングⅡ	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
11	パソコン利用体験 ロールプレイングⅡ	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
12	パソコン利用体験 ロールプレイングⅢ	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
13	パソコン利用体験 ロールプレイングⅢ	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
14	パソコン利用体験 ロールプレイングⅢ	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
15	パソコン利用体験 ロールプレイングⅢ	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）

1 年 通 年

2 年 前 期

《基礎科目》

科目名	英語Ⅰ				
担当者氏名	西村　紀子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》
基礎文法を学び、英文法の知識を再確認する。
日常会話でよく使う「文型」を多く挙げ、英語の表現に親しんでいく。
毎回語彙テストを行い、語彙や熟語を増やすことを心掛け、TOEICや英検などの資格試験の取得も視野に入れて取り組む。

《授業の到達目標》
中学までに学んだ基礎的な文法や語彙を確認し、同時に日常会話に必要な表現も身につけ、総合的に学習を進める。
英語力に必要な基本的文法構造を学び習得し、基礎的語学力を身につける。

《成績評価の方法》
筆記試験 30%　レポート　-%
課題　-%　実技　-%
授業の取組　35%
その他（提出物）35%

《教科書》
プリント配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
期末試験のフィードバックは希望に応じて行います。

《成績評価基準》
授業で学習した基礎的な文法を理解しているか。
日常会話に必要な表現が身についているか。
基本的文法構造を理解し、読む書く聞く話すの4技能につなげられているか。

《参考図書》
「英会話の基本文型８７」

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	英文構造について	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
2	品詞について　Be動詞	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
3	一般動詞	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
4	一般動詞とBe動詞の区別、応用練習	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
5	時制（現在、過去、現在・過去進行形）	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
6	時制（現在、過去、現在・過去進行形）演習	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
7	文の種類（肯定文、否定文、疑問文）	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
8	文の種類（肯定文、否定文、疑問文）演習	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
9	疑問詞を使う疑問文	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
10	疑問詞を使う疑問文演習	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
11	接続詞を使った英作文①	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
12	接続詞を使った会話文②	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
13	頻度の高い動詞句（希望、予定、強制）	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
14	練習、前期学習内容の総復習	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
15	前期学習内容の理解確認	復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）

《基礎科目》

科目名	キャリア演習Ⅱ				
担当者氏名	高木　富士男、小川　茜				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》
1．キャリア形成、社会人基礎力向上に関する授業を行います。
2．個人で課題を設定し、解決する取り組みを行います。

《教科書》
「大学生学びのハンドブック（5訂版）」世界思想社編集部（編）世界思想社、「就職活動ハンドブック」西短進路指導部（学生へ配布済み）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出物は適宜評価・フィードバックをして返却します

《授業の到達目標》
1．社会人としての在り方、心構えを身に付ける
2．対人基礎力を身に付ける
3．対課題発見力を身に付ける
4．伝える技術（プレゼンテーション）を身に付ける

《成績評価基準》
1．授業の内容を踏まえ、かつ与えられる課題を通して、進路選択に関連する取り組みを実践できる
2．課題を設定し、それを解決するための取り組みを行い、人に分かりやすく伝えることができる
3．授業内で取り組む一般常識問題について6割以上解答できる

《成績評価の方法》
課題　80%
授業の取組　20%

《参考図書》
適宜紹介

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、年間計画作成	2年次の過ごし方について考え、まとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
2	進路支援①第2回就職模擬試験	一般常識問題について勉強する（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
3	進路支援②キャリアについて	自身の進路をまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
4	進路支援③実習報告会	興味のある職業についてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
5	進路支援④キャリアについて	自身の進路をまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
6	進路支援⑤OBOGへのキャリアインタビュー	興味のある職業についてまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
7	進路支援⑥キャリアについて	自身の進路をまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
8	個人ワーク①	自身の問題意識を明確にし、興味のあるテーマを考える（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
9	個人ワーク②	自身の問題意識を明確にし、興味のあるテーマを考える（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
10	個人ワーク③	自身の問題意識を明確にし、興味のあるテーマを考える（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
11	プレゼンテーション①	発表資料の作成準備と発表練習を行う（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
12	個人ワーク④	自身の問題意識を明確にし、興味のあるテーマを考える（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
13	個人ワーク⑤	自身の問題意識を明確にし、興味のあるテーマを考える（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
14	プレゼンテーション②	発表資料の作成準備と発表練習を行う（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
15	進路支援⑦キャリアについて	自身の進路をまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）

《専門科目》

科目名	スポーツ心理学				
担当者氏名	小川　茜				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
運動指導の現場では、効率的な運動学習、競技力向上のためのメンタルトレーニング、健康の維持増進のための心理的支援など、多岐にわたって心理学的知識が必要とされる。本授業ではそれらの基礎知識を得るために、講義に加え、質問紙やメンタルトレーニングの実践、議論を通じて、運動現場における多角的な心理的支援について考える。

《授業の到達目標》
1．講義、実践、議論を通じて、スポーツ心理学に関する基礎知識を説明できる

《成績評価の方法》
筆記試験　60%　レポート　%
課題　%　実技　%
授業の取組　40%
その他（　　）　%

《教科書》
日本スポーツ協会テキスト
トレーニング指導者テキスト
健康運動実践指導者養成用テキスト

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出物は評価・フィードバックをした上でその後の授業で返却します

《成績評価基準》
1．試験において、授業で説明した内容を6割以上解答できる
2．授業内のディスカッションや発表、ワークにおいて調査結果や自身の意見を分かりやすく伝えられる
3．与えられる課題に期日通りに取り組むことができる

《参考図書》
「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信（著）大修館書店、その他適宜紹介

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツ心理学とは	自身の経験を振り返り、スポーツ現場において必要な心理学的知識は何かを考え、まとめる（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
2	運動と認知	教科書の該当範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
3	運動学習	教科書の該当範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
4	スポーツにおける動機づけ	教科書の該当範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
5	スキルに応じたスポーツ指導	教科書の該当範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
6	運動嫌いとその指導法	教科書の該当範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
7	スポーツとパーソナリティ形成	教科書の該当範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
8	発達に応じたスポーツ指導	教科書の該当範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
9	行動や性格の特徴に応じた運動指導	教科書の該当範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
10	運動実践と環境	教科書の該当範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
11	運動と高齢者心理	教科書の該当範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
12	指導者のメンタルマネジメント①	教科書の該当範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
13	指導者のメンタルマネジメント②	教科書の該当範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
14	コーチングの心理	教科書の該当範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）

《専門科目》

科目名	スポーツ社会学				
担当者氏名	小川　茜				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
スポーツを社会学的視点から捉え、以下のような内容を講義する。①社会の中のスポーツ ②スポーツの概念と歴史 ③文化としてのスポーツ ④スポーツ集団 ⑤ライフサイクルとスポーツ
スポーツに関するニュースについて常に興味・関心を持ち自分の意見を持つこと。授業では講義のほかディスカッションや調査発表、資料制作などに取り組む予定である。

《授業の到達目標》
スポーツを社会学的に見る目を養い、スポーツ・健康運動指導者をめざす者として以下のことを説明できる
①スポーツの概念と歴史 ②スポーツの持つ社会的意義・文化的価値 ③スポーツ観やスポーツ規範の重要性 ④スポーツ集団とリーダーシップの在り方 ⑤少子高齢社会においてアクティブな生活スタイル構築の必要性

《成績評価の方法》
筆記試験　60%　レポート　%
課題　%　実技　%
授業の取組　40%
その他（　　）　%

《教科書》
「Reference book」日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
授業内提出物は評価・フィードバックをした上でその後の授業で返却します

《成績評価基準》
1．試験において、授業で説明した内容を6割以上解答できる
2．授業内のディスカッションや発表において調査結果や自身の意見を分かりやすく伝えられる

《参考図書》
適宜紹介

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツの社会学的アプローチ	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
2	社会の中のスポーツ	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
3	スポーツの概念	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
4	スポーツの歴史	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
5	プレイ論	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
6	スポーツ観	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
7	スポーツ規範	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
8	スポーツマンシップとフェアプレイ①	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
9	スポーツマンシップとフェアプレイ②	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
10	スポーツ集団	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
11	スポーツにおけるリーダーシップ	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
12	ライフサイクルと生涯スポーツ	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
13	地域におけるスポーツ活動	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
14	スポーツの社会的諸問題	教科書の指定範囲を読む（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する（2時間）・今回の授業内容の復習（2時間）

《専門科目》

科目名	スポーツバイオメカニクス				
担当者氏名	藤木　賢二				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
①スポーツバイオメカニクスの概念
②筋肉の収縮メカニズム
③筋出力の特徴とスポーツ種目特性
④運動の力学的法則⑤歩、走、跳、投、打、泳のバイオメカニクス

《授業の到達目標》
筋活動のしくみを理解するとともにスポーツ動作のメカニズムを知り、スポーツや運動動作の技術改善や健康運動、スポーツ指導に役立てる知識を修得する。

《成績評価の方法》
筆記試験　70%
授業の取組　20%
その他（ミニッツペーパー）　10%

《教科書》
スポーツバイオメカニクス入門（金子公宥、杏林書院）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
筆記試験は、次回授業で解説をする。
ミニッツペーパーは、その授業内に採点及び解説する。

《成績評価基準》
スポーツ動作における筋活動のメカニズムを理解している。スポーツ動作の技術改善や健康運動、スポーツ指導に関する知識を習得している。

《参考図書》
公認スポーツ指導者養成テキスト（公財）日本スポーツ協会
スポーツ動作の科学（深代千之他、東京大学出版会）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツバイオメカニクスの概念	教科書（p11～p15）を読んでおく（2時間） バイオメカニクスの概要についてまとめる（2時間）
2	筋肉の収縮メカニズム	教科書（p16～p18）を読んでおく（2時間） 筋収縮のメカニズムについてまとめる（2時間）
3	筋の活動様式と筋出力	教科書（p19～p21）を読んでおく（2時間） 筋の活動様式についてまとめる（2時間）
4	筋肉の弾性要素と特性	筋の構造を理解しておく（2時間） ストレッチショートニングサイクルについてまとめる（2時間）
5	筋出力とスポーツ種目特性	スポーツ種目に必要な体力要素を調べておく（2時間） スポーツ種目特性についてまとめる（2時間）
6	筋活動の力、速度、パワーの関係	教科書（p21）を読んでおく（2時間） 筋活動の力－速度関係についてまとめる（2時間）
7	力学的法則とヒトの動き	教科書（p34）を読んでおく（2時間） 変位、速度、加速度についてまとめる（2時間）
8	運動の三法則、力と運動方程式	教科書（p35）を読んでおく（2時間） 運動の三法則についてまとめる（2時間）
9	運動量と力積、着地衝撃と緩和法	教科書（p36）を読んでおく（2時間） 衝撃の伝わり方についてまとめる（2時間）
10	身体運動の効率	教科書（p37）を読んでおく（2時間） 力学的仕事、仕事率についてまとめる（2時間）
11	歩、走のバイオメカニクス	教科書（p44～p53）を読んでおく（2時間） 歩、走の力学的エネルギーについてまとめる（2時間）
12	跳ぶバイオメカニクス	教科書（p54～p63）を読んでおく（2時間） バネ作用についてまとめる（2時間）
13	投げる動作と打つ動作のバイオメカニクス	教科書（p64～p77）を読んでおく（2時間） ムチ作用についてまとめる（2時間）
14	素速い運動、空中のボールの空気抵抗	教科書（p78～p79）を読んでおく（2時間） ベルヌーイの定理、マグヌス効果についてまとめる（2時間）
15	泳ぐ動作のバイオメカニクス	教科書（p82～p87）を読んでおく（2時間） 水の抵抗と泳スピードについてまとめる（2時間）

《専門科目》

科目名	スポーツと法				
担当者氏名	岸田　優				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
スポーツ指導者が負う可能性のある法的責任について説明を聞き、具体的な事例に基づいて理解を深める。
スポーツに関する人権問題や紛争解決方法について理解する。

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
毎回のコメントペーパーにコメントを付して返却する。

《授業の到達目標》
①スポーツの指導を行う者(指導者、インストラクター)が配慮しなければならない法的知識を、過去の事故例に基づいて理解することができる。
②スポーツ事故の予防、事故が起きた時の対処、危機管理について具体的に行動できる。
③スポーツ指導に携わる者として、常に人権を意識した行動ができる。

《成績評価基準》
到達目標①～③の達成度を、期末試験(80%)および、不定期に課すコメントペーパー(20%)で測定する。

《成績評価の方法》
筆記試験　45%　レポート　%
課題　45%　実技　%
授業の取組　5%
その他（　　）　%

《参考図書》
日本スポーツ法学会『標準テキスト スポーツ法学 第3版』(エイデル研究社)

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツと法の関係	【予習】事前配布する資料を熟読し概要を整理する（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（２時間）。
2	指導者の法的責任 （刑事・民事・行政）	【予習】資料を熟読し概要を整理する（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（２時間）。
3	民事責任（１） ～不法行為責任	【予習】資料を熟読し概要を整理する（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（２時間）。
4	民事責任（２） ～特殊な不法行為	【予習】資料を熟読し概要を整理する（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（２時間）。
5	民事責任（３） スポーツ事故判例（1）	【予習】資料を熟読し概要を整理する（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（２時間）。
6	指導者の責任・スポーツ事故判例（2）	【予習】資料を熟読し概要を整理する（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（２時間）。
7	管理者・主催者の責任・スポーツ事故判例（3）	【予習】資料を熟読し概要を整理する（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（２時間）。
8	スポーツ事故とリスクマネジメント	【予習】スポーツ事故の予防策・対応策について考える（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（２時間）。
9	スポーツとジェンダー	【予習】資料を熟読し概要を整理する（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（２時間）。
10	暴力とパワーハラスメント	【予習】資料を熟読し概要を整理する（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（2時間）。
11	スポーツとインテグリティ	【予習】資料を熟読し概要を整理する（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（２時間）。
12	スポーツ仲裁機関	【予習】資料を熟読し概要を整理する（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（２時間）。
13	スポーツビジネスと法的問題	【予習】教科書と参考資料を熟読し概要を整理する（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（２時間）。
14	スポーツ基本法とスポーツ権	【予習】教科書と参考資料を熟読し概要を整理する（2時間）。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する（２時間）。
15	まとめ	【予習】これまでの学習内容を振り返る（３時間）。 【復習】理解が不十分な部分を確認し、今後の学習課題を検討する（１時間）。

《専門科目》

科目名	コーチング論				
担当者氏名	坂元　瑞貴				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
トップアスリートを育成・指導するために必要な高度な知識を習得するための授業を行う。

《教科書》
「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
講義終了後にミニッツペーパーの提出を行い、評価・フィードバックをした上で返却します。

《授業の到達目標》
トップアスリートを育成・指導できる指導者に近づくために、以下のことを身につける。
①トップアスリートの育成における指導者の役割
②トップアスリートの育成・強化方法と評価
③チームづくりと運営

《成績評価基準》
1．指導者の役割を理解し、重要性を説明することができる
2．トップアスリートの育成・強化方法について学び、評価することができる
3．チームづくりと運営方法について説明することができる

《成績評価の方法》
筆記試験　70%
課題　10%
授業の取組　20%

《参考図書》
なし

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	コーチの役割	関わったコーチを思い出し、理想のコーチ像について考える（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
2	トップアスリートを育てるために①	教科書の該当項を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
3	トップアスリートを育てるために②	教科書の該当項を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
4	トップアスリートの育成・強化の方法と評価①	教科書の該当項を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
5	トップアスリートの育成・強化の方法と評価②	教科書の該当項を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
6	世界を目指すアスリートの育成・強化の在り方	指導者の役割について考え、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
7	選手と指導者の望ましい関係の構築	教科書の該当項を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
8	ミーティングの方法	ミーティングの必要性について考え、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
9	競技力向上のためのチームマネジメント①	チームマネジメントの方法について調べ、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
10	競技力向上のためのチームマネジメント②	チームマネジメントの方法について調べ、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
11	スポーツのインテグリティ	教科書の該当項を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
12	競技力向上のための情報とその活用	教科書の該当項を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
13	対象および年齢に応じたコーチング	教科書の該当項を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
14	アンチ・ドーピング	教科書の該当項を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）

《専門科目》

科目名	労働安全衛生法				
担当者氏名	吉田　明文				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
社会保険労務士として労災保険請求の経験および労働衛生コンサルタントとして職長教育・作業主任者、衛生管理者講習等の実務経験に基き、労働安全衛生関係法令の要求事項と事故予防としてのリスクアセスメント、再発防止としてのインシデント報告や労災補償、刑事・民事裁判例などと比較しながら、事例や画像資料を使い説明する。また、内容に関しコミュニケーションを取り理解度を確認しながら進める授業とする。

《授業の到達目標》
・労働災害の防止措置として労働安全衛生関係法令に従い事業者がやるべきことを列挙し説明することができる
・労働災害が発生した場合に事業者が被る影響について予測し、災害防止対策について説明することができる
・労災の被災者にどのような補償があるか、国の制度および民事訴訟の例を挙げて具体的に述べることができる

《成績評価の方法》
復習課題：30点（3点×10）
中間レポート：20点
筆記試験：50点

《教科書》
講義時にレジュメをを配布します

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出課題については、2週間以内にコメントをつけて返却する

《成績評価基準》
・法的要求事項を満たすために、事業者が行う事故防止策について具体的に列挙し説明できたか
・事業者が被る影響をどう予測し、対策について説明できたか
・労災の被災者に国の補償および裁判における損害賠償がどうかについて例を挙げて具体的に述べることができたか

《参考図書》
適宜紹介します

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
2	労働災害の定義と防止・補償	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
3	労働安全衛生法の概要	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
4	労働者の危険又は健康障害を防止するための措置	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
5	機械等並びに危険物及び有害物に関する規制１	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
6	機械等並びに危険物及び有害物に関する規制２	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
7	安全衛生教育と就業制限	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
8	労働基準法上の就業制限	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
9	健康の保持増進ための措置	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
10	快適な職場環境形成のための措置	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
11	作業環境管理・健康管理	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
12	労働安全衛生法の違反と刑事責任	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
13	安全衛生法と労災補償１	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
14	労働安全衛生法と労災補償２	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）
15	総括：全体のポイント説明と質疑応答	適宜示します（1時間）復習課題（1時間）

《専門科目》

科目名	公衆衛生学				
担当者氏名	中尾　由美				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
病院の外にある施設や関係機関、つまり地域や職域における保健衛生福祉のしくみや制度を教科書を用いて学ぶ。

《教科書》
わかりやすい公衆衛生学（最新版）：清水忠彦、佐藤拓代：ヌーベルヒロカワ

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
毎回、講義中に課題を提示する。
課題は次週までに提出し、提出状況や内容を確認する。

《授業の到達目標》
公衆衛生学とは組織、集団（地域）社会を通して、疾病を予防し、身体的、精神的、社会的機能の増進を図る科学であり、技術である。国内における基本的な公衆衛生対策や施策について理解することができる。

《成績評価基準》
筆記試験は40%、課題は30%、授業の取り組み30%で評価する。

《成績評価の方法》
筆記試験　40%
課題　30%
授業の取組　30%

《参考図書》
適宜紹介します

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	公衆衛生とは	シラバスを熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
2	健康と環境・疫学的方法	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
3	健康の指標	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
4	感染症とその予防	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
5	食品保健と栄養	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
6	生活環境の保全	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
7	医療の制度	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
8	地域保健活動	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
9	母子保健・学校保健	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
10	生活習慣病・難病	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
11	健康教育とヘルスプロモーション	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
12	精神保健福祉	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
13	産業保健	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
14	まとめ	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
15	総括	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。（2時間） 授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）

《専門科目》

科目名	幼児体育論				
担当者氏名	小川　茜				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
子どもへの運動指導や発達に関する講義を行います。多様な視点から発育段階に応じた運動指導のあり方を考えます。「西短大の体育館であそぼう！」を通して講義内容を実際と照らし合わせて学びます。

《授業の到達目標》
1．幼児期における心身の発達および運動が与える影響についての基礎知識を説明できる

《成績評価の方法》
筆記試験　%　レポート　%
課題　50%　実技　25%
授業の取組　25%
その他（　　）　%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出物は評価・フィードバックをした上で返却します

《成績評価基準》
1．試験において、授業で説明した内容を6割以上理解している
2．提出物を期限内に提出する
3．イベント参加者に対して心身の安全や発達に配慮したコミュニケーションや運動指導ができる

《参考図書》
公認ジュニアスポーツ指導員テキスト、日本スポーツ教会リファレンスブック

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	子どもにおける運動、スポーツの意義・価値	目指すべき幼児体育指導者の条件を考え、まとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
2	子どもを取り巻く環境、体力の現状と課題	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
3	指導実践①	子どもの発達や運動遊びに関する情報を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
4	子どもの身体活動ガイドライン	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
5	子どものスポーツ指導における現状と課題	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
6	指導実践②	子どもの発達や運動遊びに関する情報を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
7	ジュニアスポーツ指導員の役割	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
8	コミュニケーションスキル	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
9	よい指導者としての観点	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
10	指導の留意点	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
11	指導実践③	子どもの発達や運動遊びに関する情報を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
12	プログラム作成時のポイント	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
13	安全管理上の配慮事項	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
14	コーチングの実践事例、ケーススタディ	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
15	指導実践④	子どもの発達や運動遊びに関する情報を調べる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）

《専門科目》

科目名	幼児体育演習				
担当者氏名	橋本　潔				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
幼児体育企業で長年幼児体育指導に携わる教員が、各運動の補助の仕方や具体的な指導方法について実践を通して指導する。幼児が運動嫌いにならない様に、意欲を持って運動に取り組み、友だちとの関わりを通しての運動遊びを行う。マット・とび箱・鉄棒・平均台・なわ・ボールなどの器具・手具を使用したり、グループでのゲームを行い、楽しんで運動あそびを体験する事により、幼児体育の指導者としてのスキルを身につける。

《授業の到達目標》
現代社会では専門スポーツへの取り組みの低年齢化が進んでいる。しかし幼児期には神経系の急激な発達により、運動コントロール能力が著しい発達を示す為、適切な運動経験をする事が望ましいと言える。それを踏まえた上で、幼児期にはどの様な運動をしたら良いのか、将来指導者になる立場での幼児への言葉がけ、言葉使い、運動補助の仕方などを運動あそびを通して習得できるようになる。

《成績評価の方法》
筆記試験　　%
レポート　　%
課題　　%
実技　　60　%
授業の取組　40　%　その他（　　）　　%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
試験、レポート提出なし
・授業にて内容説明

《成績評価基準》
器具・手具運動の技能習得状況、授業態度

《参考図書》
公認ジュニアスポーツ
指導員養成テキスト（理論・実技編）日本体育協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	予習：授業内容の把握と準備・30分 復習：授業内容の整理・30分
2	準備運動、集合遊び	予習：次回授業内容の把握と準備・30分 復習：〃
3	即時反応的運動遊び	予習：〃 復習：〃
4	基本運動	予習：〃 復習：〃
5	マットを使用した運動遊び及び補助法	予習：〃 復習：〃
6	マットを使用した運動遊びの展開及び補助法	予習：〃 復習：〃
7	とび箱を使用した運動遊び及び補助法	予習：〃 復習：〃
8	とび箱を使用した運動遊びの展開及び補助法	予習：〃 復習：〃
9	鉄棒・平均台を使用した運動遊び	予習：〃 復習：〃
10	ボールを使用した運動遊び	予習：〃 復習：〃
11	なわを使用した運動遊び	予習：〃 復習：〃
12	マット運動の技能習得及び補助法	予習：〃 復習：〃
13	とび箱・鉄棒運動の技能習得及び補助法	予習：〃 復習：〃
14	器具・手具運動の子どものつまずきの解決	予習：〃 復習：〃
15	運動遊びを考えよう！個別・集団ゲーム	予習：〃 復習：〃

《専門科目》

科目名	子どもの身体表現				
担当者氏名	石見　香				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
・本授業で運動遊びや様々な表現方法を体験していき、将来指導者として実践できるように自分で創造する力を身につける。
・身体作り

《教科書》
使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
講評をおこなう。

《授業の到達目標》
・様々な運動遊びを体験し、更に工夫、創造できる。
・身体のみならず、音楽、手具、道具、器具などあらゆるものを活用しながら自由に表現していく。

《成績評価基準》
実技50%　　授業の取組50%

《成績評価の方法》
筆記試験　　%　レポート　　%
課題　　%　実技　　50　%
授業の取組　50　%　その他（　　）　　%

《参考図書》
適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	予習：講義要項を読んでおく（30分） 復習：授業の復習（30分）
2	身体作り	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
3	身体表現①	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
4	身体表現②	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
5	手具を使った身体表現①	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
6	手具を使った身体表現②	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
7	道具を使った身体表現①	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
8	道具を使った身体表現②	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
9	身体作り	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
10	音楽を使った身体表現①	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
11	音楽を使った身体表現②	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
12	身体作り	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
13	器具を使った身体表現①	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
14	器具を使った身体表現②	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
15	まとめ	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）

《専門科目》

科目名	医学一般				
担当者氏名	重森　裕				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
戦後から現在に至る、厚労省の健康管理対策を世界の施策と比較しながら学び、近年問題となっている高齢化社会やメタボリックシンドロームを理解し、スポーツ運動実践指導者・第一種衛生管理者としてその対策を学習する。3大成人病のがん、心疾患、脳血管疾患に始まり、生活習慣病の各疾患を学び、内臓脂肪が原因であるメタボリックシンドロームを理解し、実際の運動目標数値の根拠や運動による予防効果を医学的に学ぶ。

《授業の到達目標》
①健康管理について戦後から現代にいたるまでその変遷を把握する
②健康と運動の関連性を医学的に理解を深め、スポーツ運動実践指導者・第一種衛生管理者としての役割を自覚する
③生活習慣病からの流れを含めてメタボリックシンドロームとその予防について理解する

《成績評価の方法》
筆記試験　80　%　レポート　10　%
課題　5　%　実技　5　%

《教科書》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
試験内容に対する解説の時間を設ける。

《成績評価基準》
本講義は、「健康運動実践指導者養成」を目的としており、成績評価は同指導者として合格するまたは、評価される知識レベルへの養成を目的としている。そのために、成績評価は、同指導者として認定されるレベルを合格基準として参考する。

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	健康管理1	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
2	健康管理2	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
3	健康と運動1	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
4	健康と運動2	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
5	健康と肥満1	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
6	健康と肥満2	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
7	生活習慣病1	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
8	生活習慣病2	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
9	メタボリックシンドローム1	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
10	メタボリックシンドローム2	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
11	メディカルチェック	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
12	メンタルヘルス対策	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
13	健康の保持増進対策	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
14	救急処置	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）
15	まとめ	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する（2時間） 復習：配布プリントで授業内容の整理する（2時間）

《専門科目》

科目名	運動処方概論				
担当者氏名	星子　和夫				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
健康増進施設における指導経験のある教員が授業を行う。スポーツクラブやフィットネスクラブ、健康増進施設、スイミングクラブなどのスポーツ・運動施設で実施されている疾病の予防・改善あるいは健康の維持、体力の向上を目的としたトレーニングプログラムや日常生活の身近な運動をとりあげ、運動処方の基礎について学習する。なお、この科目は、「第一種衛生管理者」資格の指定科目である。

《授業の到達目標》
健康体力の保持増進をふまえ、運動の指導者として知っておくべき運動の必要性や運動の効果、疾病の内容を理解するとともに個々人にあった運動プログラムの作成について学習します。

《成績評価の方法》
筆記試験　100%

《教科書》
適宜、プリントを配布する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
10点満点の小テストを10回実施し、合計点数を評価とする。なお、小テスト実施の次回講義において解答および解説を行う。また、最終講義でも解答および解説を行い、講評する。

《成績評価基準》
健康の定義と体力の概念を理解しながら、運動・スポーツの指導者として知っておくべき運動の必要性や効果、疾病の内容を理解するとともに個々人にあった運動プログラムの作成についてまとめることができる。

《参考図書》
「運動療法と運動処方第2版」佐藤編、文光堂

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、健康の定義と体力の概念	健康とは何か、体力に関し、考察しておく（1時間） 今回の学習内容を復習しておくこと（3時間）
2	運動の効果	運動は何を目的に行い、その効果はどのようなものかを考えておくこと（2時間） 目的に応じた運動の効果を復習しておくこと（2時間）
3	運動処方の概念	健康体力の維持増進のための運動プログラムの概要をまとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
4	運動処方の手順1 問診・生理学的検査	運動実施前に何を検査するべきか考えておくこと（2時間） これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
5	運動処方の手順2 医学的検査、体力テスト	運動実施前のメディカルチェックの内容を考察しておくこと（2時間） 小テストのためにこれまでの内容を復習しておくこと（3時間）
6	トレーニングの原則	トレーニング効果を上げる原則を考えておくこと（2時間） これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
7	運動の種類と量（強度・時間・頻度など）	過去のスポーツ経験から運動・トレーニングに必要な条件を考えておくこと（2時間） これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
8	健康のための運動所要量	どれくらいの運動をすると健康が維持できるのかを考えておくこと（2時間） これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
9	対象別運動処方1	生活習慣病の罹患者に対する運動の処方を考えておくこと（2時間） これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
10	対象別運動処方2	生活習慣病の罹患者に対する運動の処方を考えておくこと（2時間） これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
11	対象別運動処方3	生活習慣病の罹患者に対する運動の処方を考えておくこと（2時間） これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
12	運動処方箋のつくり方1	生活習慣病の罹患者に対する運動の注意事項を考えておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
13	運動処方箋のつくり方2	生活習慣病の罹患者に対する運動の注意事項を考えておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
14	運動処方箋のつくり方3	生活習慣病の罹患者に対する運動の注意事項を考えておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
15	まとめ	これまでの内容を予習しておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）

《専門科目》

科目名	測定評価法				
担当者氏名	坂元　瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
形態や体力測定の理論と測定結果の評価方法を習得し、健康づくり運動やトレーニングに活用できるようにする。
①形態・体脂肪量の測定原理および測定方法を理解する。
②有酸素性および無酸素性能力を表わす指標とその測定法を理解する。
③新体力テストの各項目と体力要素との関連を理解する。

《授業の到達目標》
1．体力テストを実施できる。
2．体力テストの結果を評価し、効果的な運動処方ができる。
3．有酸素性及び無酸素性能力を表す指標について説明できる。

《成績評価の方法》
筆記試験　　70%
授業の取組　30%

《教科書》
使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
形態・体力テスト測定への参加姿勢や測定方法について、講評の時間を設けます。

《成績評価基準》
1．体力テストの測定方法を説明し、実施することができる。
2．データの評価方法を理解し、活用することができる。
3．有酸素性および無酸素性能力を表わす指標とその測定法を理解し、説明することができる。

《参考図書》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス 体力の意義と目的	体力要素について復習する（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
2	形態の測定と評価	形態の測定方法について調べて、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
3	体脂肪の測定と評価	体脂肪の測定方法について調べて、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
4	有酸素性・無酸素性能力の測定と評価	有酸素性・無酸素性能力について調べて、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
5	健康体力の測定・評価 全身持久力の測定・評価	全身持久力について調べて、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
6	筋力の測定・評価	筋力の測定方法について調べて、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
7	基礎的運動要素の測定・評価	基礎的運動要素について調べて、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
8	新体力テスト①（20～64歳対象）	新体力テストの項目について調べて、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
9	新体力テスト②（65～79歳対象）	新体力テストの項目について調べて、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
10	トレーニング効果の測定と評価の実際①	体力測定方法についてまとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
11	トレーニング効果の測定と評価の実際②	体力測定方法についてまとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
12	トレーニング効果の測定と評価の実際③	体力測定方法についてまとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
13	測定データの活用とフィードバックの実際①	活用方法について考え、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
14	測定データの活用とフィードバックの実際②	活用方法について考え、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）

《専門科目》

科目名	コンディショニング演習				
担当者氏名	大村　詠一				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
コンディショニングの基本となるストレッチおよびトレーニングの知識を学び、指導実践につなげていく。

《教科書》
ストレッチングエクササイズ指導理論／ JAFA 出版

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
希望があれば解説の時間を設ける。

《授業の到達目標》
安全で効果的なスポーツ指導が行えるよう、指導者に必要な基礎的・基本的知識を身につけ、コンディショニングの実践能力を養う。また、GFI 資格の対応科目であるため、GFI 資格試験の合格を目指す。

《成績評価基準》
受講態度・積極性45%、指導能力55%

《成績評価の方法》
筆記試験　　%　レポート　　%
課題　　%　実技　　%
授業の取組　45　%　その他（　　）　55　%

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	予習：講義要項を読んでおく（30分） 復習：授業の復習（30分）
2	コンディショニングの基礎知識	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
3	ストレッチングの目的と留意点	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
4	ストレッチングの基本の動き	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
5	ストレッチングのプログラミング	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
6	ストレッチングのプログラミング	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
7	ストレッチングの指導実践	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
8	ストレッチングの指導実践	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
9	トレーニングの基礎知識	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
10	ウォーミングアップとクーリングダウンの留意点	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
11	トレーニング効果を高めるプログラミングと実践	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
12	トレーニング効果を高めるプログラミングと実践	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
13	GFI 試験対策	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
14	GFI 試験対策	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
15	GFI 試験対策	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）

《専門科目》

科目名	グループフィットネス指導演習				
担当者氏名	高木　富士男				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
本演習は公益社団法人日本フィットネス協会認定資格である「グループフィットネスインストラクター（GFI）」の筆記試験対策講座です。資格取得を希望する学生は必ず受講してください。筆記試験対策では、「フィットネス基礎理論」、「グループエクササイズ指導理論」の内容をに沿って、これまで各講義で学習してきた内容の復習に取り組みます。また、練習問題や模擬問題で達成度を確認し、認定試験の合格を目指します。

《授業の到達目標》
1．グループフィットネスインストラクターとして、最低限の基礎理論が説明できる
2．グループフィットネスインストラクターとして、集団を指導する意義・理論について説明できる

《成績評価の方法》
課題　　50　%
授業の取組　30　%
その他（小テスト）　20　%

《教科書》
「GFI のためのフィットネス基礎理論」日本フィットネス協会発行、「GFI のためのグループエクササイズ指導理論」日本フィットネス協会発行

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
課題・小テストはその都度、解説の時間を設けます。

《成績評価基準》
課題では、資格対策への取り組みを評価します（50%）。
授業の取り組みでは、受講中の態度や発言を評価します（30%）。
小テストでは、模擬問題を行い、出来栄えを評価します（20%）。

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス・フィットネス概論	予習：フィットネス基礎理論P2～16を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
2	復習①（解剖学、運動生理学）	予習：フィットネス基礎理論 P18～75を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
3	復習②（解剖学、運動生理学）	予習：フィットネス基礎理論 P18～75を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
4	復習③（体力学、トレーニング科学、運動処方）	予習：フィットネス基礎理論 P78～97を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
5	復習④（栄養学、心理学、施設管理等）	予習：フィットネス基礎理論P100～15 を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
6	復習　まとめ	予習：フィットネス基礎理論を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
7	グループエクササイズについて①	予習：グループエクササイズ指導理論P2～36を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
8	グループエクササイズについて②	予習：グループエクササイズ指導理論 P38～64を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
9	グループエクササイズについて　まとめ	予習：グループエクササイズ指導理論を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
10	練習問題①	予習：テキストを読み、疑問点をまとめる（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
11	練習問題②	予習：テキストを読み、疑問点をまとめる（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
12	模擬問題①	予習：テキストを読み、疑問点をまとめる（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
13	模擬問題②	予習：テキストを読み、疑問点をまとめる（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
14	模擬問題③	予習：テキストを読み、疑問点をまとめる（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
15	まとめ	予習：テキストを読み、疑問点をまとめる（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）

《専門科目》

科目名	エアロビックダンスⅠ				
担当者氏名	大村　詠一				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
講師の指示に合わせて、エアロビックダンスのレッスンを体験し、基本的なステップを覚える。
レッスン前後の準備運動、整理運動、ストレッチなどについて学習し、指導する際の注意点を身につける。グループに分かれて、基本的なステップを用いたプログラムを作成、発表する。

《教科書》
「健康運動実践指導者用テキスト」

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
希望があれば解説の時間を設ける。

《授業の到達目標》
・エアロビックダンスとはどういうものであるか体験を通して学習させる。
・体を動かすことの楽しさやフィットネスエクササイズとして様々な運動形態（エアロビックダンス・ストレッチ・筋コン）があることを知り、フィットネスの理解を深めさせる。

《成績評価基準》
実技試験85%、受講態度15%

《成績評価の方法》
筆記試験　　%　レポート　　%
課題　　%　実技　　85　%
授業の取組　15　%　その他（　　）　　%

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ、エアロビックダンスの特性と効果	予習：講義要項を読んでおく（30分） 復習：授業の復習（30分）
2	エアロビックダンス　レッスン（LOW～HIGH）	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
3	エアロビックダンスの運動強度と心拍数	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
4	性・年齢・体力に応じた運動強度とその調整法	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
5	エアロビックダンスの音楽と用具	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
6	対象に応じた選曲・BPMを理解する	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
7	特徴と注意点を意識した動きについて	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
8	W-up について	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
9	C-down について	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
10	ストレッチ（上半身）	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
11	ストレッチ（下半身）	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
12	安全に対する注意、プログラム練習(グループ別)	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
13	ﾘｽﾞﾑ取りと指示の出し方、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ練習(ｸﾞﾙｰﾌﾟ別)	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
14	指導法と注意事項、プログラム発表(グループ別)	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）
15	まとめ	予習：授業の予習（30分） 復習：授業の復習（30分）

《専門科目》

科目名	パラスポーツ演習				
担当者氏名	高木　富士男				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
障がい者スポーツについて、障がいに応じたルールと用具の工夫を理解したうえで実践していく。また、指導方法と戦術をチーム内で考えてゲームを楽しむ。
学生同士で指導者役と受講者役に分かれスポーツ指導を実際に行う。

《教科書》
プリントを配布する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
受講学生の課題をまとめ、次回授業で解説する。

《授業の到達目標》
・障がい者スポーツのルールを他者に説明することができる。
・障がい者スポーツを他者に指導することができる。
・障がいに応じてルールや用具を創造することができる。

《成績評価基準》
指導実践30%、課題提出30%（指導実践計画案15%、指導実践の自己評価15%）、授業の取組40%（受講態度・積極性など）

《成績評価の方法》
課題　30　%
実技　30　%
授業の取組　40　%

《参考図書》
適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、パラリンピック競技体験1	予習：パラリンピック競技について調べる（60分） 復習：授業の振り返り（30分）
2	パラリンピック競技体験2	予習：パラリンピック競技について調べる（60分） 復習：授業の振り返り（30分）
3	視覚障がい者のスポーツ実践1	予習：視覚障がい者のスポーツを調べる（30分） 復習：授業の振り返り（30分）
4	視覚障がい者のスポーツ実践2	予習：視覚障がい者のスポーツを調べる（30分） 復習：授業の振り返り（30分）
5	視覚障がい者のスポーツ創造と指導実践1	予習：指導実践計画案の作成（60分） 復習：授業の振り返り（30分）
6	視覚障がい者のスポーツ創造と指導実践2	予習：指導実践計画案の作成（60分） 復習：授業の振り返り（30分）
7	肢体不自由者のスポーツ実践1	予習：肢体不自由者のスポーツを調べる（30分） 復習：授業の振り返り（30分）
8	肢体不自由者のスポーツ実践2	予習：肢体不自由者のスポーツを調べる（30分） 復習：授業の振り返り（30分）
9	肢体不自由者のスポーツ創造と指導実践1	予習：指導実践計画案の作成（60分） 復習：授業の振り返り（30分）
10	肢体不自由者のスポーツ創造と指導実践2	予習：指導実践計画案の作成（60分） 復習：授業の振り返り（30分）
11	知的障がい者のスポーツ実践1	予習：知的障がい者のスポーツを調べる（30分） 復習：授業の振り返り（30分）
12	知的障がい者のスポーツ実践2	予習：知的障がい者のスポーツを調べる（30分） 復習：授業の振り返り（30分）
13	知的障がい者のスポーツ創造と指導実践1	予習：指導実践計画案の作成（60分） 復習：授業の振り返り（30分）
14	知的障がい者のスポーツ創造と指導実践2	予習：指導実践計画案の作成（60分） 復習：授業の振り返り（30分）
15	障がい者スポーツの創造	予習：障がい者スポーツを創造する（60分） 復習：授業の振り返り（30分）

《専門科目》

科目名	障害者福祉論				
担当者氏名	東嵩西　謡平				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
障害者福祉の基礎知識（考え方、概念、史的展開など）を理解し、基本的な考え方を学ぶ。
障害者施策、サービス体系、障害者総合支援法について学び、障害のある人が住み慣れた地域で生活していくための仕組み、支援方法について学習する。

《授業の到達目標》
●障害者福祉の考え方、障害の概念と障害者の実態について説明することができる。
●特別支援教育の現状を理解し課題について述べることができる。
●障害者総合支援法の基本理念、サービス体系などについて理解し、当事者が抱える問題の軽減、解決に向けた取り組みについて説明することができる。

《成績評価の方法》
筆記試験　70%
授業の取組　30%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
試験のフィードバックとして、講評及び解説の時間を設ける。

《成績評価基準》
筆記試験（70%）、受講態度（30%）により評価する。

《参考図書》
適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	考え方①（ノーマライゼーションの実現）	予習：ノーマライゼーションについて調べよう（2時間） 復習：ノーマライゼーションの理念等の整理（2時間）
2	考え方②（リハビリテーションの追求）	予習：リハビリテーションについて調べよう（2時間） 復習：リハビリテーションの定義等の整理（2時間）
3	障害の概念と障害者の実態①（障害の概念）	予習：障害の概念について調べよう（2時間） 復習：障害の概念・3つのレベル等の整理（2時間）
4	障害の概念と障害者の実態②（障害者の実態）	予習：福岡県の障害者の実態について調べよう（2時間） 復習：福岡県の実態の整理（2時間）
5	障害者福祉の史的展開①（国際的動向）	予習：国際的動向について調べよう（2時間） 復習：国際的動向の整理（2時間）
6	障害者福祉の史的展開②（日本の動向）	予習：日本の動向について調べよう（2時間） 復習：日本の動向の整理（2時間）
7	障害者施策の体系①（障害者基本法）	予習：障害者基本法について調べよう（2時間） 復習：障害者基本法の整理（2時間）
8	障害者施策の体系②（障害者基本計画）	予習：障害者基本計画について調べよう（2時間） 復習：障害者基本計画の整理（2時間）
9	サービス体系①（障害者福祉の法・行政）	予習：身体障害者福祉法等について調べよう（2時間） 復習：身体障害者福祉法等の整理（2時間）
10	サービス体系②（身体・障害児）	予習：サービス体系について調べよう（2時間） 復習：サービス体系の整理（2時間）
11	サービス体系③（知的・精神）	予習：サービス体系について調べよう（2時間） 復習：サービス体系の整理（2時間）
12	障害者福祉の関連分野（保健・医療・教育）	予習：特別支援教育について調べよう（2時間） 復習：保健・医療・教育の整理（2時間）
13	障害者理解の促進とボランティア活動の推進	予習：ボランティアについて調べよう（2時間） 復習：ボランティア活動の整理（2時間）
14	障害者総合支援法	予習：障害者総合支援法について調べよう（2時間） 復習：障害者総合支援法のまとめ（2時間）
15	まとめ	予習：自分ができることについて考えよう（2時間） 復習：今からまとめられることをまとめる（2時間）

《専門科目》

科目名	アクアエクササイズ				
担当者氏名	星子　和夫				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

運動前・中・後の心拍数を確認することはもちろん、水中運動での特に水中ウォーキングを通し、水抵抗を感じながら運動強度を変化させる。一方、水泳運動では浮き身にはじまり、蹴伸び、クロール泳の上肢・下肢の動かし方、呼吸の仕方を学習する。その他泳法も体験学習する。

水上安全での救助法につながる泳法と心肺蘇生法を実践する。

《授業の到達目標》

水泳水中運動を実践しながら、水の特性を体感できる。
水中運動では、運動強度の変化による心拍数との関係を習得・理解できる。また、水泳運動では、指導上の注意点、プールにおける衛生面や安全面について理解する。

なお、本科目は「健康運動実践指導者」資格取得のための必修科目です。

《成績評価の方法》

レポート　30%
実技　40%
授業の取組　30%

《教科書》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

レポート課題は2週間以内にコメントをつけて返却します。

《成績評価基準》

実技試験では、水中運動、水泳（クロール泳、背泳ぎ、横泳ぎ）の出来栄えや理解度を総合的に評価します（40%）。また、水泳・水中運動の特性や効果についてのレポートを課し、理解度を評価します（30%）。その他授業への参加状況、取り組みの様子をみて総合的に評価します（30%）

《参考図書》

「AQWBI・AQWI・AQDBI・AQDI のためのアクアエクササイズ指導理論」（公財）日本フィットネス協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、水泳の特性について	今回の授業内容の復習（1時間）
2	現場における心肺蘇生法①	心肺蘇生法についてまとめる（1時間） 今回の授業内容の復習（1時間）
3	現場における心肺蘇生法②	心肺蘇生法についてまとめ、振り返り授業に臨む準備をする（1時間） 今回の授業内容の復習（1時間）
4	水泳運動（浮き身、蹴伸び、クロール）	浮力、揚力、抵抗、推進力についてまとめる（1時間） 今回の授業内容の復習（1時間）
5	水泳運動（クロール）	クロール泳についてまとめる、動画を確認しイメージする（1時間） 今回の授業内容の復習（1時間）
6	水中運動、水泳運動（クロール、背泳ぎ）	背泳ぎについてまとめる、動画を確認しイメージする（1時間） 今回の授業内容の復習（1時間）
7	水中運動、水泳運動（背泳ぎ、平泳ぎ）	平泳ぎについてまとめる、動画を確認しイメージする（1時間） 今回の授業内容の復習（1時間）
8	水中運動、水泳運動（平泳ぎ、バタフライ）	バタフライについてまとめる、動画を確認しイメージする（1時間） 今回の授業内容の復習（1時間）
9	現場における心肺蘇生法③	心肺蘇生法について振り返り事故に対する準備をする（1時間） 今回の授業内容の復習（1時間）
10	水中運動、水泳運動	クロール泳・背泳ぎの課題練習を行う（1時間） 今回の授業内容の復習（1時間）
11	水中運動、水泳運動復習	水中での運動前・後の身体変化についてまとめる（1時間） 今回の授業内容の復習（1時間）
12	水中運動の基礎復習、指導実践	5分程度の水中運動を考え練習する（1時間） 今回の授業内容の復習（1時間）
13	指導実践	5分程度の水中運動を考え練習する（1時間） 今回の授業内容の復習（1時間）
14	指導実践	水中運動を組み合わせ10～15分程度のメニューを考えておく（1時間） 今回の授業内容の復習（1時間）
15	まとめ	水中運動、クロール泳、背泳ぎ、横泳ぎを練習しておくこと（1時間） これまでの授業内容の復習（1時間）

《専門科目》

科目名	水泳コーチ法実習				
担当者氏名	星子　和夫				
授業方法	実技	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
指導者として必要な自らの泳ぎの表現・展示力を向上させるために4泳法であるクロール、背泳ぎ、バタフライ、平泳ぎの技術修得に取り組み、それぞれのスタート・ターンと、個人メドレーへも展開し完成させる。また、総合的に競泳のトレーニングを実践する。なお、この科目は水泳コーチ３資格の指定科目である。

《授業の到達目標》
水泳コーチは、水泳（競泳）選手を育てる指導者として自らの泳ぎを表現する実践力が求められる。また、水泳コーチ３の資格取得のための評価基準があるために、次の泳力を身につける。クロール、背泳ぎ、バタフライ、平泳ぎの4泳法の技術修得と個人メドレーの完成、速く泳ぐ能力の習得、横泳ぎや潜行の技術を修得することができる。

《成績評価の方法》
実技　80%
授業の取組　20%

《教科書》
「水泳コーチ教本」（公財）日本水泳連盟

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
競泳競技規則に則った泳法になっているか常に指摘し、併せて記録を短縮できるコツを指導の中で振り返る。

《成績評価基準》
100m個人メドレーで男子は1分40秒以内、女子は1分50秒以内
50m速泳で男子は45秒以内、女子は50秒以内

《参考図書》
「水泳指導教本」三訂版（公財）日本水泳連盟
「競泳競技規則競技役員の手引き（公財）日本水泳連盟

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	クロール１	クロール泳動作を改めて振り返り、見せる泳ぎ方をまとめておくこと（2時間） 今回の学習内容を復習しておくこと（2時間）
2	クロール２	見せる泳ぎを意識しクロール泳の効率的な動作を振り返ってまとめること（2時間） 見せる泳ぎを意識し、速く泳ぐための条件をまとめておくこと（2時間）
3	背泳ぎ１	背泳ぎ動作を改めて振り返り、見せる泳ぎ方をまとめておくこと（2時間） 今回の学習内容を復習しておくこと（2時間）
4	背泳ぎ２	見せる泳ぎを意識し背泳ぎの効率的な動作を振り返ってまとめること（2時間） 見せる泳ぎを意識し、速く泳ぐための条件をまとめておくこと（2時間）
5	バタフライ１	バタフライの泳動作を改めて振り返り、見せる泳ぎ方をまとめておくこと（2時間） 今回の学習内容を復習しておくこと（2時間）
6	バタフライ２	見せる泳ぎを意識しバタフライの効率的な動作を振り返ってまとめること（2時間） 見せる泳ぎを意識し、速く泳ぐための条件をまとめておくこと（2時間）
7	平泳ぎ１	平泳ぎの動作を改めて振り返り、見せる泳ぎ方をまとめておくこと（2時間） 今回の学習内容を復習しておくこと（2時間）
8	平泳ぎ２	見せる泳ぎを意識し平泳ぎの効率的な動作を振り返ってまとめること（2時間） 見せる泳ぎを意識し、速く泳ぐための条件をまとめておくこと（2時間）
9	スタート、ターン、個人メドレー	競泳競技規則に則っているか振り返り、考察しておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
10	初心者指導法	初心者に対する指導法の適切な手順を考えておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
11	集団・個人の指導法１	指導された経験を振り返り、集団と個人の指導法をまとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
12	集団・個人の指導法２	指導された経験を振り返り、集団と個人の指導法をまとめておくこと（2時間） これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
13	競泳のトレーニング１	目的に応じたトレーニング内容を考えてまとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
14	競泳のトレーニング２	目的に応じたトレーニング内容を考えてまとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
15	競泳のトレーニング３	目的に応じたトレーニング内容を考えてまとめておくこと（2時間） これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）

《専門科目》

科目名	スポーツ企業実習Ⅱ				
担当者氏名	星子　和夫、高木　富士男、小川　茜、坂元　瑞貴				
授業方法	実習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》
実習期間中で、これまでに学習してきた身体・健康体力づくりの基礎知識やスポーツ・健康の指導技術、健康・安全管理、コミュニケーション能力を駆使し、「支えるスポーツ」を念頭におき、実習後の振り返りを課題にすることができる。なお、この科目は、資格取得のための要件単位となる資格もあるが、実習規定により必修科目の単位未修得者は実習を許可しない。

《授業の到達目標》
スポーツ企業の業務内容の実際と企業研究したものとを比較しまとめることができ、その企業に関わるお客様やスタッフなどとコミュニケーションを図りながら事の解決に取り組み、円滑な実習をすることができる。そのためには、おもてなしの心である「ホスピタリティ」を大切にし、お客様やスタッフのニーズに応えるための「コミュニケーション能力」、「プレゼンテーション能力」などを自然体で活用できるようになる。

《成績評価の方法》
課題、実習ノート内容、報告会評価　各15%
授業の取組　55%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
実習の事前指導、実習中における指導担当者、実習ノートを確認しながらその都度、実習に対する態度および指導を行う。

《成績評価基準》
実習巡回での指導担当者の報告や実習ノートから「ホスピタリティ」、「コミュニケーション能力」、「プレゼンテーション能力」などが自然に活用され養われるようになったか、また、これらが不十分だったとしてもその後の取り組みが適切であったかで判断する。また、実習後の報告内容およびプレゼンテーション能力を加味し評価する。

《参考図書》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康体力づくり事業財団

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	実習事前指導1および実習手続きについて	企業情報演習をもとに企業実習のあり方をまとめて考察しておく（1時間） より深い理解のために実習の心構えを含め、復習しておくこと（1時間）
2	実習事前指導2	より具体的な実習を遂行するために、与えられた課題を考えておくこと（1時間） 今回の授業で学んだ内容を復習し準備しておくこと（1時間）
3	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
4	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
5	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
6	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
7	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
8	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
9	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
10	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
11	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
12	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
13	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
14	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。（1時間） その日を振り返り、目標の達成を確認すること。（1時間）
15	まとめ	実習の内容をまとめ、実習や将来について考察しておくこと（1時間） この実習で学んだ内容を復習し、報告会に向けてまとめておくこと（1時間）

《専門科目》

科目名	検定読解III				
担当者氏名	高向　有理				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
日本語能力試験Ｎ1レベルを目標とした読解力を上げるための練習を行います。ポイント別学習や模擬問題での練習を行うことで、日本語能力試験の読解を解くために必要な読解力を学び、最終的な実力につながるように対策を行います。授業は課題の解説を主に行うため、予習として課題を解いた上で授業を受け、授業の内容を覚えているうちに復習を行って、次回の課題に取り組むようにしてください。

《授業の到達目標》
・文の中身や骨組み、あとに続く内容などについて判断し、文章理解ができる。
・未習単語や専門用語のある文章も文脈から類推して読める。
・文章の内容を系統立てて理解し、必要な情報を汲み取ることができる。
・日本語能力試験を目標とした読解力を習得することで、正確に速く、日本語の文章を読むことができる。

《成績評価の方法》
筆記試験　40%　レポート　%
課題　30%　実技　%
授業の取組　30%
その他（　　）　%

《教科書》
日本語能力試験問題集N1読解スピードマスター
（Jリサーチ出版）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
課題は、次の授業時に解説する。
理解度を確かめるために適宜小テストを実施し、2週間以内に添削して返却する。

《成績評価基準》
・文の中身や骨組み、あとに続く内容などについて判断ができ、自分の見解を述べることができたか。
・未習単語や専門用語のある文章も類推して内容を理解できたか。
・速く正確に試験時間内に問題を解き終わり、自主的に確認作業を行うことができたか。

《参考図書》
日本語能力試験N1関連問題集

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	授業の進め方 内容理解短文N1	予習：科目内容の確認　30分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
2	内容理解短文N1	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
3	内容理解中文N1	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
4	内容理解中文N1 新聞記事	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
5	内容理解長文N1 新聞記事	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
6	内容理解長文N1 新聞記事	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
7	情報検索N1 就活情報の検索	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
8	情報検索N1 就活情報の検索	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
9	主張理解N1 新聞記事	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
10	模擬試験Ｉ	予習：模試の準備 復習：模試の見直し
11	模試のフィードバック 主張理解N1	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
12	統合理解N1	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
13	統合理解N1	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
14	統合理解N1	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
15	試験 まとめ	予習：試験準備 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分

《専門科目》

科目名	検定文法III				
担当者氏名	高向　有理				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
１．N1レベルの文法を理解し、くり返し使い方を練習する。
２．N1レベルのの文法を使って、文章を書く練習をする。
３．N1レベルの聴解練習をする。

《授業の到達目標》
１．日本語能力試験N1合格に向け、文法力の向上を目指す。
２．テキストで学んだ文法をよく理解し、日本語能力試験の問題において、正しい答えを導き出せる。
３．テキストで学んだN1文法を使用し、文章が書ける。
４．N1レベルの聴解問題を聞き、正しい答えを導き出せる。

《成績評価の方法》
筆記試験　40%　レポート　%
課題・小テスト40%　実技　%
授業の取組　20%
その他（　　）　%

《教科書》
『TRY!日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』（アスク出版）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
・テキストの各章終了後、小テストを行い、翌週フィードバックを行う。
・毎週宿題を提出し、翌週返却、フィードバックを行う。

《成績評価基準》
・N1文法をよく理解し、文法力が向上できたか。
・日本語能力試験の問題において、正しい答えが導き出せるようになったか。
・N1文法を使用し、文章が書けるようになったか。
・N1レベルの聴解問題を聞き、正しい答えが導き出せるようになったか。

《参考図書》
日本語能力試験N1問題集

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	授業についての説明 N1文法　導入・練習	予習：テキストの内容を確認/１年次に学んだ文法の復習をしておく。（３０分） 復習：第１回授業内容の復習（３０分）
2	N1文法　導入・練習 聴解練習	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）
3	N1文法　小テスト 導入・練習	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）
4	N1文法　導入・練習 聴解練習	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）
5	N1文法　導入・練習 聴解練習	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）
6	N1文法　小テスト 導入・練習	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）
7	N1文法　導入・練習 聴解練習	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）
8	N1文法　導入・練習 聴解練習	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）
9	N1文法　小テスト 導入・練習	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）
10	N1文法　導入・練習 聴解練習	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）
11	N1文法　導入・練習 聴解練習	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）
12	N1文法　小テスト 導入・練習	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）
13	N1文法　導入・練習 聴解練習	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）
14	N1文法　導入・練習 聴解練習	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）
15	総復習 総まとめ	予習：第２回授業内容の予習（３０分） 復習：第２回授業内容の復習（３０分）

《専門科目》

科目名	通訳概論				
担当者氏名	BUI　THI　THU SANG				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
授業の前半は通訳の基本と言った通訳の定義・種類・技術、通訳者としての職業倫理を学ぶ。後半は分野別で関連の制度を理解し、その分野の専門用語を覚える。

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
クイズは授業内フィードバックする。
通訳用単語帳を提出した後、一週間以内フィードバックする。

《授業の到達目標》
通訳の基本や通訳者としての職業倫理が理解できる。通訳に役に立つ日本制度についての知識及び専門用語を身につける。

《成績評価基準》
クイズ
通訳用単語帳作成

《成績評価の方法》
筆記試験　%　レポート　%
課題　50%　実技　%
授業の取組　50%
その他（　　）　%

《参考図書》
「通訳の技術」　小松達也　（研究社）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	通訳の基本	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習する
2	通訳者としての職業倫理	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習する
3	通訳者に必要な知識	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習する
4	通訳者に必要な技実	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習する
5	逐次通訳	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習して、通訳用単語帳を作成する
6	同時通訳	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習して、通訳用単語帳を作成する
7	一般知識①	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習して、通訳用単語帳を作成する
8	一般知識②	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習して、通訳用単語帳を作成する
9	文化的な知識①	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習して、通訳用単語帳を作成する
10	文化的な知識②	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習して、通訳用単語帳を作成する
11	医療分野の理解	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習して、通訳用単語帳を作成する
12	司法分野の理解	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習して、通訳用単語帳を作成する
13	教育分野の理解	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習して、通訳用単語帳を作成する
14	観光分野の理解	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習して、通訳用単語帳を作成する
15	ビジネス分野の理解	予習内容（2時間）プリントを予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習して、通訳用単語帳を作成する

《専門科目》

科目名	ビジネスコミュニケーションIII				
担当者氏名	永吉　美知子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
多様化するビジネス環境の中でいかにコミュニケーションを構築するのが目的である。現代社会の出来事（経済・政治・暮らし・社会環境・国際関係）を多面的な視野で理解しその問題点と解決方法を記述化することによって相手に明確にその意思を伝達できるコミュニケーションを培う

《授業の到達目標》
インターネット・新聞・論文などに興味を持つ。
他者に意見や記事を正確に読み取る。
自分の意見をデータなどに基づき述べることができる

《成績評価の方法》
筆記試験　40%　レポート　%
課題30　%　実技　%
授業の取組30　%
その他（　　）　%

《教科書》
適宜プリント配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
授業内で課題を考え　解説を行う

《成績評価基準》
客観的なデータをもとに　自分の意見を明確に伝達することで　相手方とコミュニケーションを構築できるようななているか

《参考図書》

江夏健一　「理論とケースで学ぶ国際ビジネス：」
ニュース検定　１・２級

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション 若者は選挙にいかない	復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
2	安全保障 沖縄・北方領土	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
3	日本経済	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
4	世界経済 広がる巨大経済圏	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
5	エネルギー問題 脱炭素・再生エネ	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
6	原発は必要か 調整	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
7	人口問題 少子化の原因	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
8	人口問題 他国と日本の比較	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
9	働き方改革 ジョブ型メンバー型	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
10	働き方改革 正規か非正規化	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
11	共生社会 同性婚とLGBT	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
12	共生社会 外国人・夫婦別姓か	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
13	情報社会 ITの課題	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
14	情報社会 AIとシンギュラリティ	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
15	総復習	復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）

《専門科目》

科目名	実践的プログラミング演習III				
担当者氏名	柿山　達哉、常岡　直樹				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
①Windows操作
②メール操作の習熟
③Excelの有効活用
④実社会でのパソコンの利用例体験
⑤自力でプログラム作成Ⅰ
上記内容を中心に総合的な活用術を習得する。
週ごとのテーマは学生の理解度に合わせて変更する。

《授業の到達目標》
2年間でパソコンを実際に活用できる力を身に着けることが目標。
演習IIIでは特にプログラミング作成に力を入れる。
簡単なマクロを自力でプログラミングできることが目標。

《成績評価の方法》
課題６０％
授業の取組４０％

《教科書》
適宜プリントを配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
講義毎に課題を出し、提出された課題の評価で成績を評価する。毎回の積み上げなので、出席率の低下と課題の提出率の低下は比例するため、出席率が悪いと評価は下がる。

《成績評価基準》
・講義に対し意欲的に取り組んでいたか。
・課題に対して真摯に取り組むことができたか。
・課題を理解して自分の力として身に着けることができたか。
・講義を楽しむことができたか。

《参考図書》
講義の内容にあわせて、各種説明資料等を講師が作成し配布する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	課題マクロ作成Ⅰ 課題の内容説明	予習：なし 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
2	課題マクロ作成Ⅰ アルゴリズム解説	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
3	課題マクロ作成Ⅰ コーディング実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
4	課題マクロ作成Ⅰ コーディング実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
5	課題マクロ作成Ⅰ 個別指導	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
6	課題マクロ作成Ⅰ 個別指導	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
7	課題マクロ作成Ⅰ 個別指導	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
8	課題マクロ作成Ⅰ 作成課題の提出	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
9	課題マクロ作成Ⅱ 課題の内容説明	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
10	課題マクロ作成Ⅱ アルゴリズム解説	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
11	課題マクロ作成Ⅱ コーディング実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
12	課題マクロ作成Ⅱ コーディング実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
13	課題マクロ作成Ⅱ 個別指導	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
14	課題マクロ作成Ⅱ 個別指導	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
15	課題マクロ作成Ⅰ 作成課題の提出	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）

２ 年 後 期

《基礎科目》

科目名	英語Ⅱ				
担当者氏名	西村　紀子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》
基礎文法の復習を行い、使える英語の知識を確立する。
Audio教材を使ったフレーズ練習により、日常会話での表現を学び、抵抗なく発話する力を身につける。
毎回語彙テストを行い、語彙・熟語を増やすことを心掛け、TOEICや英検などの資格試験の取得も視野に入れて取り組む。

《授業の到達目標》
英語Ⅰで学んだ基礎文法を応用して活用できるようにする。
基礎文法をさらに学び、日常の身の回りの事柄について、自分の言葉で発話できるようにする。

《成績評価の方法》
筆記試験　30%　レポート　－%
課題　－%　実技　－%
授業の取組　35%
その他（提出物）　35%

《教科書》
プリント配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
期末試験のフィードバックは希望に応じて行います。

《成績評価基準》
基礎文法の応用力が身についているか。
身の回りの事柄について、自分の言葉で発信し説明できるか。
応用に必要な基本的語彙が身についているか。

《参考図書》
「英会話の基本文型８７」

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	講座概要と英語基本文型について	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
2	ｔｏ不定詞（名詞、形容詞、副詞的用法）	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
3	比較（原級、比較級、最上級）	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
4	受動態	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
5	受動態演習	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
6	現在完了形（完了、経験、継続）	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
7	現在完了形（完了、経験、継続）演習	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
8	現在分詞	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
9	過去分詞	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
10	現在分詞・過去分詞演習	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
11	関係代名詞（主格）	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
12	関係代名詞（目的格）	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
13	関係代名詞演習	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
14	後期学習内容の総復習	予習：課題語彙（30分） 復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）
15	後期学習内容の理解確認	復習：学習した項目の整理・応用問題（30分）

《基礎科目》

科目名	健康スポーツ論				
担当者氏名	星子　和夫				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
近年の健康ブームから、スポーツ活動の現状と活動意義、効果を学びながら、発育発達段階から加齢による身体的能力の変化を理解するとともに、指導者として運動者ニーズに応えられる知識および指導理論を身につけ、子どもから中高齢者までの各ライフステージに適した健康スポーツの方法論や注意点について学ぶ。また、これらの知識や理論をもとに運動プログラムの作成ができるようになる.

《授業の到達目標》
「スポーツを通した健康づくり」という社会的ニーズが高まる中で、幅広い世代のスポーツライフを支えるスポーツ・健康運動指導者になるための必要な理論と指導のための基礎的知識について理解することができる。また、具体的にそのスポーツ・運動が取り入れられ、それがどのような効果をもたらしているのか考察することができる。安全で効果的なスポーツ・運動の方法と効果、留意点を理解できるようになる。

《成績評価の方法》
筆記試験　100%

《教科書》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）
健康体力づくり事業財団
「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
まとめの試験では1問1点、100問の100点満点で評価します。出題形式は語群からの選択と〇×問題、自由記述です。解答解説は試験後に行います。

《成績評価基準》
幅広い世代のスポーツライフを支えるスポーツ・健康運動指導者になるための必要な理論を理解するとともに、指導者としての基礎的な知識および運動・スポーツの特性をまとめておく。また、各運動・スポーツを指導する上で最重要とされる安全の確保についても理解できる。

《参考図書》
「年齢に応じた運動のすすめ」宮下充正、杏林書院
「運動処方としての水泳・水中運動」出村慎一監修、杏林書院

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	健康のためのスポーツ	競技スポーツを除き、健康体力づくりのためのスポーツを考察しておく（1時間） 健康スポーツについて学んだ内容を復習しておくこと（3時間）
2	発育発達と運動能力	成人へと発育段階における身体的特徴と運動能力の変化を考えておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
3	加齢にともなうカラダの変化①	成人後の加齢に伴う身体的特徴について考え、まとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
4	加齢にともなうカラダの変化②	成人後の加齢に伴う身体的特徴について考え、まとめておくこと（2時間） 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと（2時間）
5	加齢とトレーナビリティ	加齢に伴うトレーニングの目的と意義を考察しておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
6	中高年の健康スポーツ	身体活動の必要性、最低限の体力の必要性を考えておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
7	運動の種類①	健康づくりのための運動には何があるのかを考えておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
8	運動の種類②	健康づくりのための運動には何があるのかを考え、特性をまとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
9	運動プログラムの設定	経験した運動プログラムと照合し、健康づくりのためのそれを考察しておく（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
10	ウォーキング	ウォーキングの特性について考え、まとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
11	ジョギング	ジョギングの特性について考え、まとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
12	水泳・水中運動	水泳・水中運動の特性について考え、まとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
13	エアロビックダンス	エアロビックダンスの特性について考え、まとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
14	ストレッチ・レジスタンス運動	ストレッチ・レジスタンス運動の特性について考え、まとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
15	まとめ	まとめの試験を行いますので、これまでの内容を予習しておくこと（2時間） これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）

《専門科目》

科目名	生涯スポーツ論				
担当者氏名	高木　富士男				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
現代社会の要求に応えるべく、生涯スポーツの理論を学習します。具体的には、生涯スポーツの背景と理念、保健指導、子どもの身体とトレーニング、高齢者の身体とトレーニングについて学んでいきます。

《授業の到達目標》
1．生涯を通して身体を動かすことの必要性を知る
2．生涯スポーツに関する情報を収集できる
3．ファイ不ステージに応じたトレーニング方法を説明できる

《成績評価の方法》
筆記試験　60%
課題　20%
授業の取組　20%

《教科書》
「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会
「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ」（公財）日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出課題は全体発表をした後に、評価・フィードバックをした上で返却します。

《成績評価基準》
1．授業の内容を踏まえ、生涯スポーツの理念や必要性について説明することができる
2．授業の内容を踏まえ、スポーツ事業計画を策定することができる
3．収集した情報について要点をまとめ、人に分かりやすく伝えることができる

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	生涯スポーツとは①	生涯スポーツについて、自身の考えをまとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
2	生涯スポーツとは②	教科書（配布資料）の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
3	保健指導とは	教科書（配布資料）の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
4	生涯スポーツ施策	教科書（配布資料）の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
5	総合型地域スポーツクラブの育成と運営①	総合型地域スポーツクラブについて調べ、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
6	総合型地域スポーツクラブの育成と運営②	総合型地域スポーツクラブについて調べ、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
7	総合型地域スポーツクラブの育成と運営③	総合型地域スポーツクラブについて調べ、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
8	子どもの身体とトレーニング①	教科書（配布資料）の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
9	子どもの身体とトレーニング②	教科書（配布資料）の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
10	高齢者の身体とトレーニング①	教科書（配布資料）の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
11	高齢者の身体とトレーニング②	教科書（配布資料）の該当範囲を読む（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
12	スポーツ事業計画①	スポーツ事業計画書について考え、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
13	スポーツ事業計画②	スポーツ事業計画書について考え、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
14	スポーツ事業の実践	スポーツ事業計画書について考え、まとめる（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する（2時間） 今回の授業内容の復習（2時間）

《専門科目》

科目名	労働衛生学				
担当者氏名	中尾　由美				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
働く人たちの安全と健康を守る基本的な知識を習得する。特に労働衛生3管理や5管理について理解することができる。
働く人たちと事業者に対して安全と健康に働くとがどのように行われているか、講師の経験を取り入れた、現場の活動を含めた内容とする。

《授業の到達目標》
・働く人たちの健康と労働環境の関係を理解することができる。
・働く人たちの健康保持、増進のための健康支援や労働環境などの改善などの手法や知識を習得することができる。
・国家試験第1種衛生管理者試験の問題を解くことができる。

《成績評価の方法》
レポート　50%
授業の取組　50%

《教科書》
労働衛生のしおり（最新版）：中災防編

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
毎回、講義中に課題を提示するので。次週までに課題を提出する。提出状況や内容を確認する。

《成績評価基準》
授業の取り組み50%、レポート50%で評価する。

《参考図書》
産業保健ハンドブック：森晃爾：労働調査会
中災防編：衛生管理者試験問題集などを講義の進行に合わせて紹介する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	労働衛生とは、労働衛生統計	予習：シラバスを熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
2	労働衛生の現状	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
3	②労働衛生の現状　労働衛生の概要	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
4	第13次労働災害防止計画の概要	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
5	②第13次労働災害防止計画の概要	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
6	最近の労働衛生対策の展開　労働衛生管理の基本	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
7	最近の労働衛生対策の展開　労働衛生管理の基本	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
8	最近の労働衛生対策の展開　健康確保対策2	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
9	職業性疾病予防対策その1 作業環境測定について	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
10	職業性疾病予防対策その2 保護具について	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
11	職業性疾病予防対策その3 有害業務対策	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
12	職業性疾病予防対策その4 局所排気措置	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
13	職業性疾病予防対策その5 化学物質	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
14	まとめ	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）
15	総括	予習：次回の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく（2時間）

《専門科目》

科目名	レクリエーション活動援助法Ⅱ				
担当者氏名	星子　和夫				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
レクリエーションの指導者に求められる資質は、「コミュニケーション能力」である。この能力を高めるためには「ホスピタリティ」や「アイスブレーキング」、「自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法」の総合学習を実践で行う。この授業は、「レクリエーション・インストラクター」資格取得のための指定科目である。

《授業の到達目標》
援助法Ⅰ B で学習した基礎レベルよりもさらに円滑なコミュニケーション能力および指導能力を備えられるように、多くのレクリエーション活動を通して、人々の心を元気にするための支援と指導理論、指導方法を考察し、指導現場に活かすことができるようになる。また、指導者として前に立つ機会やレクリエーションのイベント参加を増やし、指導の知識と技術を身につける。

《成績評価の方法》
レポート　30%
課題　60%
授業の取組　10%

《教科書》
「楽しさをとおした心の元気づくり」（公財）日本レクリエーション協会、「レクリエーション支援ハンドブック」（NPO福岡県レクリエーション協会）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
各イベントや指導ごとに振り返り、問題・改善点を提示・提案し、個人への課題については評価をして返却する。そして、指導実践の中で振り返ってもらう。

《成績評価基準》
参加者としてイベントに必要な事項を考察でき、指導スタッフの立場で準備すべき計画をもとにまとめ遂行できる。また、円滑なコミュニケーション能力および指導能力を指導現場に活かすことができる。

《参考図書》
適宜プリントを配布する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション、イベント年間計画	1年次で学習した理論をもとに年間計画を立て行事の役割を考えておく（1時間） 計画を振り返り指導者としての役割を自覚してまとめておくこと（3時間）
2	福岡市スポーツフェスタの参加計画	ホスピタリティを再考し、体験学習の企画・立案をしておくこと（2時間） 今回の授業で学習したことを振り返え、まとめておくこと（2時間）
3	福岡市スポーツフェスタの参加計画	プログラムの流れと役割の準備をしておくこと（2時間） 指導計画をまとめて、振り返り本番に備える準備をしておくこと（2時間）
4	福岡市スポーツフェスタについて	イベント概要を考え、 役割分担などの詳細をまとめておくこと（2時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと（2時間）
5	福岡市スポーツフェスタについて	イベント概要を考え、 役割分担などの詳細をまとめておくこと（2時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと（2時間）
6	「秋の公園であそぼう」レクイベント①	イベント概要を考え、 役割分担などの詳細をまとめておくこと（2時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと（2時間）
7	「秋の公園であそぼう」レクイベント②	イベント概要を考え、 役割分担などの詳細をまとめておくこと（2時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと（2時間）
8	福岡市障がい者スポーツ大会について①	イベント概要を考え、 役割分担などの詳細をまとめておくこと（2時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと（2時間）
9	福岡市障がい者スポーツ大会について②	イベント概要を考え、 役割分担などの詳細をまとめておくこと（2時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと（2時間）
10	ウォークラリー体験①	概要および目的を考え、まとめておくこと（2時間） 体験をもとに自らが作成する立場を想定し、復習しておくこと（2時間）
11	ウォークラリーコマ図つくり	コマ図と実際のコースを模擬行動しておくこと（2時間） コマ図の表し方を振り返って作成しておくこと（2時間）
12	ウォークラリー体験②	作成したコマ図を再考し、模擬行動しておくこと（2時間） 学生作成のコマ図について振り返り、復習しておくこと（2時間）
13	クラフト①（クリスマスリースつくり）	作品の完成品をイメージしたり資料を収集しておくこと（2時間） 完成品をイメージして材料の収集に努めること（2時間）
14	クラフト②（松ぼっくりツリーつくり）	資料を模してイメージした 完成品になるように準備しておくこと（2時間） 作品の作業過程を振り返り、次回に活かせるようにまとめておくこと（2時間）
15	クラフト③（勾玉つくり）まとめ	仕上げの手順をイメージし、完成できるよう準備しておくこと（2時間） これまでに学んだ内容を復習しておくこと（2時間）

《専門科目》

科目名	キッズスポーツ指導演習				
担当者氏名	小川　茜				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
西短キッズスポーツフェスティバルでの企画立案と指導、および「西短大の体育館であそぼう！」での指導とサポートを行います。冠婚葬祭や就職活動等以外の欠席は履修放棄とみなしその後の授業参加を認めず単位認定を行いません。事情により欠席する場合は必ず教員と他履修生へ事前連絡すること。リハーサル及びイベント当日では学科指定ジャージ、靴を着用し、身だしなみを整えること。履修者は楽動塾に参加すること。

《授業の到達目標》
1．幼児を対象とした楽しく安全な運動・スポーツについて、企画立案・指導ができる
2．幼児体育指導の場にふさわしい立ち居振る舞い・コミュニケーション力が身についている

《成績評価の方法》
筆記試験　%　レポート　20%
課題　%　実技　50%
授業の取組　30%
その他（　　）　%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出物は評価・フィードバックをした上で後日返却します

《成績評価基準》
1．キッズスポーツフェスティバルと「西短大の体育館であそぼう！」で安全性を配慮した上で子どもたちに運動の楽しさ・喜び・達成感が実感できる運動を指導する
2．幼児体育指導の場にふさわしい姿勢で毎授業に参加する
3．リハーサルおよびイベントに関連して指示するレポート課題を提出する

《参考図書》
公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト、日本スポーツ協会リファレンスブック、

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	他授業で学んだ子供の運動指導に関する内容を振り返る（30分）・今回の内容の復習（30分）
2	指導実践①	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う（30分）・今回の内容の復習（30分）
3	指導内容の振り返り、運動指導の安全管理	安全管理について調べてまとめる（30分）・今回の内容の復習（30分）
4	指導プログラムの作成②	指導プログラムについて考える（30分）・今回の内容の復習（30分）
5	指導実践②	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う（30分）・今回の内容の復習（30分）
6	指導内容の振り返り	自身の指導内容を振り返り、まとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
7	リハーサル①	リハーサルに向けて用具の準備や指導の練習を行う（30分）・リハーサルを振り返り、反省点や改善点をまとめる（30分）
8	リハーサル②	リハーサルに向けて用具の準備や指導の練習を行う（30分）・リハーサルを振り返り、反省点や改善点をまとめる（30分）
9	指導実践③	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う（30分）・今回の内容の復習（30分）
10	指導実践④	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う（30分）・今回の内容の復習（30分）
11	指導実践⑤	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う（30分）・今回の内容の復習（30分）
12	指導実践⑥	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う（30分））・今回の内容の復習（30分）
13	指導内容の振り返り	自身の指導内容を振り返り、まとめる（30分）・レポートを作成する（30分）
14	指導実践④、指導内容の振り返り	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う（30分）・レポートを作成する（30分）
15	指導実践⑤、指導内容の振り返り	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う（30分）・レポートを作成する（30分）

《専門科目》

科目名	ジュニアスポーツ指導員特講				
担当者氏名	小川　茜				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
ジュニアの発育発達に伴う身体的・精神的変化を中心に、日常生活から身体活動、スポーツ活動、コーチングに関して学習する。また、専門科目の試験のために練習問題や過去問を解き、振り返りながらより理解を深める。
日本スポーツ協会公認資格「ジュニアスポーツ指導員」専門科目の対策講座です。

《授業の到達目標》
ジュニアスポーツ指導員として理論編・実技編・実習編に分け、それぞれの内容を考えながら理解することを目指します。理論編ではジュニアに関わるすべての側面をスポーツの現場に応用し、実技編ではボランティア活動やジュニア対象イベントで体験したことを理論に置き換え、実習編では理論や実技を踏まえ、総合的論理的に理解することができる。

《成績評価の方法》
筆記試験　100%　レポート　%
課題　%　実技　%
授業の取組　%
その他（　　）　%

《教科書》
「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」日本スポーツ協会編集発行

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
適宜、練習問題および過去問を解きながら、正答できるまで繰り返しフィードバックする。

《成績評価基準》
ジュニアのスポーツ指導員として必要な知識や指導理論を学習する中で、専門科目の筆記試験に合格できるような基準で評価する。

《参考図書》
適宜紹介

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ジュニアスポーツ指導員の概論	テキストの指定範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
2	コーチング①	テキストの指定範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
3	コーチング②	テキストの指定範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
4	体力	テキストの指定範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
5	動きの発達	テキストの指定範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
6	心理と発達	テキストの指定範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
7	スポーツ医学①	テキストの指定範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
8	スポーツ医学②	テキストの指定範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
9	女性とスポーツ	テキストの指定範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
10	運動遊び・スポーツ	テキストの指定範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
11	実習プログラムの作成、実践、評価	テキストの指定範囲を読む（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
12	過去問対策①	自分の苦手分野を復習する（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
13	過去問対策②	自分の苦手分野を復習する（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
14	過去問対策③	自分の苦手分野を復習する（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
15	まとめ	これまでの授業内容を振り返る（30分）・今回の授業内容の復習（30分）

《専門科目》

科目名	リハビリテーション論				
担当者氏名	田村　有深歩				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
実務経験として日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーや鍼灸師の資格を有し競技選手のトレーナーとして活動する教員がリハビリテーションの理念や目的、障がいについてスライドを用いて講義を行う。
リハビリテーション計画立案の演習を行う。

《授業の到達目標》
・リハビリテーションの概念と目的を学び、アスレティックリハビリテーション計画を立案することができる。
・障がいの概念と各種障がいについて説明することができる
・医学的リハビリテーションの流れと関係職種、評価法、治療法について説明することができる
・教育的、職業的、社会的リハビリテーションを理解し、その中でスポーツ指導者としての関わりを見出すことができる

《成績評価の方法》
筆記試験　80%
授業の取組　20%

《教科書》
無し

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
評価や解説の時間を設ける。

《成績評価基準》
筆記試験と受講態度で評価をする。
受講態度は配布物への記入や、講義内容をメモするなど、積極的に授業に参加しているかどうかを評価する。

《参考図書》
Reference Book（公財）日本スポーツ協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	リハビリテーションの理念と目的	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
2	リハビリテーションの範囲	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
3	障がいの概念	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
4	各種障がい（脳性麻痺・脳血管疾患後遺症）	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
5	各種障がい（脊髄損傷）	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
6	各種障がい（高齢者の障がい・その他）	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
7	各種障がい（視覚・聴覚・精神機能障がい）	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
8	医学的リハビリテーション1	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
9	医学的リハビリテーション2	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
10	地域リハビリテーション	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
11	教育的・職業的・社会的リハビリテーション	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
12	アスリハとリハビリ計画1	予習：アスレティックリハビリテーションについて調べておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
13	アスリハとリハビリ計画2	予習：アスレティックリハビリテーションについて調べておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
14	アスリハとリハビリ計画3	予習：アスレティックリハビリテーションについて調べておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）
15	まとめ	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと（1時間） 復習：配布物の内容を熟読しておくこと（1時間）

《専門科目》

科目名	テーピングマッサージ演習				
担当者氏名	片井　忠				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
テーピングとマッサージの実技が中心の内容です。

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
解説の時間を設ける。

《授業の到達目標》
トレーナーとして必要不可欠な技術であるテーピングとマッサージの習得を目標とします。

《成績評価基準》
授業内取組60%、実技テスト40%

《成績評価の方法》
実技　　40%
授業の取組　60%

《参考図書》
公認スポーツ指導者養成テキスト（公財）日本スポーツ協会、
スポーツマッサージ（増田雄一、新星出版社）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツマッサージの理論	復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
2	実技　下腿～大腿後部	予習：下腿～大腿後部の筋肉について解剖学を勉強しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
3	臀部～腰背部	予習：臀部～腰部の筋肉について解剖学を勉強しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
4	肩甲帯～肩周辺	予習：肩甲帯～肩の筋肉について解剖学を勉強しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
5	頚部～腕部	予習：頚～腕の筋肉について解剖学を勉強しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
6	下腿～大腿前部	予習：下腿～大腿前部の筋肉について解剖学を勉強しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
7	まとめ	復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
8	実技テスト	
9	テーピングの理論	復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
10	実技　足首	予習：足首の障害について予習しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
11	足部・シンスプリント	復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
12	膝部・肉離れ	予習：肉離れについて予習しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
13	肩・肘	予習：肩・肘の障害について予習しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
14	手首・指	予習：手首・指の障害について予習しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
15	まとめ（実技テスト）	

《専門科目》

科目名	健康運動実践指導演習Ⅰ				
担当者氏名	高木　富士男				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
(公財)健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」の資格対策講座です。資格取得には実技および筆記試験の合格が条件となります。受験希望の学生は必ず履修してください。実技試験では、陸上/水中いずれかを選択し、レジスタンス運動(2種目)と有酸素運動(エアロビックダンス/水中ウォーキング)の5分間の運動指導の完成を目指します。筆記試験対策では、90分40問に対応しうるよう、理論を理解していきます。

《授業の到達目標》
1．陸上または水中で、課題として定められたレジスタンス運動を遂行できる
2．陸上または水中で、課題として定められた有酸素運動を遂行できる
3．健康運動実践指導者として、必要な知識を身に着けることができる

《成績評価の方法》
課題　50%
授業の取組　30%
その他（小テスト）　20%

《教科書》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
課題・小テストはその都度、解説の時間を設けます。

《成績評価基準》
課題では、実技・筆記試験対策の出来栄えや到達度合をみて総合的に評価します（50%）。
また、受講状況や、取り組む姿勢を授業への取り組みとして評価します（30%）。
その他、筆記試験模擬問題として小テストを行い、理解度を評価します（20%）。

《参考図書》
「健康運動実践指導者試験」／桑野純一他、日本能率協会マネジメントセンター

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション健康運動実践指導者とは	予習：健康運動実践指導者の実際についてまとめておくこと（60分） 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（90分）
2	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習：実技試験で述べるキューイングをまとめておく（60分） 復習：実技試験内容を練習する（90分）
3	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習：実技試験で述べるキューイングをまとめておく（60分） 復習：実技試験内容を練習する（90分）
4	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習：実技試験で述べるキューイングをまとめておく（60分） 復習：実技試験内容を練習する（90分）
5	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習：実技試験で述べるキューイングをまとめておく（60分） 復習：実技試験内容を練習する（90分）
6	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習：実技試験で述べるキューイングをまとめておく（60分） 復習：実技試験内容を練習する（90分）
7	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習：実技試験で述べるキューイングをまとめておく（60分） 復習：実技試験内容を練習する（90分）
8	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習：実技試験で述べるキューイングをまとめておく（60分） 復習：実技試験内容を練習する（90分）
9	筆記試験対策	予習：健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと（60分） 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと（90分）
10	筆記試験対策	予習：健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと（60分） 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと（90分）
11	筆記試験対策	予習：健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと（60分） 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと（90分）
12	筆記試験対策	予習：健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと（60分） 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと（90分）
13	筆記試験対策	予習：健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと（60分） 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと（90分）
14	筆記試験対策	予習：健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと（60分） 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと（90分）
15	筆記試験対策	予習：健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと（60分） 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと（90分）

《専門科目》

科目名	健康運動実践指導演習Ⅱ				
担当者氏名	星子　和夫				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
健康運動実践指導者の資格試験に合格するために、実技試験対策では、レジスタンス運動の2種目（2分間）と有酸素運動であるエアロビックダンス（3分間）の5分間の運動指導を完成させる。また、筆記試験対策では、練習問題集と過去問題を解きながら資格試験に慣れるとともに自己の知識量を確認し、テキストと照合し復習に取り組む。

《授業の到達目標》
（公財）健康・体力づくり事業財団認定資格である「健康運動実践指導者」の対策講座です。資格取得の条件である実技試験および筆記試験の合格を目標とします。合格できるように、1年次に学修した健康体力づくりの基礎理論の復習をしながら、2年次の新しい分野を理解することができるようになる。

《成績評価の方法》
筆記試験　40%
実技試験　40%
授業の取組　20%

《教科書》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康体力づくり事業財団）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
当財団の実技試験終了までは実技試験の対策を行う。毎回課題を提示し授業では課題の修得確認を段階的に行う。また、実技試験終了後から筆記試験対策に取り組み、実技同様練習問題を課題とし提示し授業では解説をしていく。

《成績評価基準》
実技模擬試験では、学修過程を見ながら完成度で評価し、筆記模擬試験では、最終のまとめの評価で総評する。当財団が掲げている「自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者」としての指導スキルを身につけることができる。また、健康や体力の維持増進、安全に関わる基礎知識および指導理論を理解することができる。

《参考図書》
「健康運動実践指導者試験」桑山純一他、日本能率協会マネジメントセンター

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	資格概要説明を聞いて実技試験DVDを確認しておくこと。（1時間） 今回の学びを試験対策として動作の再確認をする。（1時間）
2	実技試験対策 実技試験について	実技5種目が規程どおりできるように動作の確認をしておくこと。（1時間） 正しくない動きを指摘された動作を修正する。（1時間）
3	・レジスタンス運動（2分間の動き）	正しい動きになるよう修正しておくこと。（1時間） 指導に必要な要点を確認し、口頭で述べることができるようにする。（1時間）
4	・エアロビックダンス（3分間の動き）	正しい動きになるよう修正しておくこと。（1時間） 指導に必要な要点を確認し、口頭で述べることができるようにする。（1時間）
5	・レジスタンス運動・エアロビックダンス	レジスタンス運動での2分間の動きと指導ができるよう記録しておくこと。（1時間） 指摘を受けた箇所を修正し、スムーズな指導ができるようにする。（1時間）
6	・レジスタンス運動・エアロビックダンス	エアロビックダンスでの2分間の動きと指導ができるよう記録しておくこと。（1時間） 指摘を受けた箇所を修正し、スムーズな指導ができるようにする。（1時間）
7	・レジスタンス運動・エアロビックダンス	正しい姿勢・動き、タイミング、キューイング指導ができるようにする。（1時間） 姿勢・動き、タイミング、キューイング指導ができるように復習する。（1時間）
8	・レジスタンス運動・エアロビックダンス	指導者としての見本・指導ができるようにする。（1時間） 実際の実技試験のための指導ができるように復習する。（1時間）
9	筆記試験対策 筆記試験について	筆記試験のためにスポーツ科学の基礎を確認しておくこと。（1時間） 養成用テキストをもとに運動生理学を中心に復習する。（1時間）
10	筆記試験対策および解説・模擬試験および解説	与えられた問題を解答できるように養成用テキストを熟読しておくこと。（1時間） 不正解の問題を復習する。また、養成用テキストを確認する。（1時間）
11	筆記試験対策および解説・模擬試験および解説	与えられた問題を解答できるように養成用テキストを熟読しておくこと。（1時間） 不正解の問題を復習する。また、養成用テキストを確認する。（1時間）
12	筆記試験対策および解説・模擬試験および解説	与えられた問題を解答できるように養成用テキストを熟読しておくこと。（1時間） 不正解の問題を復習する。また、養成用テキストを確認する。（1時間）
13	筆記試験対策および解説・模擬試験および解説	与えられた問題を解答できるように養成用テキストを熟読しておくこと。（1時間） 不正解の問題を復習する。また、養成用テキストを確認する。（1時間）
14	筆記試験対策および解説・模擬試験および解説	与えられた問題を解答できるように養成用テキストを熟読しておくこと。（1時間） 不正解の問題を復習する。また、養成用テキストを確認する。（1時間）
15	まとめ	与えられた問題を解答できるように養成用テキストを熟読しておくこと。（1時間） 不正解の問題を復習する。また、養成用テキストを確認する。（1時間）

《専門科目》

科目名	エアロビックダンスⅡ				
担当者氏名	荒川　優子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
エアロビックダンスの基礎理論、プログラムづくり、指導者としての正確な動作、実践的な指導テクニック、グループエクササイズ指導者としての心構えなどを習得できます。
実務歴：フィットネス施設にて、運動と栄養指導を行う。エアロビックダンスなどのスタジオレッスンも担当。ADI・健康運動指導士保有。

《授業の到達目標》
エアロビックダンスとは、健康・体力づくりのためのエクササイズであり、老若男女、誰もが楽しんで参加できる、音楽を用いたポジティブな運動です。
①エアロビックダンスについて説明できるようになる。②グループエクササイズの指導者として人前に立つことができるようになる。③エアロビックダンスインストラクター（ADI）の資格を取得する。

《成績評価の方法》
筆記試験　　%　レポート　　%
課題　　%　実技　　100　%
授業の取組　　%　その他（　　）　　%

《教科書》
「ADBI･ADI のためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論」（社）日本フィットネス協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
講評（フィードバック）の時間を設ける。

《成績評価基準》
ADI 検定の合格基準に準ずる。
①インストラクターとして正確な動作ができる。②的確な指示・安全面の考慮ができる。③指導の循環ができる。

《参考図書》
「GFI のためのフィットネス基礎理論（改訂対応版）」、「GFI のためのグループエクササイズ指導理論」（社）日本フィットネス協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ｴｱﾛﾋﾞｯｸﾀﾞﾝｽｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ(ADI)認定について	予習：教科書「第2章」熟読（2時間） 復習：実技の復習（2時間）
2	ｴｱﾛﾋﾞｯｸﾀﾞﾝｽｴｸｻｻｲｽﾞ指導理論(基本の動き)	予習：教科書「第3・4章」熟読（2時間） 復習：実技で確認（2時間）
3	エアロビックダンス動作（ローインパクト）	予習：実技・動作の確認（2時間） 復習：実技で復習（2時間）
4	エアロビックダンス動作（ローインパクト）	予習：実技・正確な動作（2時間） 復習：実技で復習（2時間）
5	エアロビックダンス動作（ハイインパクト）	予習：実技・動作の確認（2時間） 復習：実技で復習（2時間）
6	エアロビックダンス動作（ハイインパクト）	予習：実技・正確な動作（2時間） 復習：実技で復習（2時間）
7	プログラムづくり（ADI 試験対策）	予習：プログラムをつくる（2時間） 復習：修正・チェック（2時間）
8	プログラムづくり（ADI 試験対策）	予習：プログラムをつくる（2時間） 復習：修正・チェック（2時間）
9	プログラムづくり（ADI 試験対策）	予習：プログラムをつくる（2時間） 復習：修正・チェック（2時間）
10	ｴｱﾛﾋﾞｯｸﾀﾞﾝｽｴｸｻｻｲｽﾞ指導理論(歴史～ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ)	予習：プログラムをつくる（2時間） 復習：教科書「第2・3・4章」熟読（2時間）
11	ｴｱﾛﾋﾞｯｸﾀﾞﾝｽｴｸｻｻｲｽﾞ指導理論(指導法･環境整備)	予習：プログラムをつくる（2時間） 復習：教　科　書「第5・6章」熟読（2時間）
12	ADI 試験対策演習	予習：実技検定の練習（2時間） 復習：実技検定の練習（2時間）
13	ADI 試験対策演習	予習：実技検定の練習（2時間） 復習：実技検定の練習（2時間）
14	ADI 試験対策演習	予習：実技検定の練習（2時間） 復習：実技検定の練習（2時間）
15	ADI 試験後の実演（1学年を対象に実技指導）	予習：指導プログラム作成（2時間） 復習：プログラム修正（2時間）

《専門科目》

科目名	水泳コーチ論				
担当者氏名	星子　和夫				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
水泳コーチの基礎理論として、水泳競技の特性および歴史、バイオメカニクス、生理学、心理学などを学ぶ。また、選手育成のために競泳科学やコーチング、専門的トレーニング、コンディショニングづくりについて競泳経験と照合しながら習得する。さらに、コーチとしての役割や安全管理を学習するためにコーチに必要な法律やプールの管理法、応急手当などについても学ぶ。この科目は競泳コーチ３資格の指定科目である。

《授業の到達目標》
水泳指導者を目指す者として、水泳の特性を理解するとともに、指導法および安全管理について理解することができる。また、選手の育成にかかわる専門的知識の把握に努め、競泳競技規則の理解と審判法を身につけることができる。

《成績評価の方法》
レポート　100%

《教科書》
「水泳コーチ教本」（公財）日本水泳連盟

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
項目ごとにレポートを課し、その内容を確認しながら解説を行う。

《成績評価基準》
水泳の特性をはじめ、指導法および安全管理について理解することができる。また、競泳の専門的な知識を身につけ、競技大会で重要な競泳競技規則や審判法を理解しまとめることができる。

《参考図書》
「水泳指導教本」三訂版（公財）日本水泳連盟
「競泳競技規則競技役員の手引き」（公財）日本水泳連盟

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	水泳の特性と歴史	水泳・水中運動時に受ける身体的作用を考え、特性としてまとめておくこと（2時間） 今回の学習内容をまとめておくこと（2時間）
2	水泳技術の構造１	4泳法の上肢・下肢・全身の動作を経験から振り返り、まとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
3	水泳技術の構造２	4泳法の上肢・下肢・全身の動作を経験から振り返り、まとめておくこと（2時間） 4泳法の動作をまとめておくこと（2時間）
4	水泳の生理学	水泳環境による体内の変化・影響をまとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
5	水泳の心理学１	水泳の様々な環境における心理的変化を考えておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
6	水泳の心理学２	水泳の様々な環境における心理的変化を考えておくこと（2時間） 水泳にかかわる心理をまとめておくこと（2時間）
7	選手育成に必要な栄養学１	競泳選手の経験からトレーニング場面に応じた栄養摂取を考えておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
8	選手育成に必要な栄養学２	競泳選手の経験からトレーニング場面に応じた栄養摂取を考えておくこと（2時間） 場面・状況に応じた栄養摂取についてまとめておくこと（2時間）
9	水泳の医学１	自身の故障や傷害について振り返り、その原因を考えておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
10	水泳の医学２	水泳運動者の故障や傷害について振り返り、その原因を考えておくこと（2時間） 故障や傷害についてまとめ、リハビリ法までおくこと（2時間）
11	競泳のコーチング１	過去に様々な場面でコーチから受けた指導を振り返り、まとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
12	競泳のコーチング２	過去に様々な場面でコーチから受けた指導を振り返り、まとめておくこと（2時間） コーチからの指導が選手に与える影響を復習しておくこと（2時間）
13	競泳のトレーニング	過去に経験したトレーニングを振り返り、目的別に考えてまとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
14	トレーナーとしての基礎知識	トレーナーの位置づけと役割をまとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
15	各種目における障害予防と対処法	競泳選手の障害をまとめておくこと（2時間） これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）

《専門科目》

科目名	水泳コーチ法演習				
担当者氏名	星子　和夫				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》
水泳（競泳）のコーチになるために生理学やバイオメカニクス、心理学などのスポーツ科学を理解するとともに、選手の育成・指導に応じたコーチングの知識や技量を高め、トレーニングやコンディショニングの指導法として活用できるように学習する。なお、この科目は、水泳コーチ3資格の指定科目である。

《授業の到達目標》
水泳（競泳）選手を育てる指導者になるために、競技者（タレント）の発掘・育成・指導に必要な競泳の科学的最新理論を理解するとともに、水泳選手の育成のトレーニング法とコーチング法を理解することができる。また、選手の指導現場およびコーチを取り巻く環境資源（コーチング文脈）の適用でコーチングの幅を広げ、常にプレーヤーズセンタードの実践指導を行えるようになる。

《成績評価の方法》
レポート　50%
課題　20%
実技　30%

《教科書》
「水泳コーチ教本」（公財）日本水泳連盟

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
適宜、レポートあるいは課題を課すと同時に、指導実践において振り返る。

《成績評価基準》
水泳（競泳）選手を育てるために必要な競泳のスポーツ科学を理解し、レポートにまとめることができる。また、水泳選手の育成のトレーニング法とコーチング法の指導を実践することができる。

《参考図書》
「水泳指導教本」三訂版（公財）日本水泳連盟
「健康・スポーツ科学における運動処方としての水泳・水中運動」出村慎一監修、杏林書院

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	クロール泳と指導ポイント１	プール入水前に、クロール泳とその指導法をまとめておく（2時間） 今回の学習内容を復習しておくこと（2時間）
2	クロール泳と指導ポイント２	クロール泳の効果的な指導法をまとめておく（2時間） クロール泳の指導法をまとめ動作を確認しておくこと（2時間）
3	背泳ぎと指導ポイント１	プール入水前に、背泳ぎとその指導法をまとめておく（2時間） 今回の学習内容を復習しておくこと（2時間）
4	背泳ぎと指導ポイント２	背泳ぎの効果的な指導法をまとめておく（2時間） 背泳ぎの指導法をまとめ動作を確認しておくこと（2時間）
5	バタフライと指導ポイント１	プール入水前に、バタフライとその指導法をまとめておく（2時間） 今回の学習内容を復習しておくこと（2時間）
6	バタフライと指導ポイント２	バタフライの効果的な指導法をまとめておく（2時間） クロール泳の指導法をまとめ動作を確認しておくこと（2時間）
7	平泳ぎと指導ポイント１	プール入水前に、平泳ぎとその指導法をまとめておく（2時間） 今回の学習内容を復習しておくこと（2時間）
8	平泳ぎと指導ポイント２	平泳ぎの効果的な指導法をまとめておく（2時間） クロール泳の指導法をまとめ動作を確認しておくこと（2時間）
9	競泳のトレーニング法とコーチング法１	トレーニング法とコーチング法を実践し、結果として得られたことを考察しておくこと（2時間）今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
10	競泳のトレーニング法とコーチング法２	トレーニング法とコーチング法を実践し、結果として得られたことを考察しておくこと（2時間）今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
11	競泳のトレーニング法とコーチング法３	トレーニング法とコーチング法を実践し、結果として得られたことを考察しておくこと（2時間）今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
12	競泳のトレーニング法とコーチング法４	トレーニング法とコーチング法を実践し、結果として得られたことを考察しておくこと（2時間）これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
13	競泳のコーチング法の実践１	選手の育成を想定し、コーチング法を考えてまとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
14	競泳のコーチング法の実践２	選手の育成を想定し、コーチング法を考えてまとめておくこと（2時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
15	競泳のコーチング法の実践３	選手の育成を想定し、コーチング法を考えてまとめておくこと（2時間） これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）

《専門科目》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	星子　和夫、高木　富士男、小川　茜、坂元　瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》
本学科での学習の総まとめとして取り組む授業であり、ゼミナール形式で行う。指導教員のもと、それぞれが研究テーマを設定し課題解決に取り組み、まとめ、最後に卒業研究発表会にて発表を行う。
卒業研究は授業時間だけ取り組むものではなく、また授業時間だけでは終わらない。問題意識を常に持ちながら課題解決に向けて各自の卒業研究を進めること。

《授業の到達目標》
1．スポーツ・運動の指導法・健康体力づくり・身体に関わる専門的能力・知識をゼミナール形式の演習を通して身に付けることができる。
2．論理的に文章を作成できる。
3．効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

《成績評価の方法》
筆記試験　%　レポート　%
課題　%　実技　%
授業の取組　%
その他（指導教員の裁量による）　100%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
卒業研究に関する発表内容や提出資料は、適宜各教員の添削を受け返却される。卒業研究発表会の内容は学科教員によって評価され、後日最優秀賞および優秀賞の研究を選出し発表される。

《成績評価基準》
1．各教員に与えられる課題に取り組むことができる
2．卒業研究発表会に関する要旨、発表用パワーポイント、抄録をゼミ教員の指導のもと作成し、指定期日までに提出できる

《参考図書》
「大学生学びのハンドブック（3訂版）」世界思想社編集部（編）世界思想社、その他適宜紹介

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	卒業研究についての理解を深める	問題意識や興味、研究テーマ、研究目的を考える（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
2	研究テーマの検討①	興味のある分野や自身の疑問をまとめる（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
3	研究テーマの検討②	興味のある分野や自身の疑問をまとめる（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
4	先行研究を調べる①	研究テーマに関連する先行研究をまとめる（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
5	先行研究を調べる②	研究テーマに関連する先行研究をまとめる（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
6	先行研究を調べる③	研究テーマに関連する先行研究をまとめる（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
7	テーマに基づき研究を進める①	文献調査、アンケート、実験等、各自の研究を進めるための取り組みを行う（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
8	テーマに基づき研究を進める②	文献調査、アンケート、実験等、各自の研究を進めるための取り組みを行う（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
9	テーマに基づき研究を進める③	文献調査、アンケート、実験等、各自の研究を進めるための取り組みを行う（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
10	テーマに基づき研究を進める④	文献調査、アンケート、実験等、各自の研究を進めるための取り組みを行う（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
11	要旨、発表用パワーポイント、抄録の作成①	提出する資料（要旨、発表用パワーポイント、抄録）を作成する（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
12	要旨、発表用パワーポイント、抄録の作成②	提出する資料（要旨、発表用パワーポイント、抄録）を作成する（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
13	要旨、発表用パワーポイント、抄録の作成③	提出する資料（要旨、発表用パワーポイント、抄録）を作成する（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
14	要旨、発表用パワーポイント、抄録の作成④	提出する資料（要旨、発表用パワーポイント、抄録）を作成する（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会に向けて発表練習を行う（30分）・発表会での指摘を受け、抄録の作成、修正を行う（30分）

《専門科目》

科目名	検定読解Ⅳ				
担当者氏名	高向　有理				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
日本語能力試験のＮ1を目標とした読解力を上げるための練習を行います。ポイント別学習や模擬問題での練習を行うことで、実践的な力を習得します。授業は課題の解説を主に行うため、予習した上で授業を受け、授業の内容を覚えているうちに復習し、次回の課題に取り組むようにしてください。課題忘れ、欠席のないよう自己管理を行ってください。

《授業の到達目標》
・幅広い話題について書かれた論説・評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、理解することができる。
・さまざまな内容の深みのある読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。

《成績評価の方法》
筆記試験　40%　レポート　%
課題　30%　実技　%
授業の取組　30%
その他（　　）　%

《教科書》
日本語能力試験問題集N1読解スピードマスター
（Jリサーチ出版）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
課題は、次の授業時に解説する。
理解度を確かめるために適宜小テストを実施し、添削して返却する。

《成績評価基準》
・段落ごとの要旨を理解できていたか。
・文の構成と後に続く文へのつながりを理解できていたか。
・抽象的な文章を理解できていたか。
以上について、小テストや期末テストで総合的に評価します。

《参考図書》
日本語能力試験N1関連問題集

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	文章の仕組み復習 対比・比喩・指示語等	予習：科目内容の確認　30分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
2	情報検索　お知らせ・メール・広告	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
3	情報検索　説明書き・表リスト	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
4	内容理解 中文	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
5	内容理解 長文	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
6	主張理解 中文	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
7	主張理解 長文	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
8	統合理解①	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
9	統合理解②	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
10	模擬試験①	予習：模試の準備　60分 復習：模試の見直し　60分
11	模擬試験の解説	予習：模試のやり直し　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
12	模擬試験②	予習：模試の準備　60分 復習：模試の見直し　60分
13	模擬試験の解説 過去問題①	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
14	過去問題①解説 過去問題②	予習：課題　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分
15	試験 まとめ	予習：期末試験の準備　60分 復習：授業で学習した語彙・文法の復習　60分

《専門科目》

科目名	検定文法Ⅳ				
担当者氏名	（未定）				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

《教科書》

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

《授業の到達目標》

《成績評価基準》

《成績評価の方法》

筆記試験　　%　レポート　　%
課題　　%　実技　　%
授業の取組　%　その他（　　）　%

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	日越通訳				
担当者氏名	BUI　THI　THU SANG				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
行政の手続きや医療、司法、教育、観光、ビジネス、放送においてシナリオ通訳を行い、実際の通訳現場を見学したり、実習に行ったりする。

《授業の到達目標》
通訳概論を受講した後、日越通訳者を目指している中級以上の日本語能力を持つ学生は通訳現場見学・実習やシナリオ通訳を通して、実践的な知識と技術を身につける。

《成績評価の方法》
筆記試験　%　レポート　%
課題　50%　実技　30%
授業の取組　20%
その他（　　）　%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
課題が提出された後、一週間以内フィードバックする。

《成績評価基準》
通訳現場の見学・実習後の報告書
シナリオ通訳の実技
シナリオ通訳の事前準備

《参考図書》
「通訳の技術」小松達也　（研究社）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	日越通訳の基本	予習内容（2時間）事前配布資料を予習する 復習内容（2時間）講義のパワーポイントを復習して、ノートにまとめる
2	行政通訳①	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新
3	行政通訳②	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新
4	医療通訳①	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新
5	医療通訳②	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新
6	司法通訳①	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新
7	司法通訳②	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新
8	教育通訳①	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新
9	教育通訳②	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新
10	案内通訳①	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新
11	案内通訳②	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新
12	ビジネス通訳①	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新
13	ビジネス通訳②	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新
14	ビジネス通訳③	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新
15	放送通訳	予習内容（2時間）事前準備 復習内容（2時間）自己評価、通訳用単語帳更新

《専門科目》

科目名	ビジネスコミュニケーションⅣ				
担当者氏名	永吉　美知子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
本科目は現代社会の出来事を多角的かつ公正な視野で理解、判断して　その課題を話し合いながら解決策を探るためのコミュニケーションスキルやレテラシーを育成する。

《教科書》
適宜プリント配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
授業内で課題を考え　解説を行う。

《授業の到達目標》
・　インターネット・新聞・論文などを理解し　使い分ける
・　リテラシーを伸ばす
・　高いコミュニケーション能力を身に着ける

《成績評価基準》
客観的なデータをもとに　自分の意見を明確に伝達することで相手方とコミュニケーションを構築できるようなっているか。

《成績評価の方法》
筆記試験40%　レポート　%
課題30　%　実技　%
授業の取組30　%
その他（　　）　%

《参考図書》
堀公俊「ビジネススキル図鑑」

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション 出生前診断	復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
2	地球をまもるために 地球温暖化	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
3	地球を守るために 多様化	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
4	世界の平和 難民・移民	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
5	GDPと金融政策 円安	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
6	日本の産業 ５Gとフランチャイズ	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
7	人口減少 少子化対策	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
8	増える社会保障 公的保険制度	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
9	変わりゆく働き方 ハラスメント	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
10	変わりゆく働き方 待遇差・高プロ	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
11	かわりゆく働き方 ジェンダーギャップ	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
12	アメリカと中国 中国と台湾	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
13	核兵器の中の世界 核兵器は平和手段か	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
14	日本的生産方式 トヨタ	予習：新聞記事を読む習慣を持ち　疑問点を書き出す（30分） 復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）
15	総復習	復習：　授業内容を復習し　疑問点を調べてみる。（30分）

《専門科目》

科目名	実践的プログラミング演習Ⅳ				
担当者氏名	柿山　達哉、常岡　直樹				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》
①Windows操作
②メール操作の習熟
③Excelの有効活用
④実社会でのパソコンの利用例体験
⑤自力でプログラム作成Ⅱ
上記内容を中心に総合的な活用術を習得する。
週ごとのテーマは学生の理解度に合わせて変更する。

《授業の到達目標》
2年間でパソコンを実際に活用できる力を身に着けることが目標。
演習Ⅳでは自分でどんなプログラムを作るか考え、実際に作ることができるようになるのが目標。
不明点を自分で解決する力を身につけることも目標。

《成績評価の方法》
課題６０％
授業の取組４０％

《教科書》
適宜プリントを配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
講義毎に課題を出し、提出された課題の評価で成績を評価する。毎回の積み上げなので、出席率の低下と課題の提出率の低下は比例するため、出席率が悪いと評価は下がる。

《成績評価基準》
・講義に対し意欲的に取り組んでいたか。
・課題に対して真摯に取り組むことができたか。
・課題を理解して自分の力として身に着けることができたか。
・講義を楽しむことができたか。

《参考図書》
講義の内容にあわせて、各種説明資料等を講師が作成し配布する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	課題マクロ作成Ⅲ 課題の内容説明	予習：なし 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
2	課題マクロ作成Ⅲ アルゴリズム解説	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
3	課題マクロ作成Ⅲ コーディング実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
4	課題マクロ作成Ⅲ コーディング実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
5	課題マクロ作成Ⅲ 個別指導	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
6	課題マクロ作成Ⅲ 個別指導	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
7	課題マクロ作成Ⅲ 個別指導	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
8	課題マクロ作成Ⅲ 作成課題の提出	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
9	自由課題マクロ作成 課題の内容説明	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
10	自由課題マクロ作成 自由課題の決定	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
11	自由課題マクロ作成 コーディング実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
12	自由課題マクロ作成 コーディング実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
13	自由課題マクロ作成 個別指導	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
14	自由課題マクロ作成 個別指導	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）
15	自由課題マクロ作成 成果発表	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。（２０分） 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。（２０分）

２ 年 通 年

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	坂元　瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年　（前期）
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 ◎　1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》
スポーツイベントや指導実践を通して、スポーツに携わる指導者としての基本的な能力や態度の育成を目指します。主に、キッズスポーツのイベント参加や実践を行います。
「JFA公認キッズリーダー」を取得済みまたは取得予定である方が望ましい。

《授業の到達目標》
1．スポーツイベントや指導実践を通して、積極性、協働性を身に付ける
2．様々な場面での指導法について考える力を身に付ける
3．スポーツに携わる人材として、相応しい知識、態度を身に付ける

《成績評価の方法》
課題　30%
実技　50%
授業の取組　20%

《教科書》
使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出課題は評価・フィードバックをした上で返却します。

《成績評価基準》
1．スポーツイベントや指導実践の活動に、積極的かつ主体的に参加することができる
2．場面に応じた行動や指導を行うことができる
3．プレゼンテーションのスキルを身に付け、コミュニケーションをとることができる

《参考図書》
適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	前期の活動について計画する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
2	個人ミーティング、ゼミ紹介作成	1年間の個人的な目標や活動について考え、まとめる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
3	イベントの計画及び準備①	必要な情報を集める（30分） プレゼンテーションの準備（30分）
4	キッズスポーツイベントでのボランティア活動	自身の役割を確認し、準備を行う（30分） 今回のイベントを振り返り、次への目標をまとめる（30分）
5	キッズスポーツイベントでのボランティア活動	指導現場での行動や対応について考える（30分） 今回のイベントを振り返り、次への目標をまとめる（30分）
6	キッズスポーツイベントでのボランティア活動	指導現場での行動や対応について考える（30分） 今回のイベントを振り返り、次への目標をまとめる（30分）
7	イベントの計画及び準備②	必要な情報を集める（30分） プレゼンテーションの準備（30分）
8	イベントの計画及び準備③	自身の役割を確認し、準備を行う（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
9	イベントの計画及び準備④	自身の役割を確認し、準備を行う（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
10	イベントの計画及び準備⑤	自身の役割を確認し、準備を行う（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
11	指導実践①	指導現場での行動や対応について考える（30分） 今回の指導を振り返り、次への目標をまとめる（30分）
12	指導実践②	指導現場での行動や対応について考える（30分） 今回の指導を振り返り、次への目標をまとめる（30分）
13	指導実践③	指導現場での行動や対応について考える（30分） 今回の指導を振り返り、次への目標をまとめる（30分）
14	ポートフォリオ作成①	前期の活動を振り返り、まとめる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
15	前期まとめ、ポートフォリオ作成②	前期の活動を振り返り、まとめる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	星子　和夫				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年　（前期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 ◎　1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》
本学科行事への参加はもちろん、学外でのレクリエーショ関連活動やボランティア活動へ楽しみながら積極的に「見るスポーツ・するスポーツ・支えるスポーツ」テーマに参加していきます。そのことで、学生をはじめ、子どもや家族、成人、高齢者などの対象者に対し、どのように接することで共に喜び楽しみ、心を元気にすることができるのかを考え、計画および運営ができるように学習する。

《授業の到達目標》
「心を元気にする」を目標としたレクリエーション活動をもとに、スポーツの視点からスポーツレクリエーションの推進を目指す。子どもから成人、障がい者に対する「支えるスポーツ」を実践しながら、地域住民と学生とが交流し、喜びを味わえるレクリエーション活動の体験を通して、今後の生涯スポーツ・生涯学習の振興とレクリエーション活動活性化の一助になることを目標とする。

《成績評価の方法》
課題　80%
授業の取組　20%

《教科書》
適宜プリントを配布する。

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
各イベントごとに振り返り、問題点を提示・提案し考えることができるようにする。

《成績評価基準》
心を元気にするレクリエーション活動を達成するために、楽しみながら事業に参加し、あるいは指導してスポーツレクリエーションの魅力を肌で感じ、まとめることができる。また、イベントに対する企画・運営についても順序立ててまとめ、情報を共有し計画的に安全に事業を実行することができる。さらに、実行後に振り返り次のイベントに活かすことができる。

《参考図書》
「ニュースポーツ百科」大修館書店

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、前期計画、団マラニックについて	年間計画を立て、ゼミ生の役割を考えておく（1時間） 年間計画を振り返り、ゼミ生の一員としての役割を自覚しておくこと（1時間）
2	ゼミ紹介作成、団マラ・あそびフェスタ	何を学びたいのかを考え、次のイベントに活かせるように考えておくこと（1時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（1時間）
3	ゼミ紹介作成、あそびフェスタについて	福浜健康体操、あそびフェスタについて考え、まとめておくこと（1時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（1時間）
4	あそびフェスタイベント指導参加1	イベント計画を立て、役割を理解し指導法を考えておくこと（1時間） 提案された内容を考え、まとめておくこと（1時間）
5	あそびフェスタイベント指導参加2	イベント計画を立て、役割を理解し指導法を考えておくこと（1時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと（1時間）
6	福浜健康体操1	対象者に適した運動・ゲームを考えておくこと（1時間） 対象者のサポートをして振り返ること（1時間）
7	福浜健康体操2	対象者に適した運動・ゲームを考えておくこと（1時間） 対象者のサポートをして振り返ること（1時間）
8	福浜健康体操3	対象者に適した運動・ゲームを考えておくこと（1時間） 対象者のサポートをして振り返ること（1時間）
9	福浜健康体操4	対象者に適した運動・ゲームを考えておくこと（1時間） 対象者のサポートをして振り返ること（1時間）
10	見るスポーツ「野球観戦」	選手や観客、場内・売店スタッフの行動と役割について考えておくこと（1時間） 観客のために行動を考えて、まとめておくこと（1時間）
11	オープンキャンパスの計画および準備	高校生の立場になって「おもてなし」について考え、まとめておくこと（1時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（1時間）
12	ユニクロサッカーキッズについて	役割と行動をまとめておくこと（1時間） 自分の役割や行動を復習しておくこと（1時間）
13	ユニクロサッカーキッズでの指導ボランティア1	子どもの安全を第一に、自分の役割や行動について考え、まとめておくこと（1時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（1時間）
14	ユニクロサッカーキッズでの指導ボランティア2	子どもの安全を第一に、自分の役割や行動について考え、まとめておくこと（1時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと（1時間）
15	福浜健康体操、前期のまとめ	前期のまとめとともに、後期イベントの準備を考えておくこと（1時間） これまでに学んだ内容を復習しておくこと（1時間）

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	高木　富士男				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年　（前期）
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 ◎　1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》
スポーツイベント等に参加するとともに、自らもスポーツイベントの企画運営に取り組む。
また、論文提出に向けた研究・調査・文作成を行う。

《教科書》
プリントを配布する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

《授業の到達目標》
スポーツ活動を自ら楽しみ、短期大学卒業後も障がいの有無にかかわらず多くの方のスポーツをサポートできるようになる。

《成績評価基準》
課題提出30%、授業の取組・受講態度20%、イベントの企画と実践50%

《成績評価の方法》
課題　　30%
授業の取組　20%
その他（イベントの企画と実践）　50%

《参考図書》
大学生学びのハンドブック［5訂版］世界思想社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	予習：福祉および障がい者に関するニュースを調べる（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
2	ポートフォリオ作成①	予習：1年次の各自の取り組みを振り返りまとめる（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
3	ポートフォリオ作成②	予習：1年次の各自の取り組みを振り返りまとめる（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
4	ポートフォリオ作成③	予習：1年次の各自の取り組みを振り返りまとめる（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
5	スポーツイベントへのボランティア協力①	予習：社会で行われているボランティア活動を調べる（60分） 復習：ボランティア活動を振り返り課題に取り組む（60分）
6	スポーツイベントへのボランティア協力②	予習：ボランティア活動の意義を調べる（60分） 復習：ボランティア活動を振り返り課題に取り組む（60分）
7	スポーツイベントへの参加①	予習：スポーツイベントについて調べる（60分） 復習：スポーツイベントを振り返り課題に取り組む（60分）
8	スポーツイベントへの参加②	予習：スポーツイベントについて調べる（60分） 復習：スポーツイベントを振り返り課題に取り組む（60分）
9	スポーツイベントの企画①	予習：スポーツイベントの企画を考える（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
10	スポーツイベントの企画②	予習：スポーツイベントの企画を考える（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
11	スポーツイベントの実践①	予習：スポーツイベントの準備をする（60分） 復習：スポーツイベントを振り返り課題に取り組む（60分）
12	スポーツイベントの実践②	予習：スポーツイベントの準備をする（60分） 復習：スポーツイベントを振り返り課題に取り組む（60分）
13	卒業論文について①	予習：健康・スポーツに関する関心のあるテーマについて考える（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
14	卒業論文について②	予習：先行研究（論文）を検索し一読する（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
15	ポートフォリオ作成④ 前期のまとめ	予習：前期の取り組みをまとめる（60分） 復習：前期を振り返り課題に取り組む（60分）

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	小川　茜				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年　（前期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 ◎　1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》
「キッズスポーツを支える人材」を目指し、学内外でのスポーツイベント、ボランティアに積極的に関わっていきます。学内の子ども向けイベントにおいて実行委員会として企画立案・指導を行います。積極的、主体的に取り組むこと、また責任感ある行動を期待します。「西短大の体育館であそぼう！」で中心的役割を担います。

《授業の到達目標》
1．キッズスポーツ、幼児体育を支える人材および社会人として相応しい知識、態度を身に付ける
2．幼児体育や心理学、スポーツ心理学などの専門知識と実践経験を得る
3．スポーツ指導に必要な積極性、協働性、プレゼンテーション力、文章力を身に付ける

《成績評価の方法》
筆記試験　%　レポート　%
課題　%　実技　50%
授業の取組　50%
その他（　　）　%

《教科書》
なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
各提出物は評価・フィードバックをした上で返却します

《成績評価基準》
1．専門的知識や態度、指導力が身に付いている
2．社会人としての教養が身に付いている

《参考図書》
「大学生学びのハンドブック（3訂版）」世界思想社編集部（編）世界思想社、「就職活動ハンドブック」西短進路指導部

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	大学生活で取り組みたい事について考え、まとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
2	個人面談、一般常識問題	就職活動の準備や一般常識問題の練習（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
3	指導実践①	必要な情報を集める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
4	個人面談、一般常識問題	就職活動の準備や一般常識問題の練習（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
5	イベント準備①	必要な情報を集める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
6	指導実践②	必要な情報を集める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
7	イベント準備②	プレゼンテーションの準備（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
8	イベント準備③	プレゼンテーションの準備（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
9	ユニクロサッカーキッズでのボランティア活動	必要な情報を集める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
10	イベント準備④	必要な情報を集める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
11	指導実践③	必要な情報を集める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
12	個人面談、一般常識問題	就職活動の準備や一般常識問題の練習（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
13	イベント準備③	必要な情報を集める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
14	イベント準備④	必要な情報を集める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
15	指導実践④	必要な情報を集める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	星子　和夫				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年　（後期）
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 ◎　1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》
本学科行事への参加はもちろん、学外でのレクリエーショ関連活動やボランティア活動へ楽しみながら積極的に「見るスポーツ・するスポーツ・支えるスポーツ」テーマに参加していきます。そのことで、学生をはじめ、子どもや家族、成人、高齢者などの対象者に対し、どのように接することで共に喜び楽しみ、心を元気にすることができるのかを考え、計画および運営ができるように学習する。福浜健康体操にも取り組みます。

《授業の到達目標》
「心を元気にする」を目標としたレクリエーション活動をもとに、スポーツの視点からスポーツレクリエーションの推進を目指す。子どもから成人、障がい者に対する「支えるスポーツ」を実践しながら、地域住民と学生とが交流し、喜びを味わえるレクリエーション活動の体験を通して、今後の生涯スポーツ・生涯学習の振興とレクリエーション活動活性化の一助になることを目標とする。

《成績評価の方法》
課題　80%
授業の取組　20%

《教科書》
適宜プリントを配布する。

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
各イベントごとに振り返り、問題点を提示・提案し考えることができるようにする。

《成績評価基準》
心を元気にするレクリエーション活動を達成するために、楽しみながら事業に参加し、あるいは指導してスポーツレクリエーションの魅力を肌で感じ、まとめることができる。また、イベントに対する企画・運営についても順序立ててまとめ、情報を共有し計画的に安全に事業を実行することができる。さらに、実行後に振り返り次のイベントに活かすことができる。

《参考図書》
「ニュースポーツ百科」大修館書店

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、後期計画について	後期の計画を立て、各イベントの役割を考えておく（1時間） 計画を振り返り、ゼミ生の一員としての役割を自覚しておくこと（1時間）
2	福浜健康体操について	前期をもとに運動内容を考え、準備しておくこと（1時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（1時間）
3	福岡市スポーツフェタブース計画について	昨年度の資料をもとにテーマおよび内容を考え、準備しておくこと（1時間） 様々な意見をまとめて、より良いイベントになる方法を考えておくこと（1時間）
4	福浜健康体操	対象者に適した運動・ゲームを前期の指導をもとに考えておくこと（1時間） 対象者のサポートをして振り返ること（1時間）
5	福岡市スポーツフェスタ指導参加について	計画の中で、参加者に対しての立ち居振る舞いを考えておくこと（1時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習して6 おくこと（1時間）
6	福岡市スポーツフェスタ指導参加について	計画の中で、参加者に対しての立ち居振る舞いを考えておくこと（1時間） PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習して6 おくこと（1時間）
7	秋の公園で遊ぼうについて	ブースでの遊びをレク財とし、計画を立案し調べておくこと（1時間） 体験してサポート法を考えること（1時間）
8	秋の公園で遊ぼうについて（指導参加）	運動遊びのロールプレイをしておくこと（1時間） 対象者のサポートをして振り返ること（1時間）
9	秋の公園で遊ぼうについて（指導参加）	運動遊びのロールプレイをしておくこと（1時間） 対象者のサポートをして振り返ること（1時間）
10	福岡市障がい者スポーツ大会について	対象者の特徴について考え、サポート行動をまとめておくこと（1時間） 自分の役割や行動を振り返り、次に活かせるように復習しておくこと（1時間）
11	福岡市障がい者スポーツ大会について	対象者の特徴について考え、サポート行動をまとめておくこと（1時間） 今回のイベントで学んだ内容を振り返っておくこと（1時間）
12	シーサイドももち駅伝について	安全を第一に、自分の役割や行動について考え、まとめておくこと（1時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（1時間）
13	シーサイドももち駅伝について	安全を第一に、自分の役割や行動について考え、まとめておくこと（1時間） 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（1時間）
14	福浜健康体操	対象者に適した運動・ゲームを考えておくこと（1時間） 対象者のサポートをして振り返ること（1時間）
15	ゼミナール活動のまとめ	後期での学びをまとめておくこと（1時間） これまでに学んだ内容を復習しておくこと（1時間）

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	高木　富士男				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年　（後期）
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 ◎　1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》
スポーツイベント等に参加するとともに、自らもスポーツイベントの企画運営に取り組む。
また、論文提出に向けた研究・調査・文作成を行う。

《教科書》
プリントを配布する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

《授業の到達目標》
1.スポーツ活動を自ら楽しみ、短期大学卒業後も障がいの有無にかかわらず多くの方のスポーツをサポートできる。
2.健康・スポーツに関する疑問や課題を発見し、その解決に向けて調査・考察することができる。

《成績評価基準》
課題提出30%、授業の取組20%、卒業研究の取組（論文作成・発表）50%

《成績評価の方法》
課題　　30%
授業の取組　20%
その他（卒業研究の取組）　50%

《参考図書》
大学生学びのハンドブック［5訂版］世界思想社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	予習：福祉および障がい者に関するニュースを調べる（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
2	ポートフォリオ作成①	予習：夏期休暇の各自の取り組みを振り返りまとめる（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
3	スポーツイベントの企画①	予習：スポーツイベントの企画を考える（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
4	スポーツイベントの企画②	予習：スポーツイベントの企画を考える（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
5	スポーツイベントの実践①	予習：スポーツイベントの準備をする（60分） 復習：スポーツイベントを振り返り課題に取り組む（60分）
6	スポーツイベントの実践②	予習：スポーツイベントの準備をする（60分） 復習：スポーツイベントを振り返り課題に取り組む（60分）
7	卒業論文について①	予習：先行研究（論文）を検索し一読する（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
8	卒業論文の作成①	予習：先行研究（論文）を検索し一読する（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
9	卒業論文の作成②	予習：各自の作成論文を読み直す（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
10	卒業論文の作成③	予習：各自の作成論文を読み直す（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
11	スポーツイベントの実践③	予習：スポーツイベントの準備をする（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
12	スポーツイベントの実践④	予習：スポーツイベントの準備をする（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
13	卒業論文の作成④	予習：各自の作成スライドをチェックする（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
14	卒業論文の作成⑤	予習：発表準備をする（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
15	ポートフォリオ完成 後期のまとめ	予習：後期の取り組みをまとめる（60分） 復習：1年を振り返り課題に取り組む（60分）

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	小川　茜				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年　（後期）
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 ◎　1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》

「キッズスポーツを支える人材」を目指し、学内外でのスポーツイベント、ボランティアに積極的に関わっていきます。学内の子ども向けイベントにおいて企画立案・指導を行います。積極的、主体的に取り組むこと、また責任感ある行動を期待します。
楽動塾、キッズスポーツフェスティバルの実行委員会として活動します。「西短大の体育館であそぼう！」では中心的役割を担います。

《授業の到達目標》

1．キッズスポーツ、幼児体育を支える人材および社会人として相応しい知識、態度を身に付ける
2．幼児体育や心理学、スポーツ心理学などの専門知識とスキルを身に付ける
3．スポーツ指導に必要な積極性、協働性、プレゼンテーション力、文章力を身に付ける

《成績評価の方法》

筆記試験　%　レポート　%
課題　%　実技　50%
授業の取組　50%
その他（　　）　%

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

各提出物は評価・フィードバックをした上で返却します

《成績評価基準》

1．専門的知識や態度、指導力が身に付いている
2．社会人としての教養が身に付いている

《参考図書》

「大学生学びのハンドブック（3訂版）」世界思想社編集部（編）世界思想社、「就職活動ハンドブック」西短進路指導部

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	イベント準備①	必要な情報を集める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
2	指導実践①	自身が担当する役割を進める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
3	イベント準備②	自身が担当する役割を進める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
4	指導実践②	必要な情報を集める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
5	イベント準備③	自身が担当する役割を進める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
6	イベント準備④	自身が担当する役割を進める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
7	イベント準備⑤	自身が担当する役割を進める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
8	イベント振り返り	イベントでの自身の活動をまとめる（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
9	個人面談	進路に関する準備（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
10	個人面談	進路に関する準備（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
11	イベント準備⑥	自身が担当する役割を進める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
12	指導実践③	必要な情報を集める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
13	個人面談	進路に関する準備（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
14	イベント準備⑦	自身が担当する役割を進める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）
15	指導実践④	必要な情報を集める（30分）・今回の授業内容の復習（30分）

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	坂元　瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年　（後期）
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○　1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 ◎　1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》
スポーツイベントや指導実践を通して、スポーツに携わる指導者としての基本的な能力や態度の育成を目指します。主に、キッズスポーツのイベント参加や実践を行います。
「JFA公認キッズリーダー」を取得済みまたは取得予定である方が望ましい。

《授業の到達目標》
1．スポーツイベントや指導実践を通して、積極性、協働性を身に付ける
2．様々な場面での指導法について考える力を身に付ける
3．スポーツに携わる人材として、相応しい知識、態度を身に付ける

《成績評価の方法》
課題　30%
実技　50%
授業の取組　20%

《教科書》
使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
提出課題は評価・フィードバックをした上で返却します。

《成績評価基準》
1．スポーツイベントや指導実践の活動に、積極的かつ主体的に参加することができる
2．場面に応じた行動や指導を行うことができる
3．プレゼンテーションのスキルを身に付け、コミュニケーションをとることができる

《参考図書》
適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	後期の活動について計画する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
2	イベントの計画及び準備①	自身の役割を確認し、準備・実行する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
3	イベントの計画及び準備②	必要な情報を集める（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
4	指導実践①	指導現場での行動・指導法について考える（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
5	イベントの振り返り	イベントでの自身の活動をまとめる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
6	キッズスポーツイベントの計画と準備①	必要な情報を集める（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
7	キッズスポーツイベントの計画と準備②	自身の役割を確認し、準備・実行する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
8	キッズスポーツイベントの計画と準備③	自身の役割を確認し、準備・実行する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
9	指導実践②	指導現場での行動・指導法について考える（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
10	キッズスポーツイベントの振り返り	キッズスポーツイベントでの自身の活動をまとめる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
11	キッズイベントの計画と準備①	必要な情報を集める（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
12	キッズイベントの計画と準備②	自身の役割を確認し、準備・実行する（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
13	指導実践③	指導現場での行動・指導法について考える（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
14	ポートフォリオ作成①	後期の活動を振り返り、まとめる、（30分） 今回の授業内容の復習（30分）
15	後期まとめ、ポートフォリオ作成②	後期の活動を振り返り、まとめる（30分） 今回の授業内容の復習（30分）